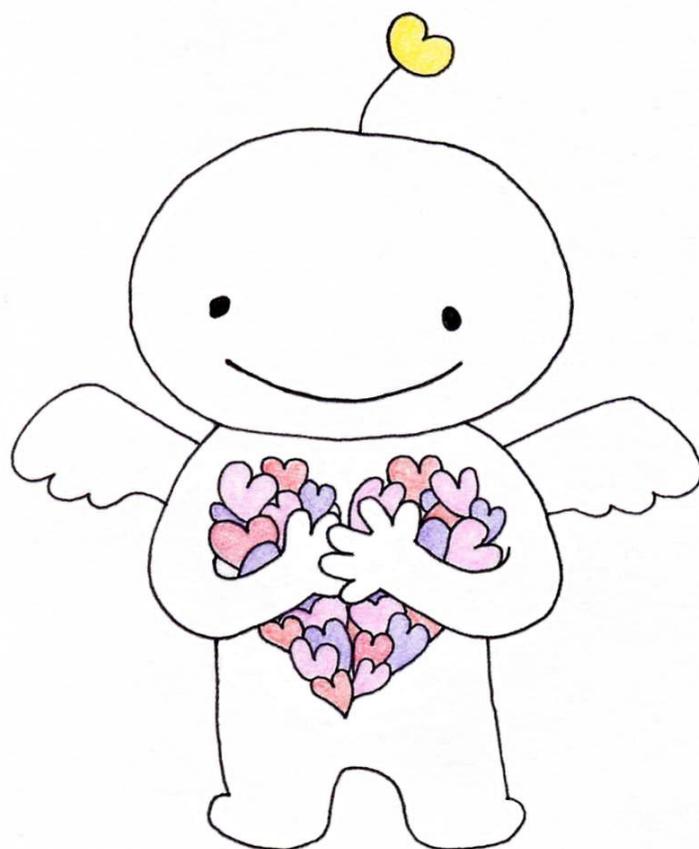


# 「共に生き合う」まちづくり

－ 第9回「人権に関する市民意識調査結果」まとめ －



2023 年度

岐 阜 市



# は じ め に

岐阜市では、「人権を尊重するまちづくり」をめざして、様々な施策を推進しています。

人は、互いに向き合い、かかわり合い、響き合い、支え合う「相互関係」の中で、生き合っています。互いの人権を尊重するためには、大人から子どもまで、障がいのある人も、外国人も、共に知り合い、「心と心を通い合わせて相手を思いやるまち」を築くことが必要です。そのためには、あいさつやふれあいの場が必要です。

相手のことを理解し、思いやるためには、「正しく知ること」が必要です。障がいのある人のことや部落差別（同和問題）、エイズやハンセン病などについて、正しく知ることによって、はじめてその苦しみや悩みを理解でき、相手を思いやることができるのです。そのため、研修会に参加したり、学習会を開催したりすることは、「人権を尊重するまちづくり」を進める上で大切なことです。

岐阜市では、市内 50 地域において、人権教育推進委員会を中心に、市民主体で企画・運営する研修会が実施されています。また、学校においてもブロックごとの人権教育研究会を中心に、実践研究を深めながら取組が進められています。

さて、これまで岐阜市において進めてきた教育・啓発活動の成果を確かめ、今後の課題を明らかにするために、第 9 回の「人権に関する市民意識調査」を実施いたしました。多くの市民の皆様にご協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。今回の調査結果を過去の調査結果と比較しますと、岐阜市の人権教育・啓発の取組が着実に成果を上げていることがわかります。

なお、調査とまとめに当たっては、岐阜市人権教育・啓発推進専門委員会第 3 専門部会の皆様に、設問作成の段階からご検討をお願いし、同専門委員会全体会でもご意見をいただきました。また、岐阜市人権教育・啓発推進協議会、岐阜市同和行政推進協議会におきましても、様々な観点からのご助言をいただくことができました。こうしたご尽力・ご協力に対し、深甚の敬意と謝意を表する次第です。

最後になりましたが、「人権を尊重するまちづくり」を市民の皆様と協働で、鋭意推進してまいりますので、今後とも、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2024（R6）年 3 月

岐阜市市民協働推進部人権啓発センター

# 目 次

I	第9回「人権に関する市民意識調査」の概要	1
II	第9回「人権に関する市民意識調査」の結果	3
	・集計結果の表記の仕方について	3
＜質問事項と集計結果＞		
1	人権全般（関心のある人権問題）について	4
2	女性の人権について	6
3	女性の人権（DVの問題）について	8
4	子どもの人権について	10
5	子どもの人権（いじめの問題）について	12
6	子どもの人権（虐待の問題）について	14
7	高齢者の人権について	16
8	高齢者の人権（虐待の問題）について	18
9	障がいのある人の人権（法律に関する知識）について	20
10	障がいのある人の人権について	22
11	障がいのある人の人権（虐待の問題）について	24
12	障がいのある人の社会参加について	26
13	同和問題（法律に関する知識）について	28
14-1	同和問題を知らせた人について	30
14-2	同和問題に関して知った内容について	32
15	同和問題解決の方策について	34
16	同和地区の出身者との結婚について	36
17	外国人の人権（法律に関する知識）について	38
18	外国人とのつきあいについて	40
19	外国人の人権について	42
20	エイズ患者・HIV感染者の人権について	44
21	ハンセン病回復者等の人権について	46
22	新型コロナ感染者等の人権について	48
23	刑を終えて出所した人の人権について	50
24	犯罪被害者等の人権について	52
25	インターネットの悪用による人権侵害の問題について	54
26	インターネットの悪用による人権侵害について	56
27	性的少数者とのつきあいについて	58
28	性的少数者の人権について	60
29	アイヌの人々（アイヌ民族）の人権について	62
30	ホームレス状態にある人の人権問題について	64
31	ホームレス状態にある人の人権問題の解決について	65
32	職場での人権問題について	66
33	差別的な発言や行動に対する態度について	68
34	人権問題の解決の方策について	70
35	人権に関する研修会への参加について	72
36	「偏見・差別」の問題や「人権」に関する意見の記述	73
37	回答者の年代別集計	73
＜付＞	調査票	74

# I 第9回「人権に関する市民意識調査」の概要

## 1 調査の目的・概要

岐阜市民の人権に関する意識の状況を把握し、人権が尊重される社会の実現をめざした施策を推進するため、2020（R2）年3月に策定した「第3次岐阜市人権教育・啓発行動計画」の進捗状況を検証する基礎資料とし、人権を大切にする文化を市民にアピールする。

- ① 「人権に関する市民意識調査」は、1984（S59）年から5年ごとに実施してきており、調査項目については、過去の8回の調査を踏まえつつ、新たな人権課題の調査項目を取り入れ、社会の変化に対応できるように配慮した。
- ② 岐阜市では、2020（R2）年度より「第3次岐阜市人権教育・啓発行動計画」（2020（R2）～2029（R11）年度）を策定し、「一人ひとりの人権を尊重するまちづくり」を推進している。「第3次岐阜市人権教育・啓発行動計画」に掲げられた人権課題についての意識を調査し、人権意識を高める教育や啓発の成果と課題を明らかにして、「第3次岐阜市人権教育・啓発行動計画」の進捗状況を検証する基礎資料とする。
- ③ 意識調査の実施及びまとめ冊子を作成・配布し、人権の大切さ、人権擁護の課題、岐阜市の教育・啓発の成果と課題などについて広く市民にアピールする。

## 2 対象・抽出法・調査方法

岐阜市全域の市民18歳以上3,000人を対象  
住民基本台帳による無作為抽出法  
無記名方式（郵送配布、郵送・WEB回収）

## 3 調査の項目（36項目）

- |   |      |
|---|------|
| ① 人権課題に関する設問  | 32項目 |
| 人権全般、女性、子ども、高齢者、障がいのある人、部落差別（同和問題）、外国人、エイズ患者・HIV感染者等、ハンセン病回復者等、新型コロナ感染者等、刑を終えて出所した人、犯罪被害者等、インターネットを悪用した人権侵害、性的少数者、アイヌの人々、ホームレス状態にある人、職場での人権などに関する考え方や意識について問いかける。 |      |
| ② 人権問題や人権教育に対する態度や考え方に関する設問   | 3項目  |
| ③ 「偏見・差別」の問題や「人権」に関する意見の記述  | 1項目  |

## 4 調査期間

2023（R5）年7月19日（水）～8月10日（木）

## 5 回収状況

区 分	発送数 A	宛先不明等での 返送数 B	回収数 C	無効回答数 D	有効回収率 (C-D) / (A-B) %
人 数	3,000 人	5 人	1,476 人 (うち、郵送：1,203 人 WEB：273 人)	3 人	49.2%

## 6 標本構成

### 年齢別構成

年 齢	総 数	18～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳以上	未記入
人 数	1,473 人	20 人	91 人	132 人	198 人	248 人	296 人	451 人	37 人
百分率	100.0%	1.4% (▲)	6.2%	9.0%	13.4%	16.8%	20.1%	30.6%	2.5%

▲…18～19 歳の回答者数は 20 人、回答総数の 1.4%と非常に少ない値ですが、人権意識が高い若者の存在を示すデータとして、本冊子各ページの年代別集計においてそのまま掲載しています。

## 7 その他

質問によっては、用語の変遷等を踏まえて、文言を必要最小限の範囲で修正しました。



## II 第9回「人権に関する市民意識調査」の結果

集計結果の表記の仕方について 設問ごとに、見開き2ページに次のようにまとめてあります。

(※設問によっては、1ページの中でまとめている場合があります。)

- 人権全般（関心のある人権問題）等の複数回答の設問については、棒グラフ化し、解説が記述してあります。

左頁 全体で何パーセントの人が選んだかを棒グラフにしてあります。

右頁 年代別で何パーセントの人が選んだかを棒グラフにしてあります。

- 人権課題等の単一回答の設問

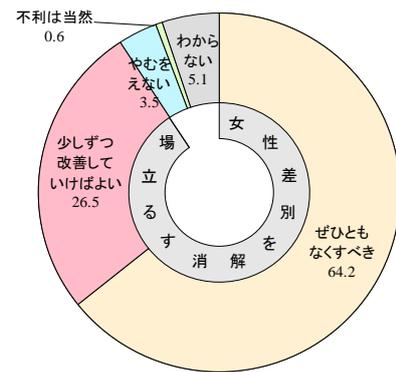
左頁

- ・調査票の質問と選択肢が掲載してあります。

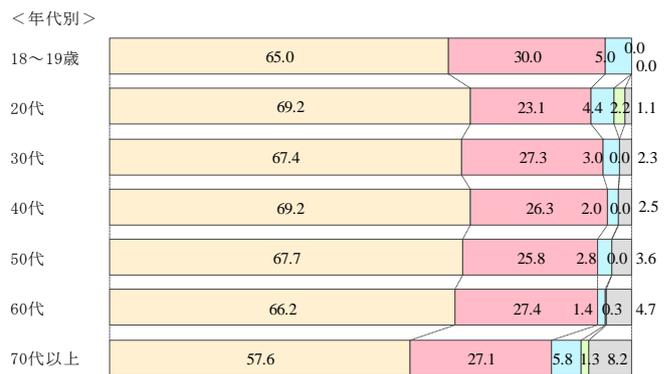
**【質問○】 あなたの、・・・**

1. ....
2. ....

- ・単純集計をパーセントに直して円グラフ化し、その解説が記述してあります。  
(どのグラフも数字は%です。)

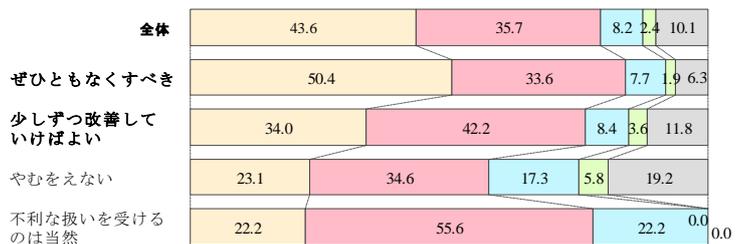


- ・年代別に、どの選択肢を選んだかについて、棒グラフにしてあります。



右頁

- ・他の設問の回答とクロス集計し、関連が強かったものをグラフで掲載し、その解説が記述してあります。

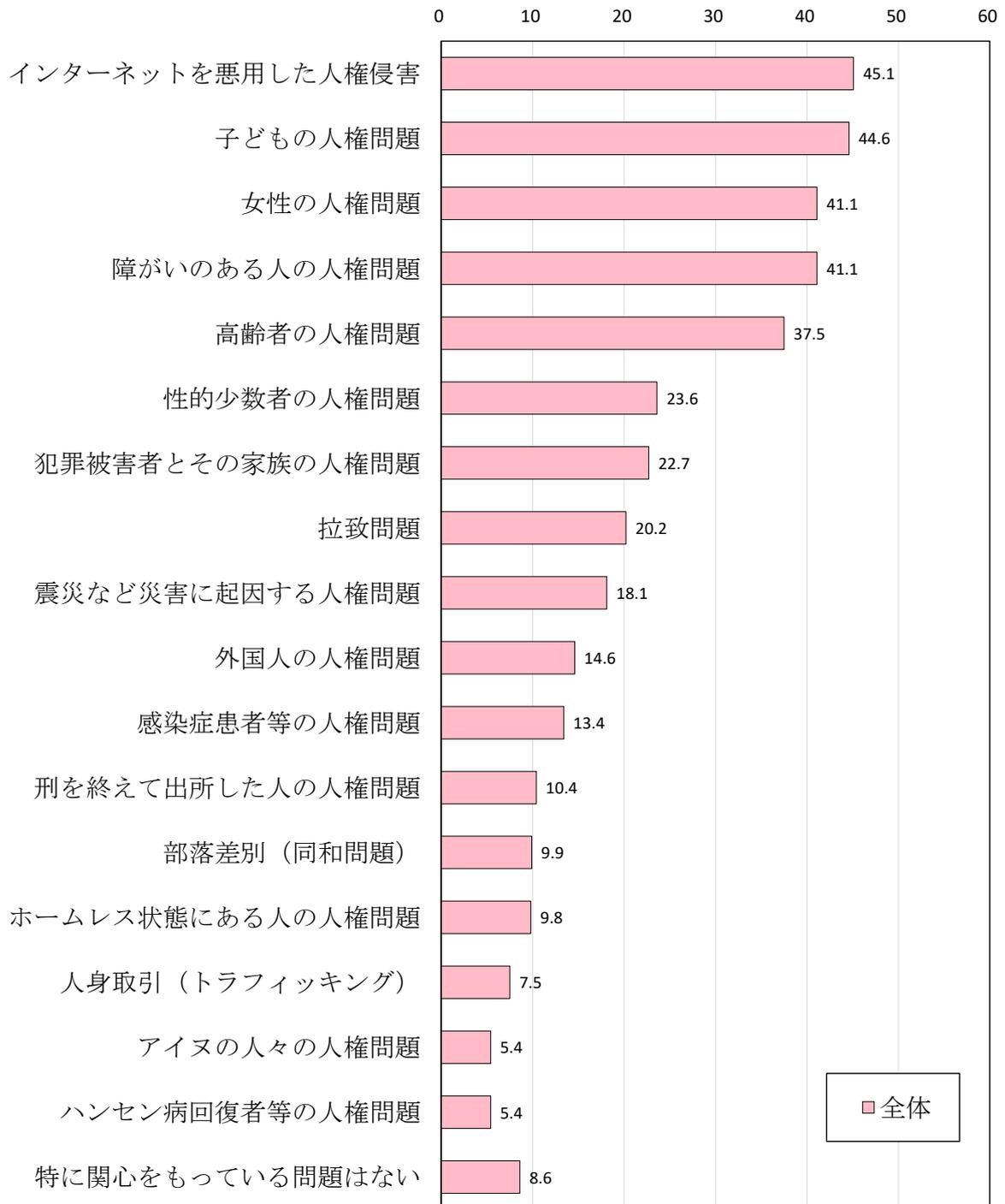


# 1 人権全般（関心のある人権問題）について

【質問1】 以下にあげた各人権問題の中で、あなたが現在関心をもっているものは、どの問題ですか。次の中から、関心があるものをいくつでも選んでください。

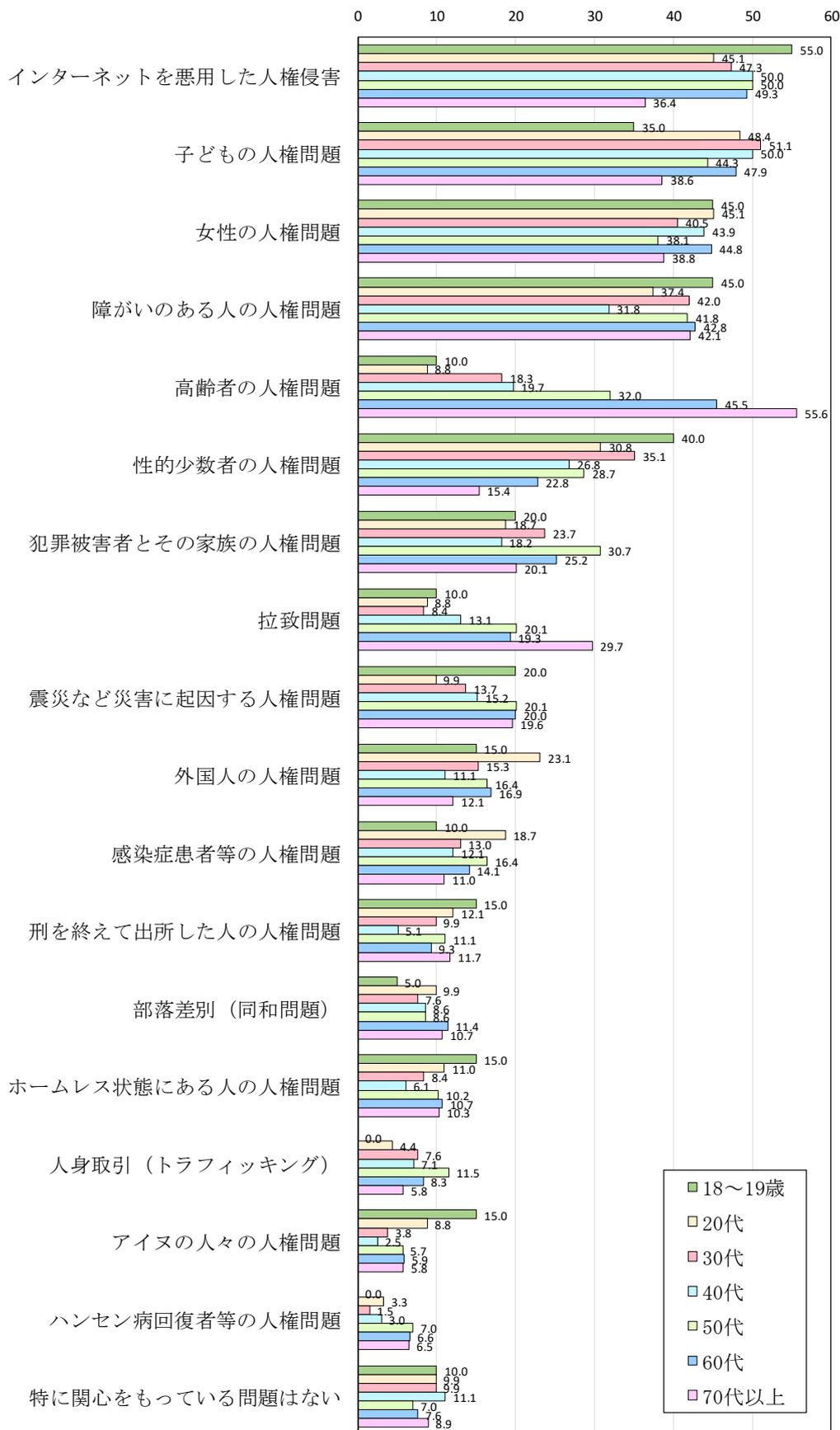
関心のある人権問題についての意識の状況を調査した。（グラフの数字は%・複数回答）

《全体集計》



- ・ 「インターネットを悪用した人権侵害」と答えた人が 45.1%、「子どもの人権問題」と答えた人が 44.6%、「女性の人権問題」と答えた人が 41.1%、「障がいのある人の人権問題」と答えた人が 41.1%、「高齢者の人権問題」と答えた人が 37.5%の順に関心が高い。

《年代別集計》



- ・「高齢者の人権問題」については、年齢が高い世代ほど関心が高い。
- ・「性的少数者の人権問題」については、年齢が低い世代ほど関心が高い。

## 2 女性の人権について

【質問2】 家庭や地域、あるいは職場などにおいて、「女のくせに」と言われたり、「女性だから」ということで不利な扱いを受けたりする場面があることについて、あなたはどのように考えますか。あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. 女性だからといって差別するようなことは、ぜひともなくすべきである。
2. 女性差別はよくないが、少しずつ改善していけばよい。
3. 男性と比べて、女性がいくらか不利な扱いを受けるのは、やむをえない。
4. 社会が男性中心に動いているので、女性が不利な扱いを受けるのは当然だ。
5. わからない。

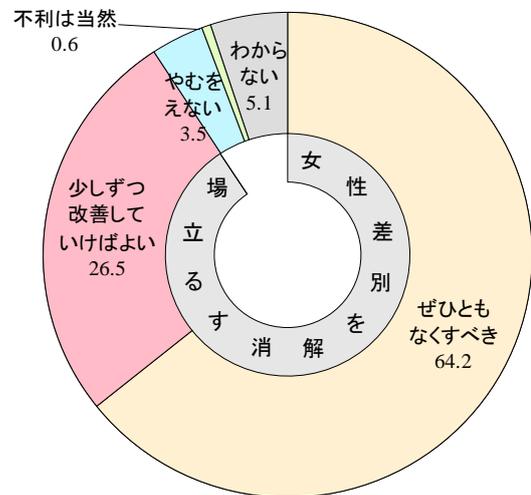
女性の人権（女性差別）についての意識の状況を調査した。（グラフの数字は%）

### 単純集計

約91%の人が女性差別を解消する立場で考えている。

「女性だからといって差別するようなことは、ぜひともなくすべきである」は、64.2%で最も多く、「少しずつ改善していけばよい」と答えた人は、26.5%である。両者を合わせると、90.7%の人が女性差別を解消する立場で考えている。

女性が不利な扱いを受けることについて「やむをえない」と答えた人は3.5%で、「当然だ」と答えた人は0.6%である。



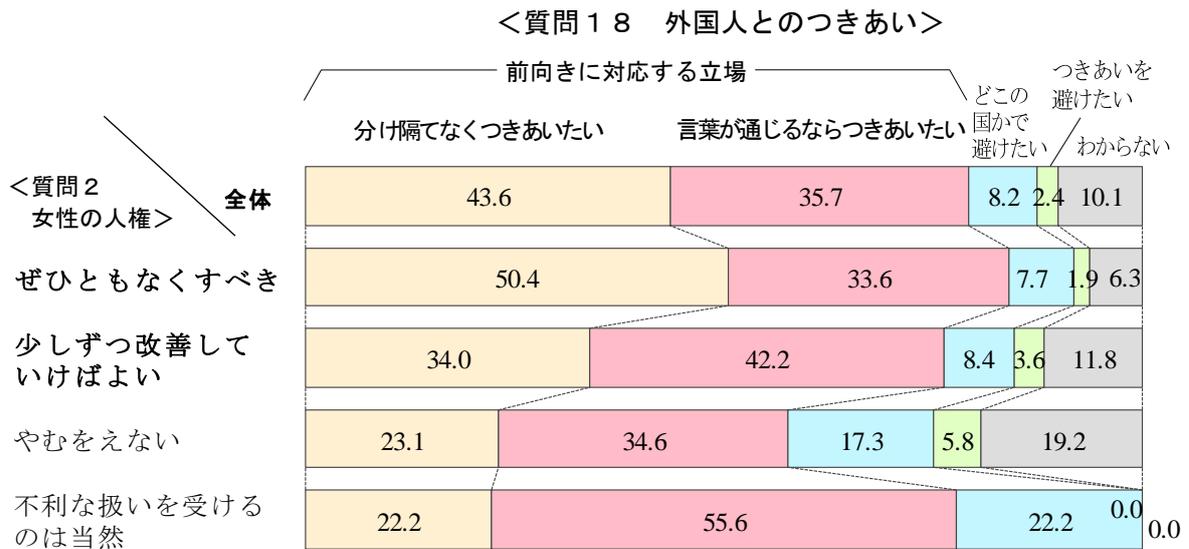
### 年代別集計

70代以上を除くすべての年代で、女性差別を解消する立場で考えている人が9割を超えている。



クロス集計

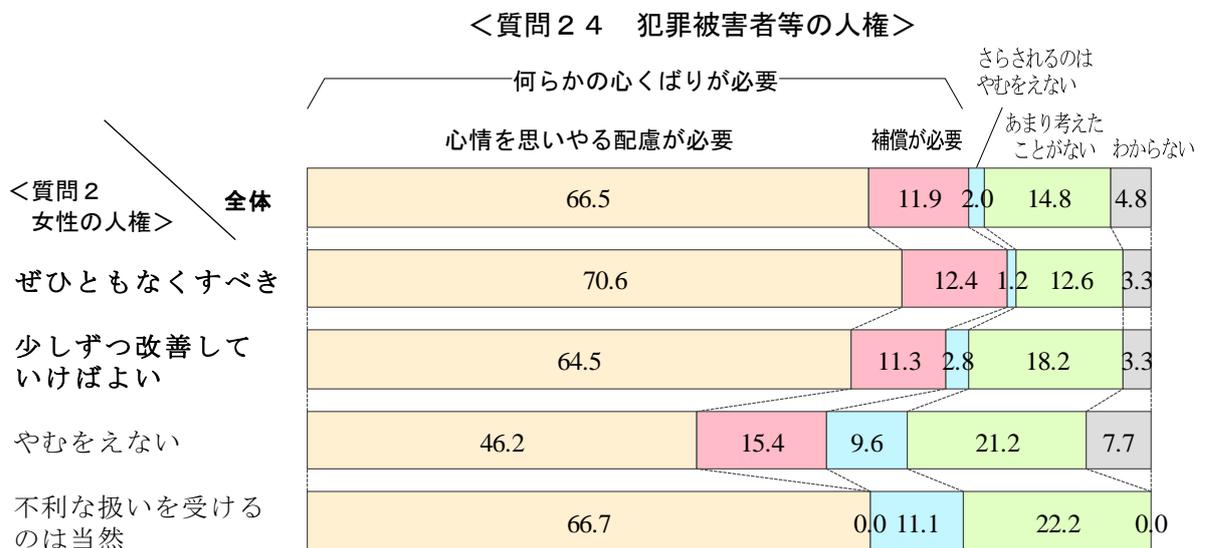
女性に対する差別について、「ぜひともなくすべき」と考えている人ほど、外国人とのつきあいを前向きに考える立場の人の割合が高い。



女性に対する差別について、「ぜひともなくすべき」と答えた人の中で、外国人とのつきあいについて「分け隔てなくつきあいたい」と答えた人は、50.4%で最も多い。

一方、女性に対する差別について、「不利な扱いを受けるのは当然」と答えた人の中で、外国人とのつきあいについて「どこの国かで避けたい」と答えた人は、22.2%で比較的多い。

女性に対する差別について、「ぜひともなくすべき」と考えている人ほど、犯罪被害者等への何らかの心くばりが大切だと考えている人の割合が高い。



女性に対する差別について、「ぜひともなくすべき」と答えた人の中で、犯罪被害者等への「心情を思いやる配慮が必要」と答えた人は、70.6%で最も多い。

一方、女性に対する差別について、「不利な扱いを受けるのは当然」と答えた人の中で、犯罪被害者等の人権について「さらされたりすることはやむをえない」と「あまり考えたことがない」に答えた人は、合わせて33.3%で多くなっている。

### 3 女性の人権（DVの問題）について

【質問3】 あなたの知り合いの女性から、パートナーに虐待されていると相談を受けた場合、あなたはどのように行動しますか。あなたのとる行動に近いものを一つだけ選んでください。

1. 被害を受けている女性の話をよく聞き、いっしょに解決しようとする。
2. 市の相談窓口や女性センターや警察など、関係機関に連絡する。
3. 家族や友人など、身近な人に相談する。
4. 話は聞くが、特に何もできない。
5. わからない。

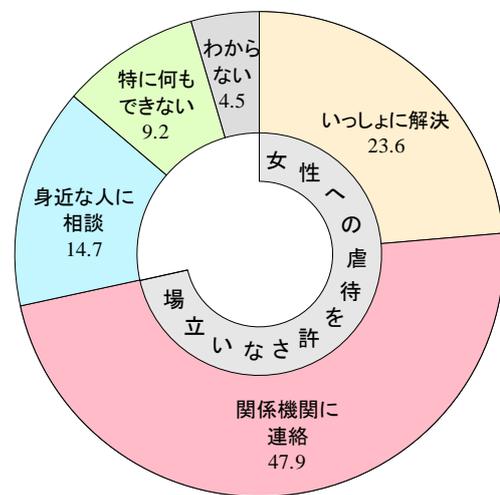
女性の人権（DVの問題）についての意識の状況を調査した。（グラフの数字は%）

#### 単純集計

71.5%の人が、女性への虐待を許さない立場で考えている。

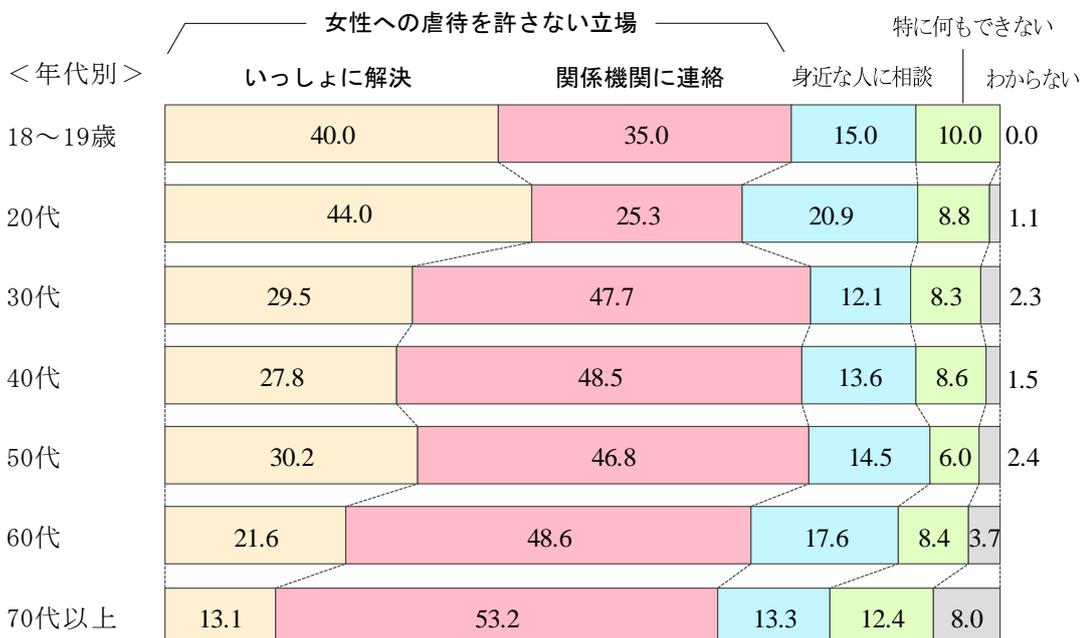
「市の相談窓口や女性センターや警察など、関係機関に連絡する」と答えた人は、47.9%で最も多く、「被害を受けている女性の話をよく聞き、いっしょに解決しようとする」と答えた人は、23.6%である。両者を合わせると、71.5%の人が女性への虐待を許さない立場で考えている。

女性への虐待について「家族や友人など、身近な人に相談する」と答えた人は14.7%で、「話は聞くが、特に何もできない」と答えた人は9.2%である。



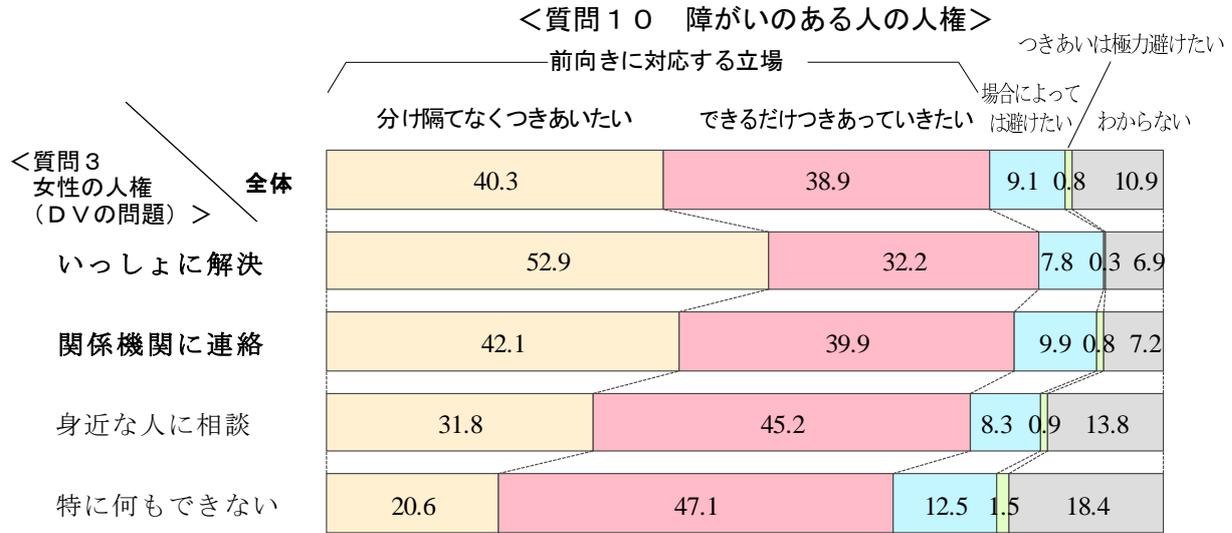
#### 年代別集計

若い世代ほど、「いっしょに解決」と答えた人の割合が高い。20代では、「身近な人に相談」と答えた人の割合がやや高い。



クロス集計

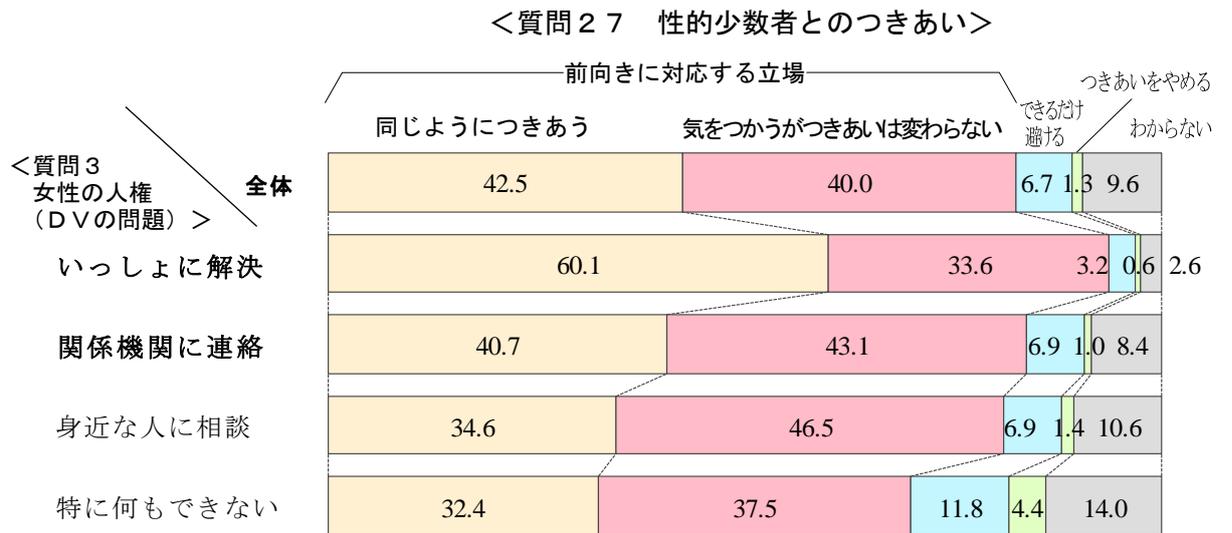
女性の人権(DVの問題)について、女性への虐待を許さない立場の人ほど、障がいのある人とのつきあいを前向きに対応する立場で考えている人の割合が高い。



女性から虐待相談を受けた場合、「いっしょに解決」と答えた人の中で、障がいのある人と「分け隔てなくつきあいたい」と答えた人が、52.9%で最も多い。

一方、女性から虐待相談を受けた場合、「特に何もできない」と答えた人の中で、障がいのある人とのつきあいについて「場合によっては避けたい」と「つきあいは極力避けたい」に答えた人は、合わせて14.0%でやや多い。

女性の人権(DVの問題)について、女性への虐待を許さない立場の人ほど、性的少数者とのつきあいを前向きに考えている人の割合が高い。



女性から虐待相談を受けた場合、「いっしょに解決」と答えた人の中で、性的少数者と「同じようにつきあう」と答えた人が、60.1%で最も多い。

一方、女性から虐待相談を受けた場合、「特に何もできない」と答えた人の中で、性的少数者とのつきあいについて「できるだけ避ける」と「つきあいをやめる」に答えた人は、合わせて16.2%でやや多い。

## 4 子どもの人権について

【質問4】 子どもを取りまく環境には、いじめ、体罰、虐待など深刻な状況が見られます。そこで、子どもの人権を守るために、どのようなことが必要だと考えますか。あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. 子どもも大人と同じように人権があるので、家庭・学校・地域の三者が連携して、子どもの成長を支える活動に取り組む。
2. 国・県・市などが、子どもの人権を守るための事業や啓発活動を推進する。
3. 子どもの人権というよりは、まず「しつけ」を重視する。
4. 特に必要だと思うことはない。
5. わからない。

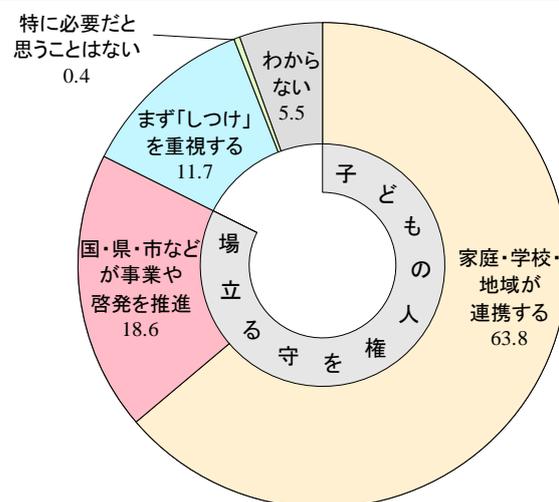
子どもの人権についての意識の状況を調査した。(グラフの数字は%)

### 単純集計

約82%の人が、子どもの人権を守る立場で考えている。

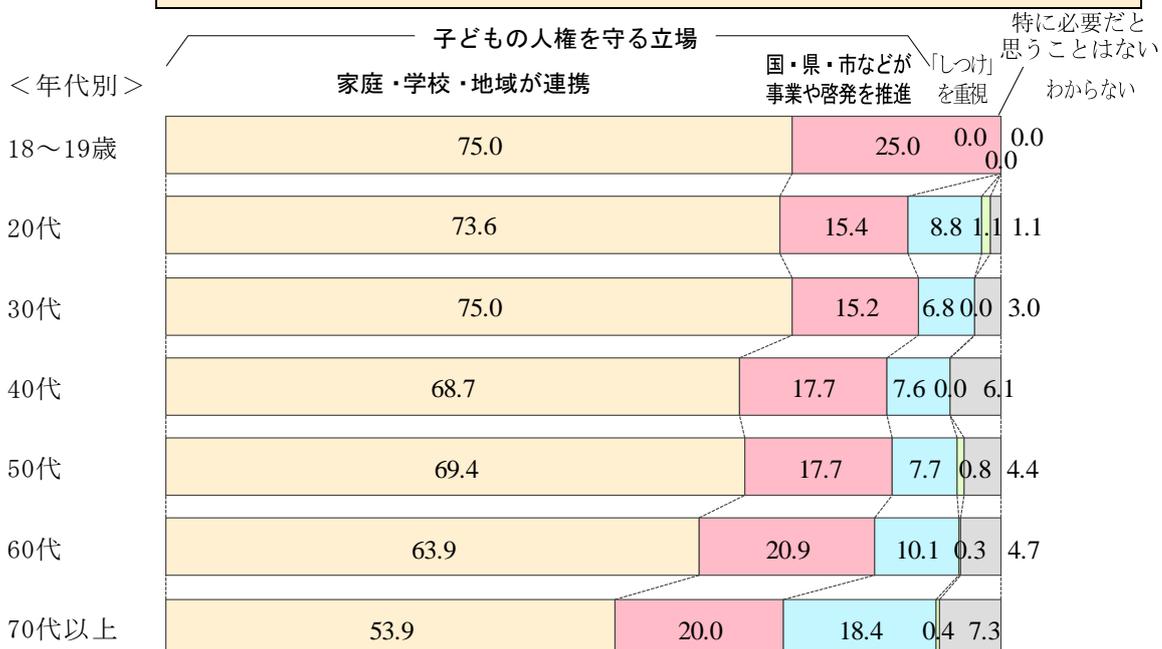
子どもの人権を守るために「子どもも大人と同じように人権があるので、家庭・学校・地域の三者が連携して、子どもの成長を支える活動に取り組む」と答えた人は、63.8%で、「国・県・市などが、子どもの人権を守るための事業や啓発活動を推進する」と答えた人は、18.6%である。子どもの人権を守る立場で考えている人は、両者を合わせると、82.4%である。

「子どもの人権というよりは、まず『しつけ』を重視する」と答えた人は、11.7%である。



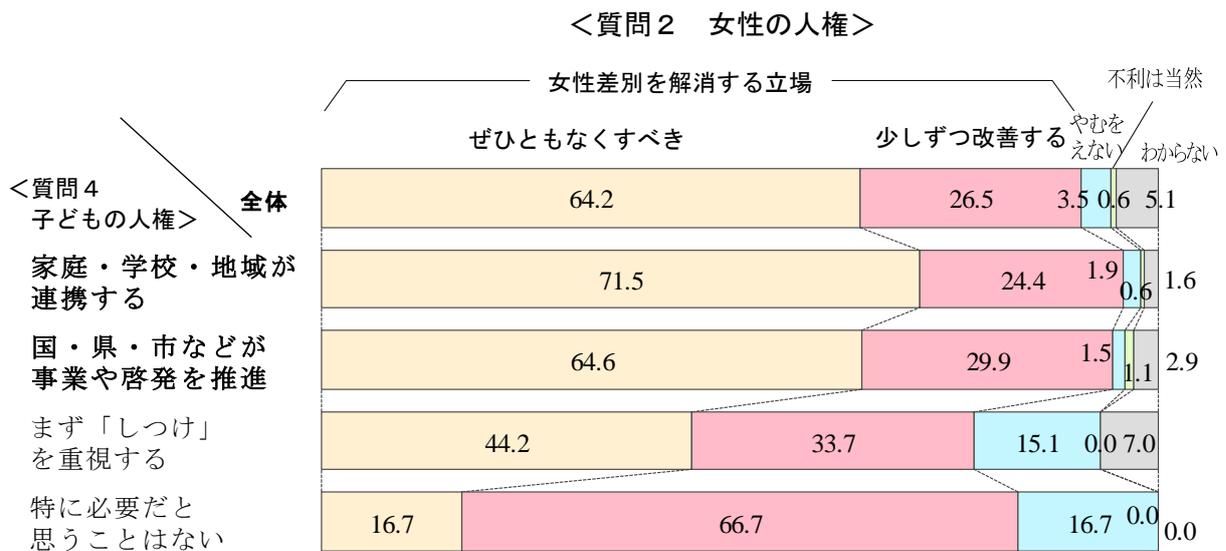
### 年代別集計

若い世代ほど、「家庭・学校・地域が連携」と答えた人の割合が高い。年代が上がるにつれて、「子どもの人権というよりは、まず『しつけ』を重視」と答えた人の割合が高い。



クロス集計

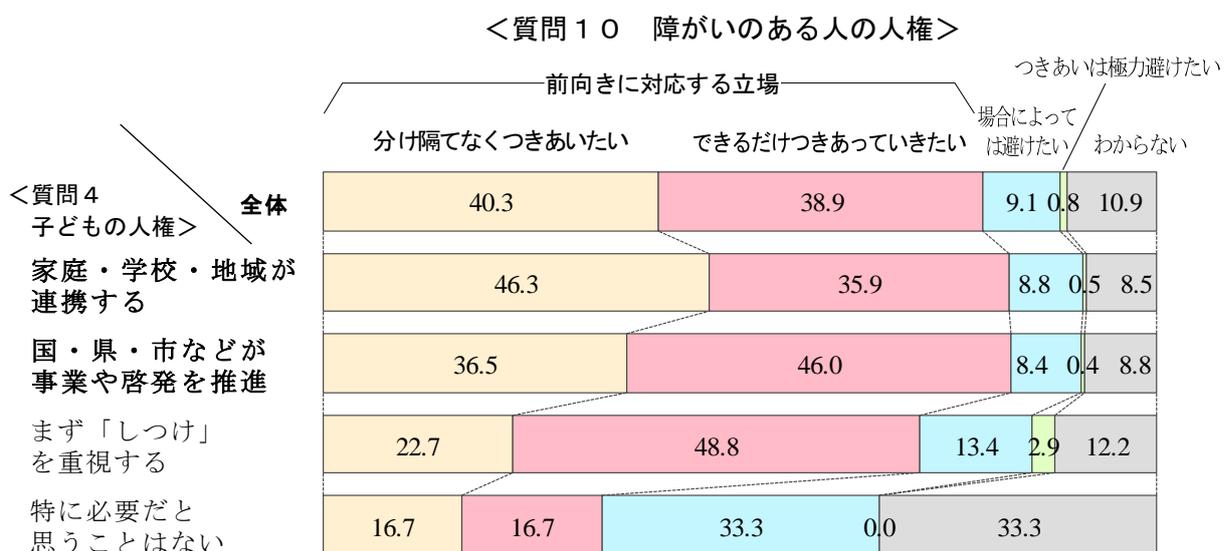
子どもの人権を守る立場で考えている人ほど、女性差別を解消する立場の人の割合が高い。



子どもの人権を守るために、「家庭・学校・地域が連携する」と「国・県・市などが事業や啓発を推進する」に答えた人の中で、女性差別を解消する立場の人は、共に90%以上となっている。

一方、子どもの人権を守るために、「まず『しつけ』を重視する」と「特に必要だと思うことはない」に答えた人の中で、女性差別について「やむをえない」と答えた人は、それぞれ15.1%と16.7%で比較的多い。

子どもの人権を守る立場で考えている人ほど、障がいのある人とのつきあいについて前向きに対応する立場で考えている人の割合が高い。



子どもの人権を守るために、「家庭・学校・地域が連携する」と「国・県・市などが事業や啓発を推進する」に答えた人の中で、障がいのある人とのつきあいについて、前向きに対応する立場の人は、共に80%以上となっている。

一方、子どもの人権を守るために、「特に必要だと思うことはない」と答えた人の中で、障がいのある人とのつきあいについて「場合によっては避けたい」と答えた人は、33.3%でやや多い。

## 5 子どもの人権（いじめの問題）について

【質問5】 あなたが偶然、子どもたち同士の「いじめ」と受けとれるような場面に出会ったとき、どのように行動しますか。あなたのとる行動に近いものを一つだけ選んでください。

1. 子どもたちに声をかけ、その場でやめさせる。
2. 学校や市などの相談窓口連絡して指導してもらう。
3. その場は何もしないが、身近な人との話題にする。
4. 自分には関係がないので、そのままにしておく。
5. わからない。

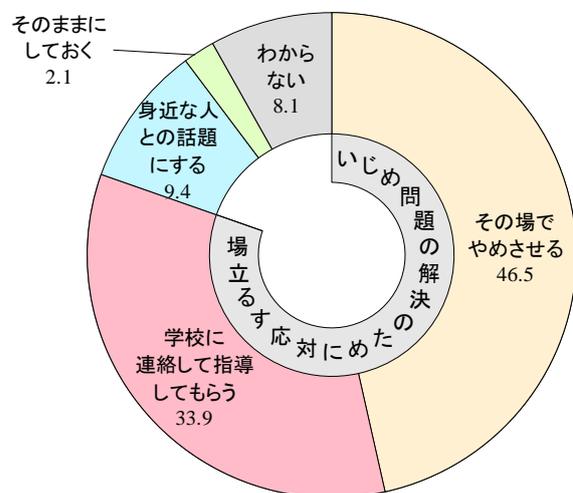
子どもの人権（いじめの問題）についての意識の状況を調査した。（グラフの数字は%）

### 単純集計

約80%の人が、「いじめ」問題の解決のために対応する立場で考えている。

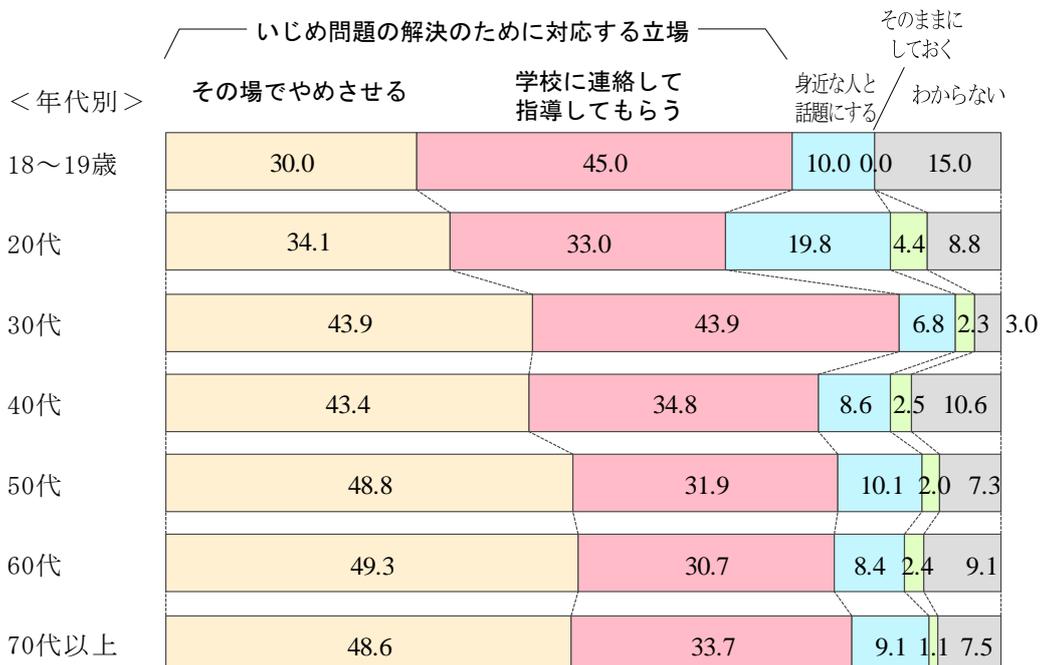
「子どもたちに声をかけ、その場でやめさせる」と答えた人は、46.5%で最も多く、「学校や市などの相談窓口連絡して指導してもらう」と答えた人は、33.9%である。両者を合わせて、80.4%の人が「いじめ」の問題について解決のために対応する立場で考えている。

「その場は何もしないが、身近な人との話題にする」と答えた人は9.4%で、「自分には関係がないので、そのままにしておく」と答えた人は2.1%である。



### 年代別集計

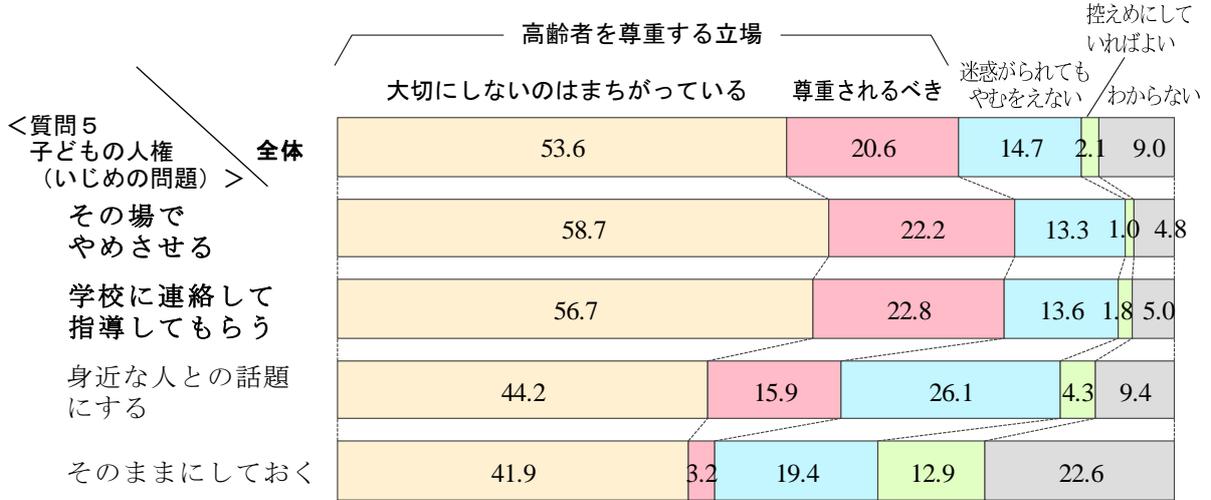
30代で「いじめ」問題の解決のために対応する立場で考えている人の割合が高く、20代で「身近な人との話題にする」と答えた人の割合が比較的高い。



クロス集計

「いじめ」問題の解決のために対応する立場で考えている人ほど、高齢者を尊重する立場で考えている人の割合が高い。

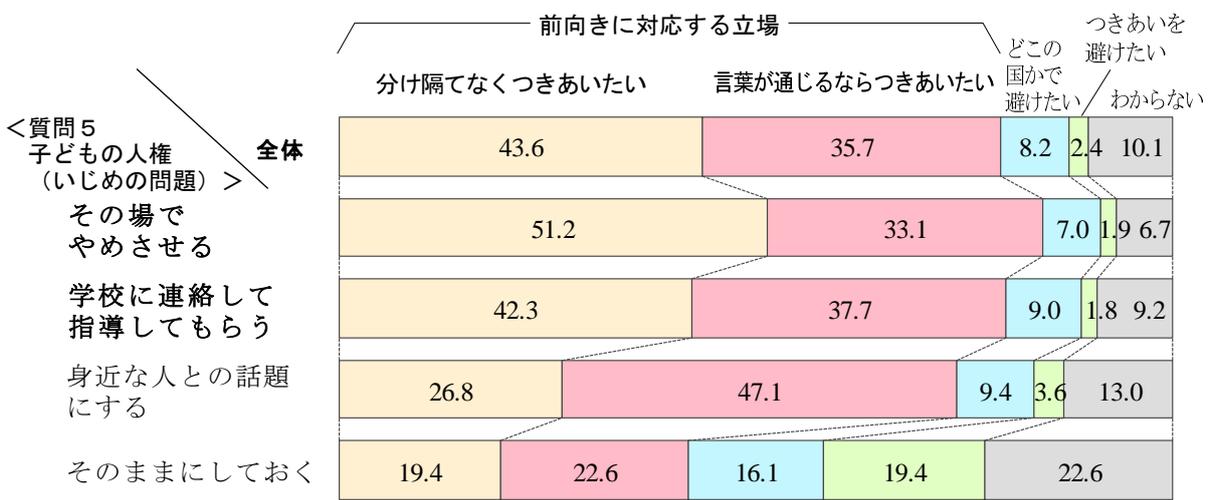
<質問7 高齢者の人権>



子どもの「いじめ」問題に対して、「その場でやめさせる」と「学校に連絡して指導してもらう」に答えた人の中で、高齢者を尊重する立場で考えている人は、それぞれ80.9%と79.5%が多い。  
一方、子どもの「いじめ」問題に対して、「そのままにしておく」と答えた人の中で、高齢者の人権に対して「控えめにしていればよい」と答えた人は、12.9%で比較的多い。

「いじめ」問題の解決のために対応する立場で考えている人ほど、外国人とのつきあいについて、前向きに対応する立場で考えている人の割合が高い。

<質問18 外国人とのつきあい>



子どもの「いじめ」問題に対して、「その場でやめさせる」と答えた人の中で、外国人と「分け隔てなくつきあいたい」と答えた人は、51.2%で最も多い。  
一方、子どもの「いじめ」問題に対して、「そのままにしておく」と答えた人の中で、外国人とのつきあいについて「つきあいを避けたい」と答えた人は、19.4%で比較的多い。

## 6 子どもの人権（虐待の問題）について

【質問6】 あなたの身近に住む子どもが、虐待を受けている疑いがあると感じたとき、どのように行動しますか。あなたのとる行動に近いものを一つだけ選んでください。

1. 迷わず市の相談窓口や警察、学校などに通報したり、民生委員・児童委員など、身近な人に相談したりする。
2. まず、自分で本人や家族から話を聞いてみる。
3. 虐待があることを確かめたわけではないので、通報することや相談することをためらう。
4. 他人の家庭のことに口を出さないほうがいいなどの理由から、そのままにしておく。
5. わからない。

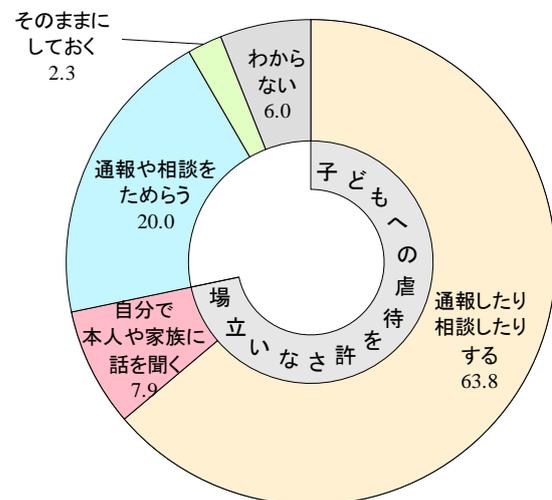
子どもの人権（虐待の問題）についての意識の状況を調査した。（グラフの数字は%）

### 単純集計

約72%の人が、子どもへの虐待を許さない立場で考えている。

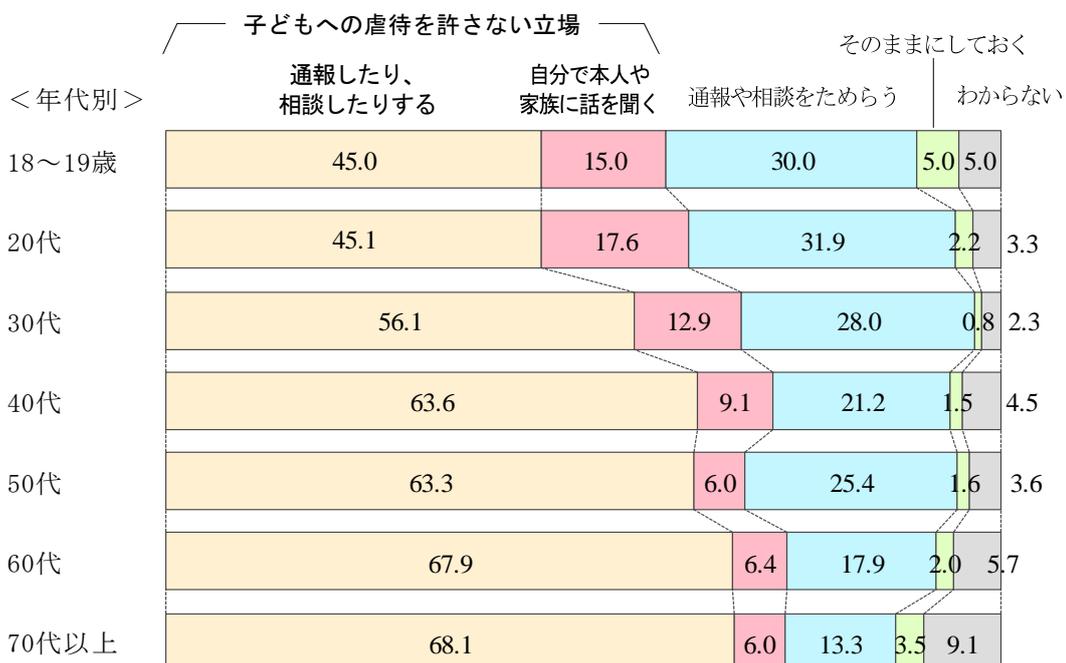
「迷わず市の相談窓口や警察、学校などに通報したり、民生委員・児童委員など、身近な人に相談したりする」と答えた人は、63.8%で最も多く、「まず、自分で本人や家族から話を聞いてみる」と答えた人は、7.9%である。両者を合わせて、71.7%の人が子どもへの虐待を許さない立場で考えている。

「虐待があることを確かめたわけではないので、通報することや相談することをためらう」と答えた人は20.0%で、「他人の家庭のことに口を出さないほうがいいなどの理由から、そのままにしておく」と答えた人は2.3%である。



### 年代別集計

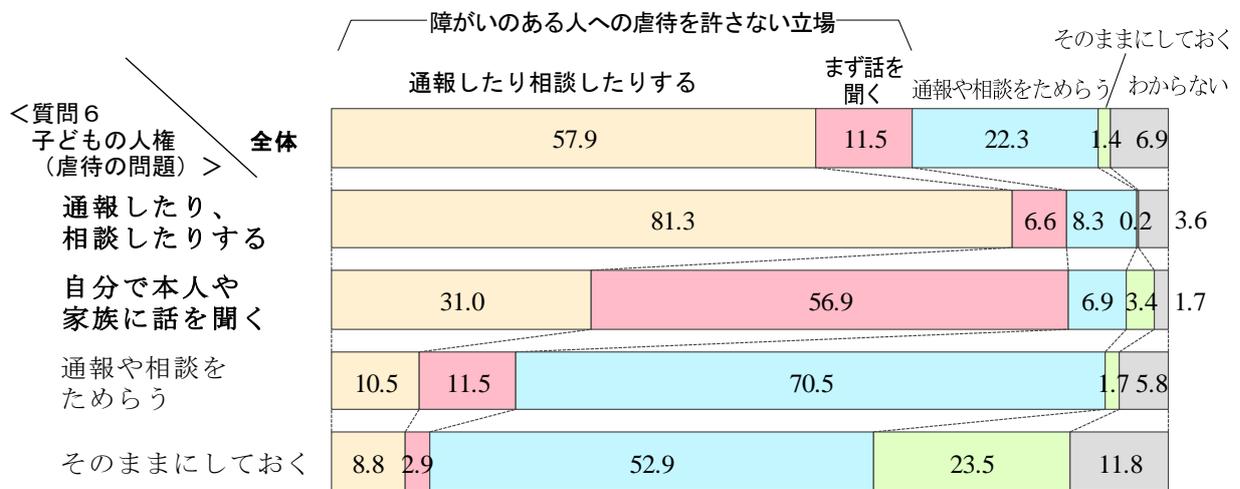
年齢が高い世代ほど、子どもへの虐待を許さない立場で考えている人の割合が高く、若い世代ほど、「通報や相談をためらう」と答えた人の割合が高い。



クロス集計

子どもへの虐待の問題について、虐待を許さない立場で考えている人ほど、障がいのある人への虐待を許さない立場で考えている人の割合が高い。

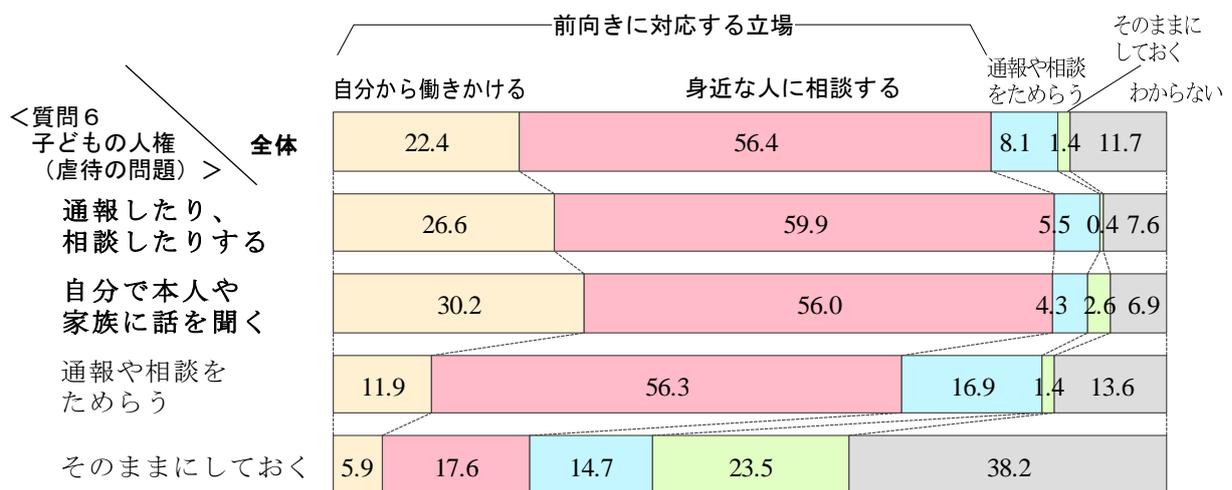
<質問 1 1 障がいのある人の人権（虐待の問題）>



子どもに対する虐待に気づいた時、「通報したり、相談したりする」と答えた人の中で、障がいのある人に対する虐待に気づいた時も「通報したり相談したりする」と答えた人は、81.3%で最も多い。一方、子どもへの虐待問題について、「そのままにしておく」と答えた人の中で、障がいのある人への虐待問題も「そのままにしておく」と答えた人は、23.5%で多くなっている。

子どもへの虐待の問題について、虐待を許さない立場で考えている人ほど、職場での人権問題について前向きに対応する立場の人の割合が高い。

<質問 3 2 職場での人権問題>



子どもに対する虐待に気づいた時、「通報したり、相談したりする」や「自分で本人や家族に話を聞く」のように、前向きに行動すると答えた人の中で、職場での人権問題についても前向きに対応する立場で考えている人は、それぞれ86.5%と86.2%で、共に80%以上となっている。

一方、子どもへの虐待問題について、「そのままにしておく」と答えた人の中で、職場での人権問題についても「そのままにしておく」と答えた人が、23.5%で多くなっている。

## 7 高齢者の人権について

【質問7】 かりに、あなたの近所で、高齢者が大切にされていないことを聞いた場合、あなたはどのように考えますか。あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. 高齢化による病気や障がいなどを理由に高齢者を大切にしないのは、まちがっている。
2. 高齢者は人生の先輩として尊重されるべきである。
3. 状況によっては、ある程度は迷惑がられてもやむをえない。
4. 高齢者は控えめにしていればよい。
5. わからない。

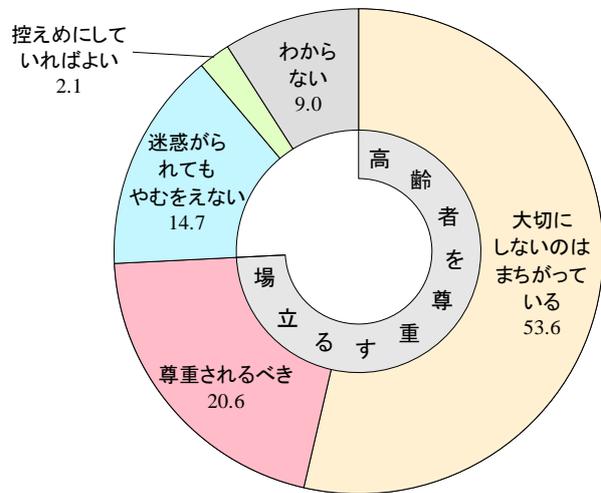
高齢者の人権についての意識の状況を調査した。(グラフの数字は%)

### 単純集計

約74%の人が、高齢者を尊重する立場で考えている。

高齢者に対して、「大切にしないのは、まちがっている」と答えた人は、53.6%で最も多く、次に「人生の先輩として尊重されるべきである」と答えた人は、20.6%である。両者を合わせると74.2%の人が、高齢者を尊重する立場で考えている。

「状況によっては、ある程度は迷惑がられてもやむをえない」と答えた人は、14.7%で、「高齢者は控えめにしていればよい」と答えた人は、2.1%である。



### 年代別集計

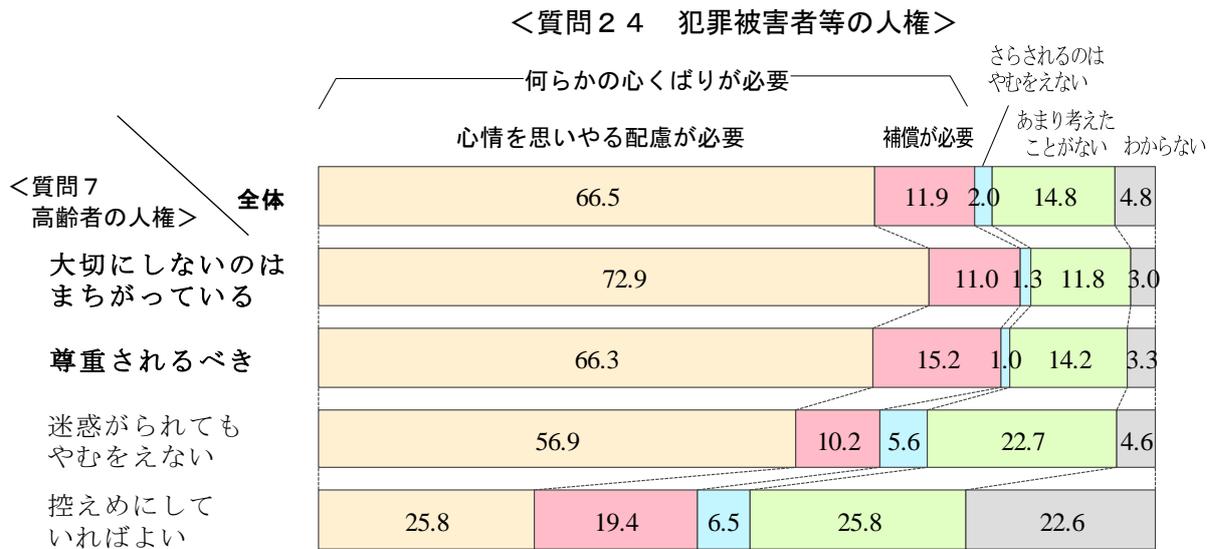
高齢者を尊重する立場で考えている人が、すべての世代で60%以上となっている。

若い世代ほど「迷惑がられてもやむをえない」と答えた人の割合が高い。



クロス集計

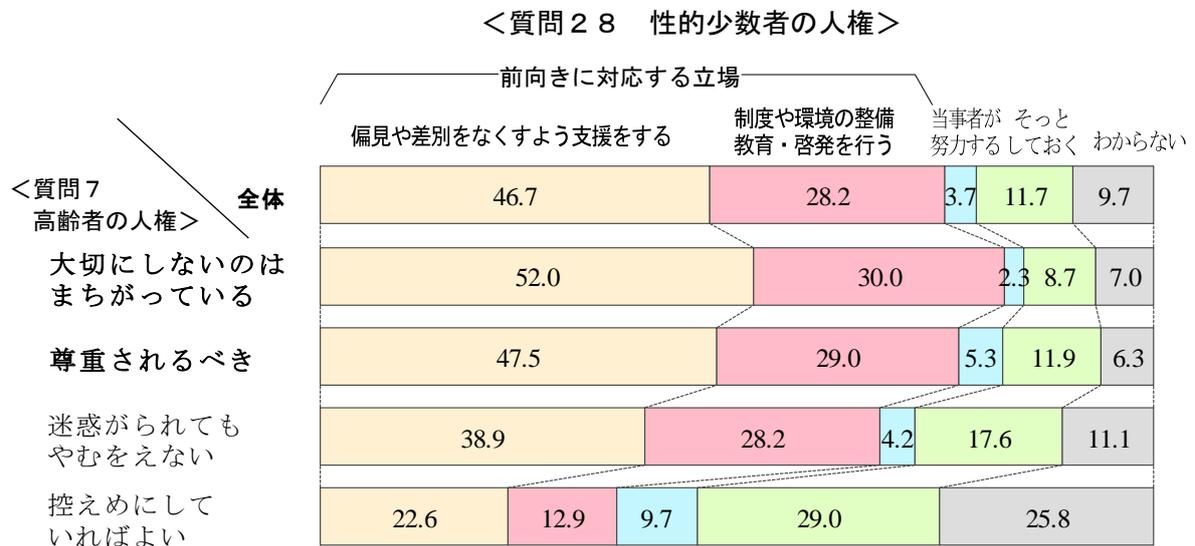
高齢者を尊重する立場で考えている人ほど、犯罪被害者等への何らかの心くばりが必要と考えている人の割合が高い。



高齢者の人権について、「大切にしないのはまちがっている」と答えた人の中で、犯罪被害者等への「心情を思いやる配慮が必要」と答えた人は、72.9%で最も多い。

一方、高齢者の人権について、「控えめにしていればよい」と答えた人の中で、犯罪被害者等の人権について「あまり考えたことがない」と答えた人は、25.8%で多くなっている。

高齢者を尊重する立場で考えている人ほど、性的少数者の人権について前向きに対応する立場で考えている人の割合が高い。



高齢者の人権について、「大切にしないのはまちがっている」と答えた人の中で、性的少数者の人権について「偏見や差別をなくすよう支援をする」と答えた人は、52.0%で最も多い。

一方、高齢者の人権について、「控えめにしていればよい」と答えた人の中で、性的少数者の人権について「そっとしておく」と答えた人は、29.0%で多くなっている。

## 8 高齢者の人権（虐待の問題）について

【質問8】 あなたの身近に住む高齢者が、家庭内や入所施設などで虐待を受けている疑いがあると感じたとき、どのように行動しますか。あなたのとる行動に近いものを一つだけ選んでください。

1. 迷わず、市の相談窓口や警察などに通報したり、民生委員・児童委員など、身近な人に相談したりする。
2. まず、自分で本人や家族、施設から話を聞いてみる。
3. 虐待があることを確かめたわけではないので、通報することや相談することをためらう。
4. 自分には関係がないので、そのままにしておく。
5. わからない。

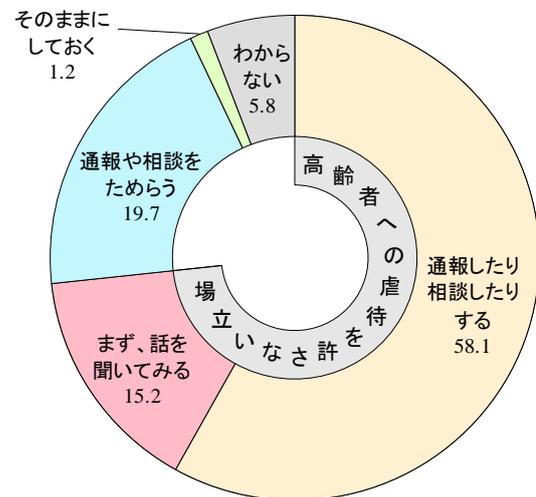
高齢者の人権（虐待の問題）についての意識の状況を調査した。（グラフの数字は%）

### 単純集計

約73%の人が、高齢者への虐待を許さない立場で考えている。

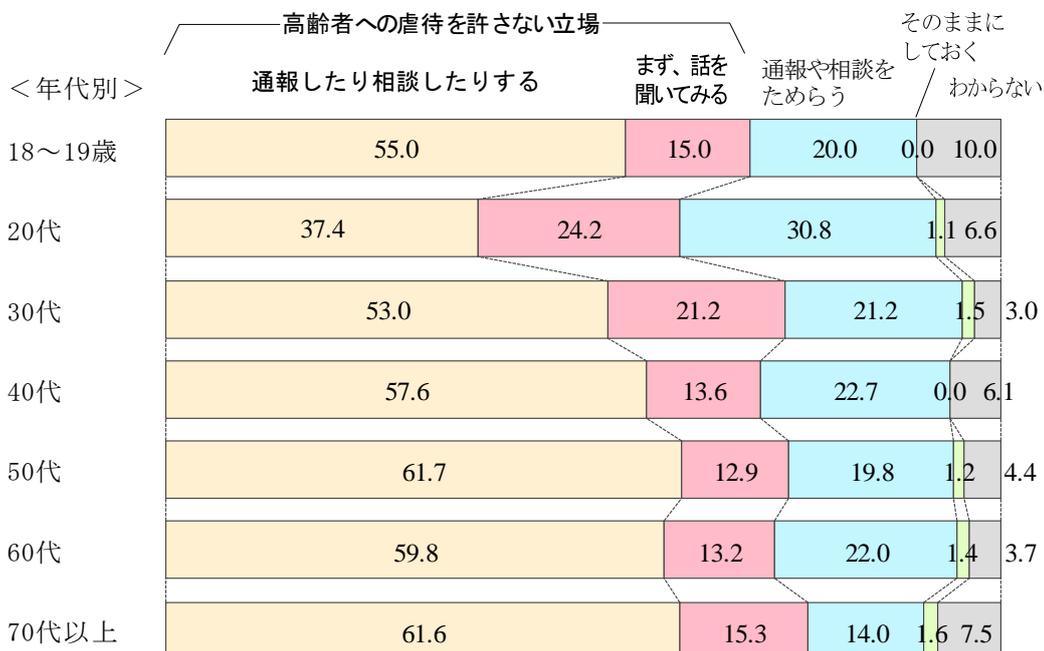
「迷わず、市の相談窓口や警察などに通報したり、民生委員・児童委員など、身近な人に相談したりする」と答えた人は、58.1%で最も多く、「まず、自分で本人や家族、施設から話を聞いてみる」と答えた人は、15.2%である。両者を合わせて、73.3%の人が、高齢者への虐待を許さない立場で考えている。

「虐待があることを確かめたわけではないので、通報することや相談することをためらう」と答えた人は19.7%で、「自分には関係がないので、そのままにしておく」と答えた人は1.2%である。



### 年代別集計

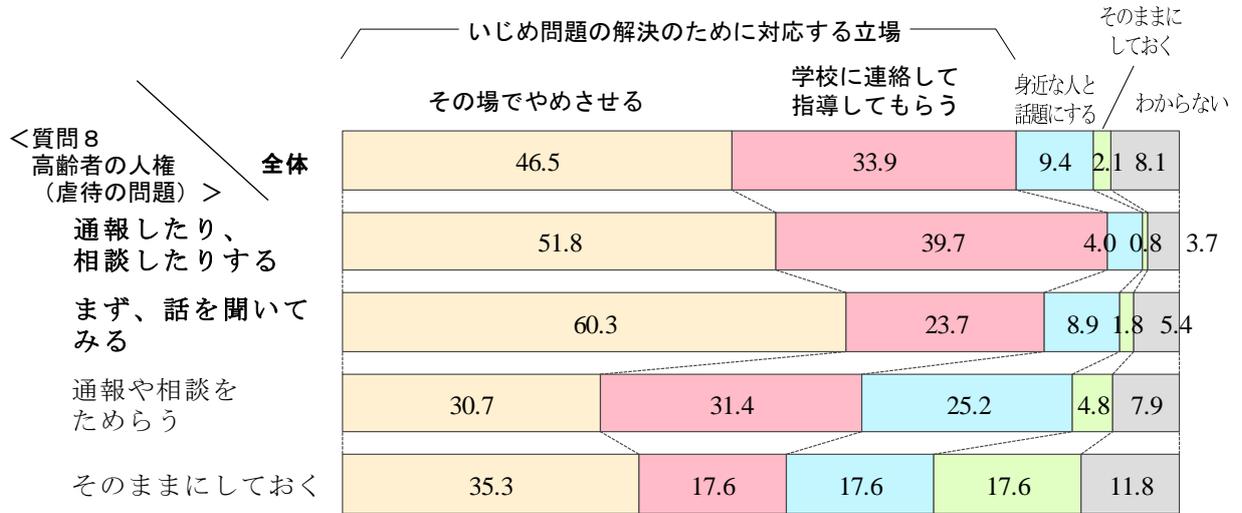
20代を除く、すべての年代で、高齢者への虐待を許さない立場で考えている人の割合が高く、70%以上となっている。



クロス集計

高齢者への虐待を許さない立場で考えている人ほど、子どものいじめ問題の解決のために対応する立場で考えている人の割合が高い。

<質問5 子どもの人権（いじめの問題）>

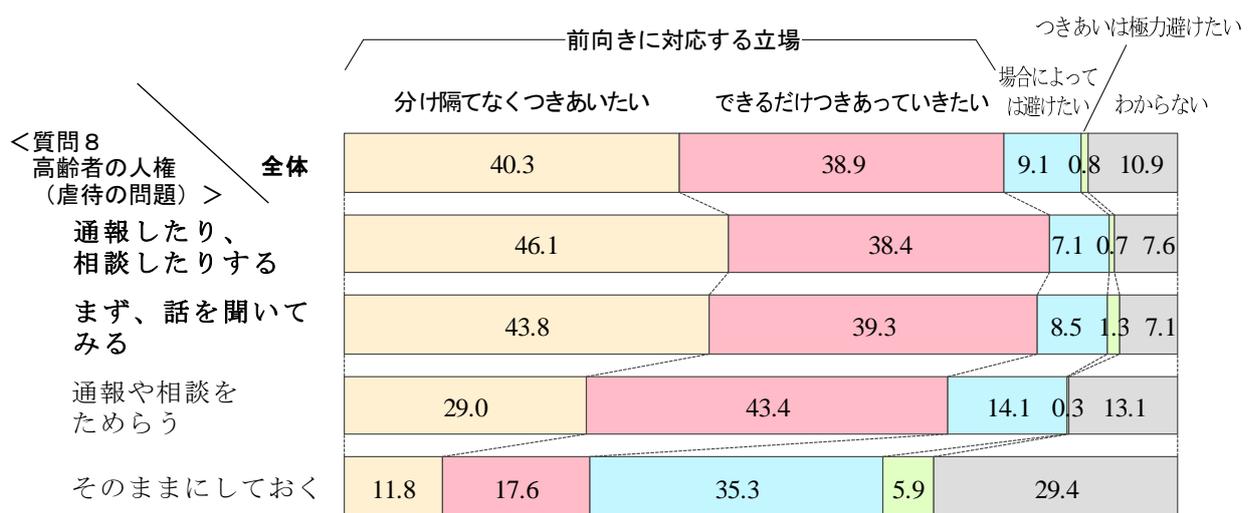


高齢者への虐待に気づいた時、「通報したり、相談したりする」と答えた人の中で、子どものいじめ問題に対して「その場でやめさせる」「学校に連絡して指導してもらう」と、何らかの対応する立場で答えた人は、合わせて91.5%が多い。

一方、高齢者への虐待問題について、「そのままにしておく」と答えた人の中で、子どものいじめ問題に対しても「そのままにしておく」と答えた人は、17.6%で比較的多い。

高齢者への虐待を許さない立場で考えている人ほど、障がいのある人とのつきあいについて、前向きに対応する立場で考えている人の割合が高い。

<質問10 障がいのある人の人権>



高齢者への虐待に気づいた時、「通報したり、相談したりする」や「まず、話を聞いてみる」のように、前向きに行動すると答えた人の中で、障がいのある人とのつきあいについても前向きに対応する立場の人は、それぞれ84.5%と83.1%で、共に80%以上となっている。

一方、高齢者への虐待問題について「そのままにしておく」と答えた人の中で、障がいのある人とのつきあいについて「場合によっては避けたい」と答えた人は、35.3%で多くなっている。

## 9 障がいのある人の人権（法律に関する知識）について

【質問9】 国では、平成28年4月に、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（以下、「障害者差別解消法」と言います。）」が施行されました。障害者差別解消法は、一人ひとりが障がいについて理解し、障がいを理由とした不当な区別や制限といった差別に気付き、障がいのある人もない人も分け隔てなく共に安心して暮らせる社会（＝共生社会）を実現することを目的として、障がいのある人に対する、行政機関（国・都道府県・市長村）や民間事業者（会社やお店等）による「不当な差別的取扱いの禁止」や「合理的配慮の提供」について定められています。あなたは、この法律を知っていますか。次の中から一つだけ選んでください。

1. 知っている。
2. 法律の名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない。
3. 知らない。

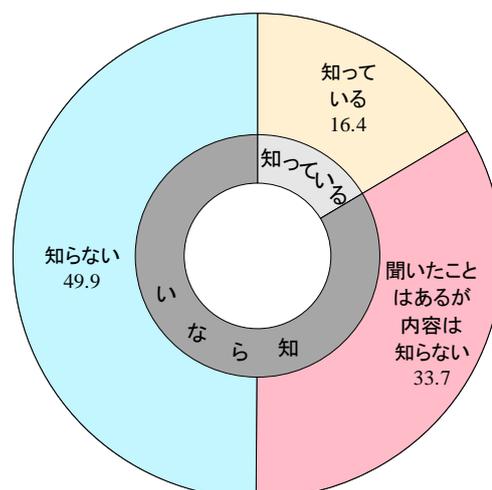
障がいのある人の人権についての法律に関する知識を調査した。（グラフの数字は％）

### 単純集計

約16%の人が、「障害者差別解消法」について知っている。

障害者差別解消法について、「知っている」と答えた人は16.4%である。

「法律の名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」と答えた人は、33.7%で、「知らない」と答えた人は、49.9%である。



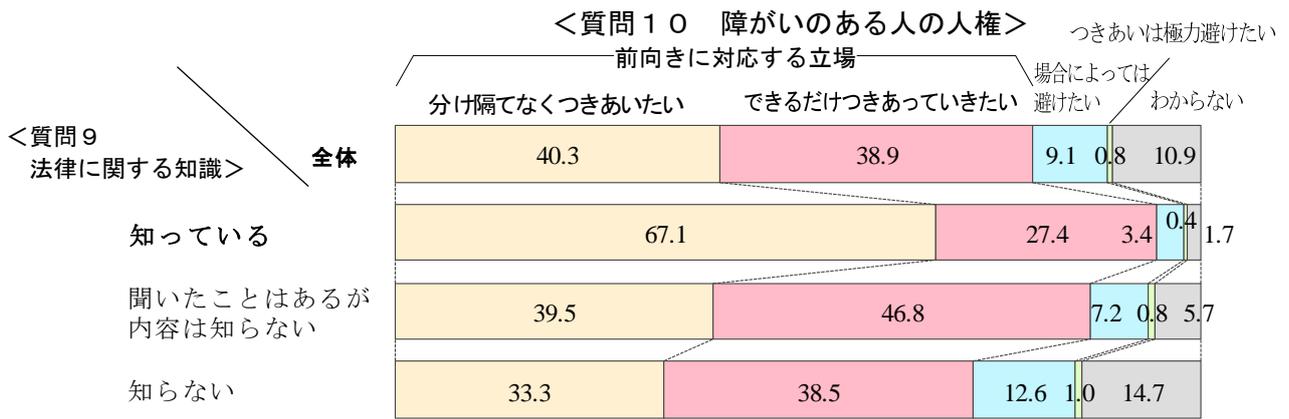
### 年代別集計

18～19歳では「知っている」と答えた人の割合が高く、70代以上では「聞いたことはあるが内容は知らない」と答えた人の割合が高い。

年代別	知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない
18～19歳	35.0	30.0	35.0
20代	13.2	25.3	61.5
30代	11.4	25.8	62.9
40代	12.7	28.4	58.9
50代	16.3	30.5	53.3
60代	19.7	34.0	46.3
70代以上	15.8	43.0	41.2

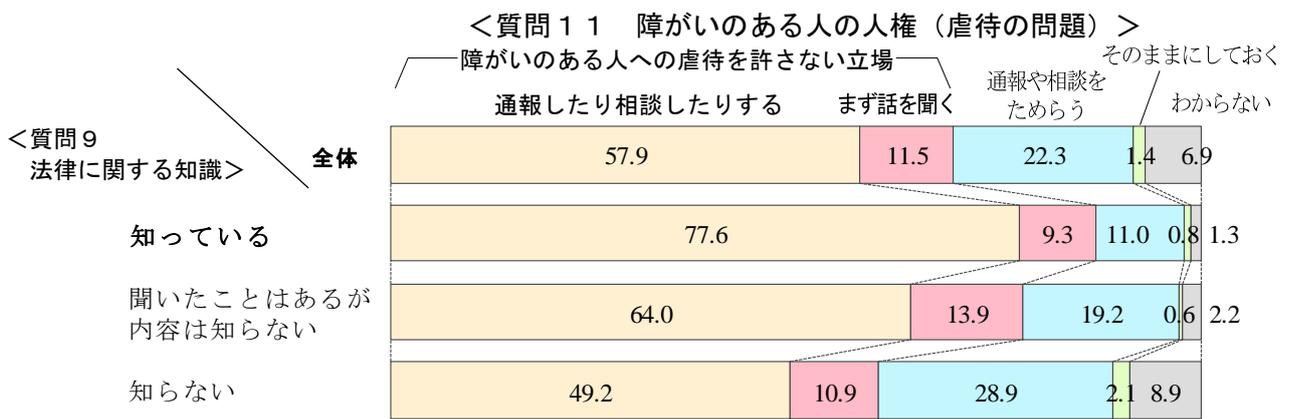
クロス集計

「障害者差別解消法」について知っている人は、障がいのある人の人権について前向きに対応する立場で考えている人の割合が高い。



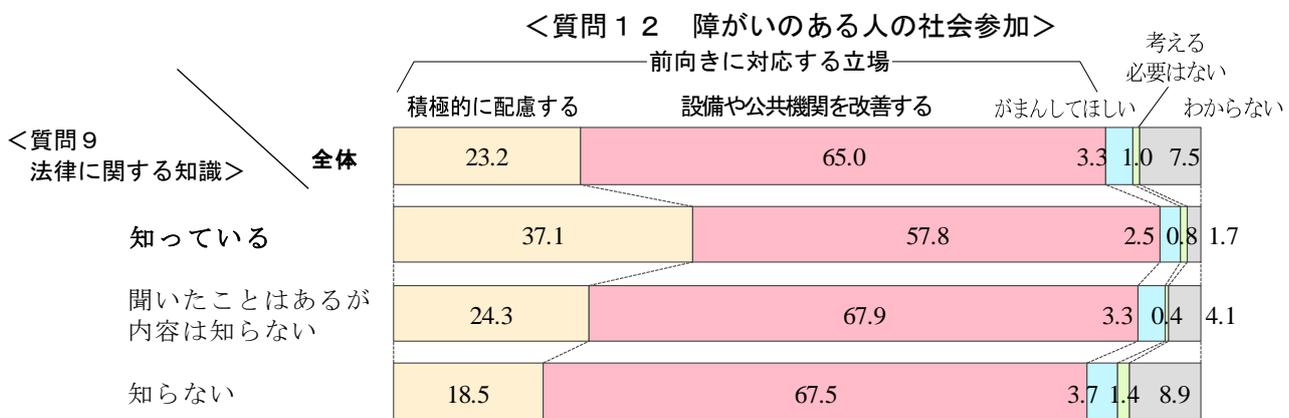
障害者差別解消法について「知っている」と答えた人の中で、障がいのある人の人権について、94.5%の人が前向きに対応する立場で考えている。

「障害者差別解消法」について知っている人は、障がいのある人への虐待を許さない立場で考えている人の割合が高い。



障害者差別解消法について「知っている」と答えた人の中で、障がいのある人の人権（虐待の問題）について、86.9%の人が前向きに対応する立場で考えている。

「障害者差別解消法」について知っている人は、障がいのある人の社会参加について前向きに対応する立場で考えている人の割合が高い。



障害者差別解消法について「知っている」と答えた人の中で、障がいのある人の社会参加について、94.9%の人が前向きに対応する立場で考えている。

## 10 障がいのある人の人権について

【質問10】 かりに、あなたの家の近くに障がいのある人が転居してこられた場合、障がいのある人とのつきあいについて、あなたはどのように考えますか。あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. 障がいについて正しく理解し、分け隔てなくつきあいたい。
2. 障がいのあることは少し気になるが、できるだけつきあっていきたい。
3. 障がいの種類や程度を確かめ、場合によってはつきあいを避けたい。
4. 障がいのある人とのつきあいは極力避けたい。
5. わからない。

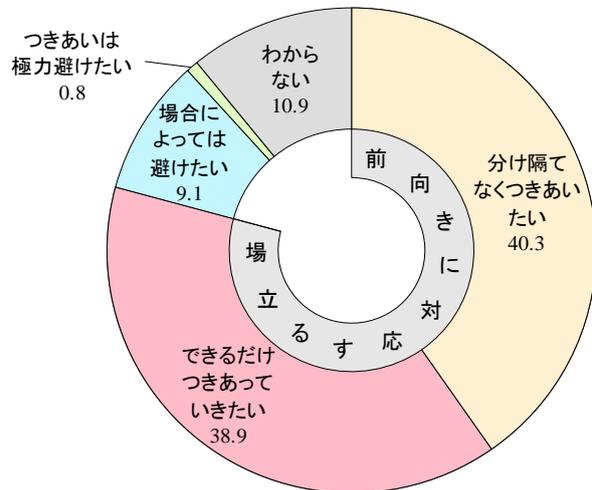
障がいのある人の人権についての意識の状況を調査した。(グラフの数字は%)

### 単純集計

約79%の人が、障がいのある人とのつきあいを前向きに対応する立場で考えている。

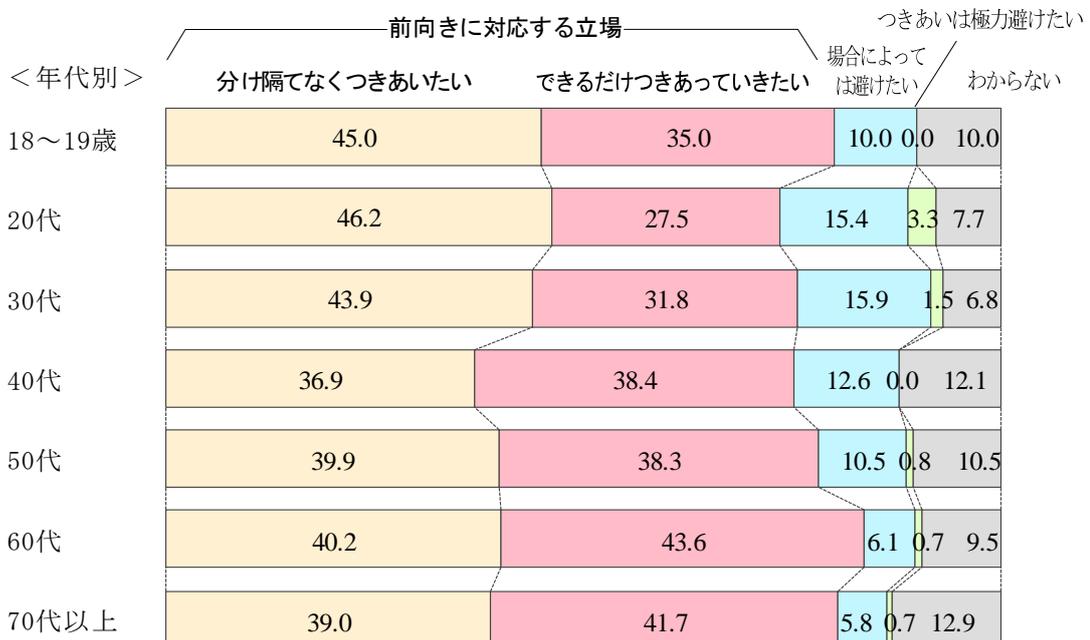
障がいのある人とのつきあいについて、「分け隔てなくつきあいたい」と答えている人が、40.3%と最も多く、次に、「できるだけつきあっていきたい」と答えている人が、38.9%である。両者を合わせると、79.2%の人が、障がいのある人とのつきあいを前向きに対応する立場で考えている。

「場合によっては避けたい」と答えた人は、9.1%で、「極力避けたい」と答えた人は、0.8%である。



### 年代別集計

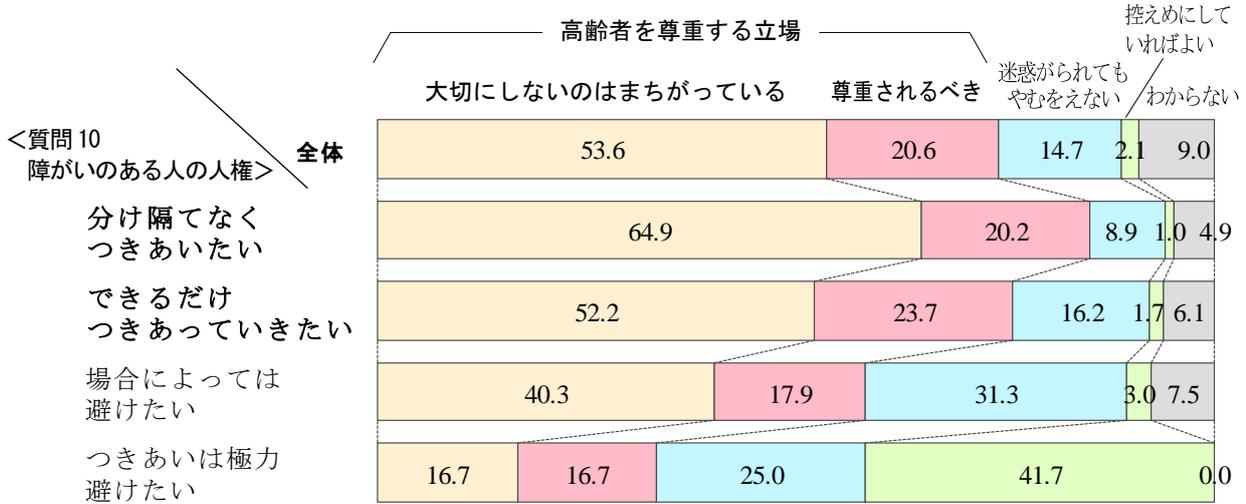
障がいのある人とのつきあいを前向きに対応する立場で考えている人が、すべての世代で73%以上となっている。特に60代では、約84%と最も多い。



クロス集計

障がいのある人とのつきあいを前向きに対応する立場で考えている人ほど、高齢者を尊重する立場で考えている人の割合が高い。

<質問7 高齢者の人権>

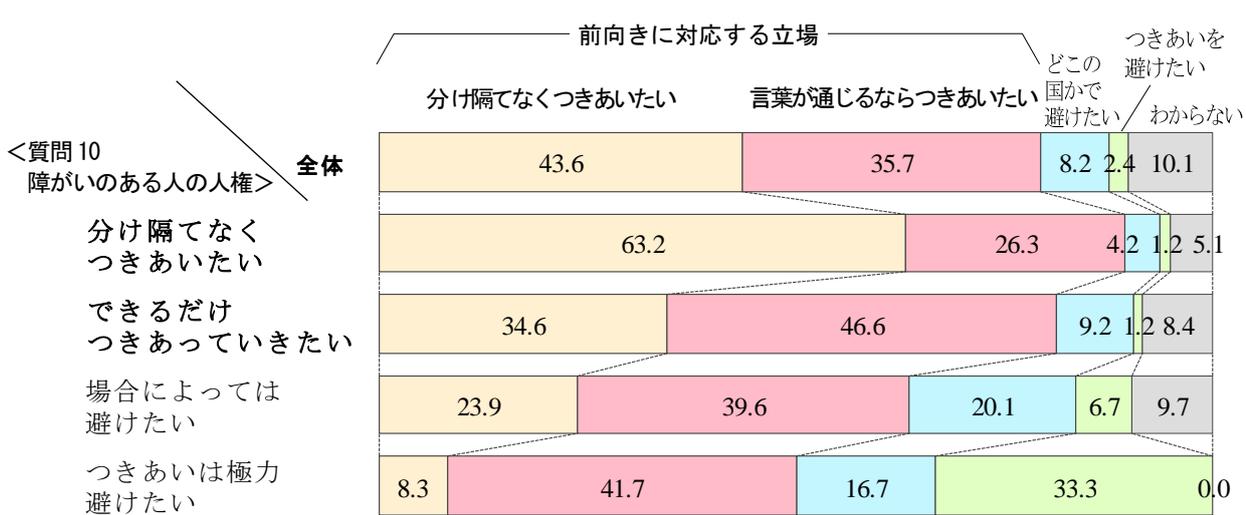


障がいのある人とのつきあいについて、「分け隔てなくつきあいたい」と答えた人の中で、高齢者に対して「大切にしないのはまちがっている」と答えた人は、64.9%で最も多い。

一方、障がいのある人とのつきあいについて、「つきあいは極力避けたい」と答えた人の中で、高齢者に対して「控えめにしていればよい」と答えた人は、41.7%とかなり多くなっている。

障がいのある人とのつきあいについて、前向きに対応する立場で考えている人ほど、外国人とのつきあいを前向きに対応する立場で考えている人の割合が高い。

<質問18 外国人とのつきあい>



障がいのある人とのつきあいについて、「分け隔てなくつきあいたい」と答えた人の中で、外国人とのつきあいについても「分け隔てなくつきあいたい」と答えた人は、63.2%で最も多い。

一方、障がいのある人とのつきあいについて、「つきあいは極力避けたい」と答えた人の中で、外国人とのつきあいについても「つきあいを避けたい」と答えた人が、33.3%で多くなっている。

# 11 障がいのある人の人権（虐待の問題）について

【質問11】 あなたの身近に住む障がいのある人が、家庭内や入所施設などで虐待を受けている疑いがあると感じたとき、どのように行動しますか。あなたのとる行動に近いものを一つだけ選んでください。

1. 迷わず、市の相談窓口や警察などに通報したり、民生委員・児童委員など、身近な人に相談したりする。
2. まず、自分で本人や家族、施設から話を聞いてみる。
3. 虐待があることを確認したわけではないので、通報することや相談することをためらう。
4. 自分には関係がないので、そのままにしておく。
5. わからない。

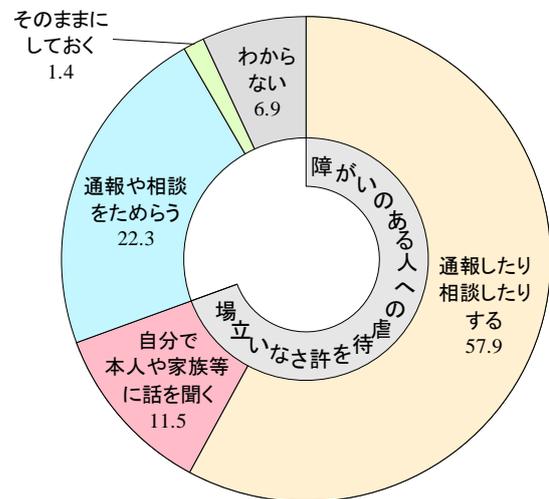
障がいのある人の人権（虐待の問題）についての意識の状況を調査した。（グラフの数字は%）

## 単純集計

約69%の人が、障がいのある人への虐待を許さない立場で考えている。

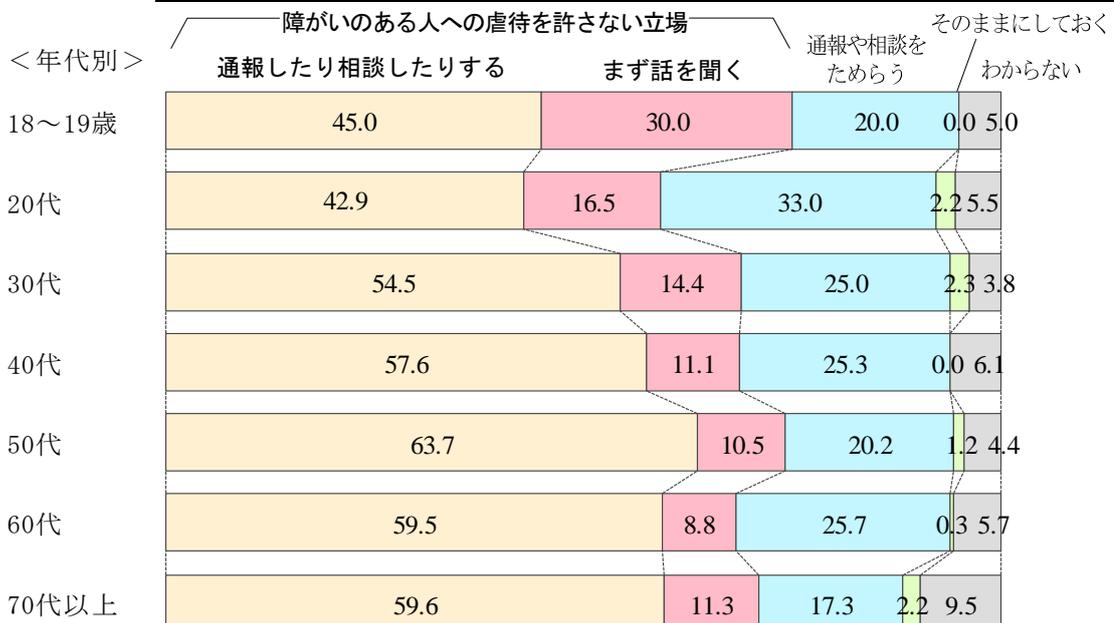
「迷わず、市の相談窓口や警察などに通報したり、民生委員・児童委員など、身近な人に相談したりする」と答えた人は、57.9%で最も多く、「まず、自分で本人や家族、施設から話を聞いてみる」と答えた人は、11.5%である。両者を合わせて、69.4%の人が、障がいのある人への虐待を許さない立場で考えている。

「虐待があることを確認したわけではないので、通報することや相談することをためらう」と答えた人は 22.3%で、「自分には関係がないので、そのままにしておく」と答えた人は、1.4%である。



## 年代別集計

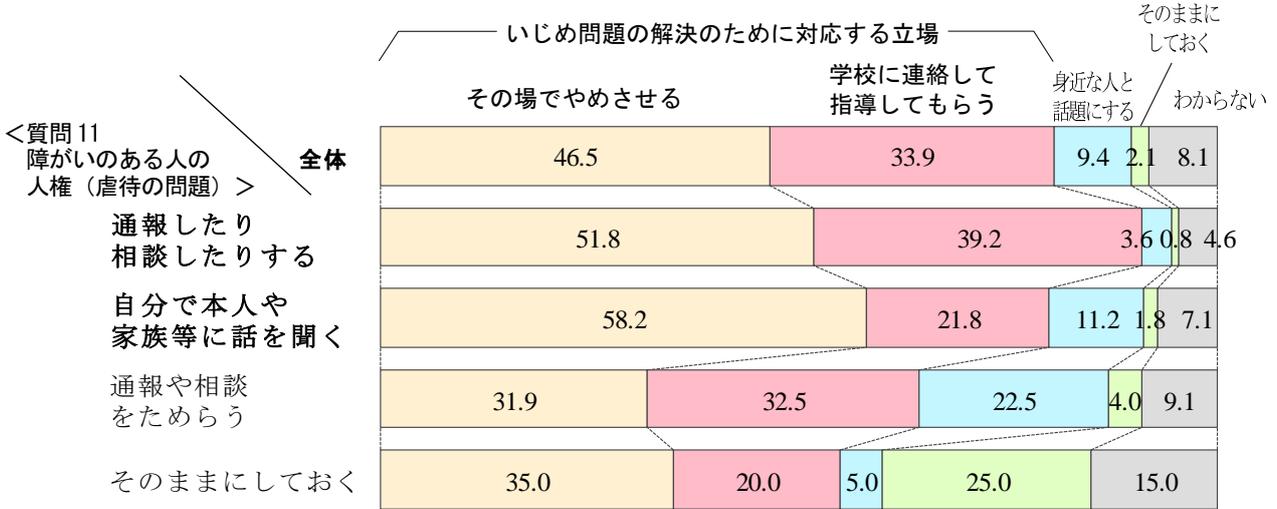
18～19歳、50代、70代以上では、障がいのある人への虐待を許さない立場で考えている人の割合が高く、70%を超えている。また、20代では、「通報や相談をためらう」と答えた人の割合が高い。



クロス集計

障がいのある人に対する虐待を許さない立場で考えている人ほど、子どものいじめ問題の解決のために対応する立場で考えている人の割合が高い。

<質問5 子どもの人権（いじめの問題）>

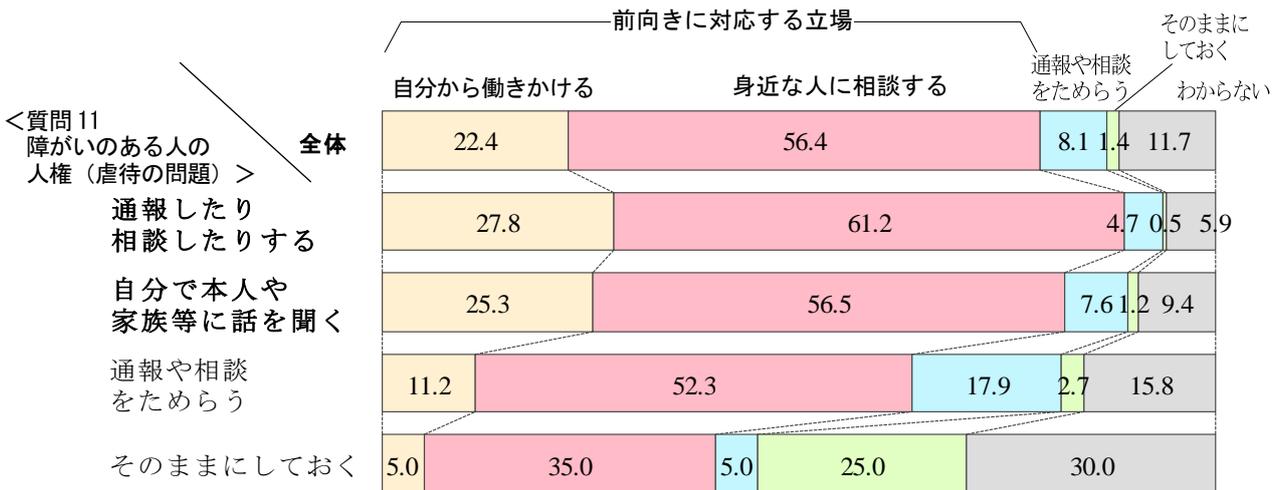


障がいのある人に対する虐待に気づいた時、「迷わず通報したり相談したりする」と答えた人の中で、子どものいじめ問題に対して、「その場でやめさせる」「学校に連絡して指導してもらおう」と、何らかの対応をする立場で答えた人は、合わせて91.0%で最も多い。

一方、障がいのある人に対する虐待問題について、「そのままにしておく」と答えた人の中で、子どものいじめ問題に対しても「そのままにしておく」と答えた人が、25.0%で多くなっている。

障がいのある人に対する虐待を許さない立場で考えている人ほど、職場での人権問題について前向きに対応する立場で考えている人の割合が高い。

<質問32 職場での人権問題>



障がいのある人に対する虐待に気づいた時、「通報したり相談したりする」と答えた人の中で、職場での人権問題について「自分から働きかける」と答えた人は、27.8%で比較的多い。

一方、障がいのある人に対する虐待問題について、「そのままにしておく」と答えた人の中で、職場での人権問題に対しても「そのままにしておく」と答えた人は、25.0%で多くなっている。

## 12 障がいのある人の社会参加について

【質問12】 あなたの身近に住む障がいのある人が、自立したり社会参加したりするためにはどうすればよいと考えますか。あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. 障がいの有無によって、制限されるのはおかしいので、障がいのある人も等しく社会参加できるよう、一人ひとりが積極的に配慮する。
2. 障がいのある人が社会参加しやすいように、制度や建物の設備や公共機関（交通機関、医療機関、教育機関、相談窓口など）を改善する。
3. 障がいがあるので、ある程度社会参加できなくてもがまんしてほしい。
4. 障がいのある人のことをそれほど考える必要はない。
5. わからない。

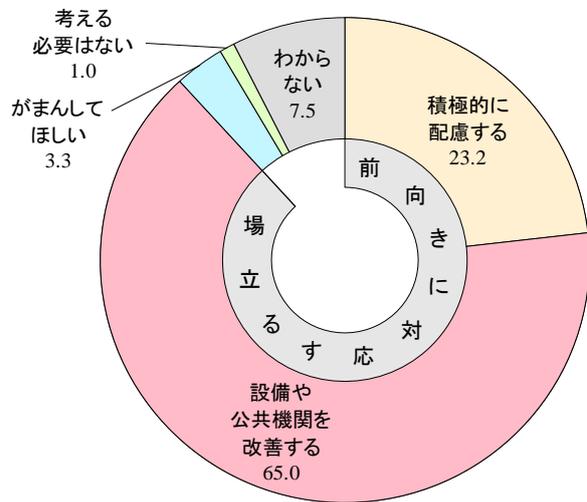
障がいのある人の社会参加についての意識の状況を調査した。（グラフの数字は%）

### 単純集計

約88%の人が、障がいのある人の社会参加に前向きに対応する立場である。

「障がいのある人が社会参加しやすいように、制度や建物の設備や公共機関を改善する」と答えた人は、65.0%で最も多く、「障がいのある人も等しく社会参加できるよう、一人ひとりが積極的に配慮する」と答えた人は、23.2%である。両者を合わせて、88.2%の人が、障がいのある人の社会参加に前向きに対応する立場で考えている。

「障がいがあるので、ある程度社会参加できなくてもがまんしてほしい」と答えた人は3.3%、「障がいのある人のことをそれほど考える必要はない」と答えた人は、1.0%である。



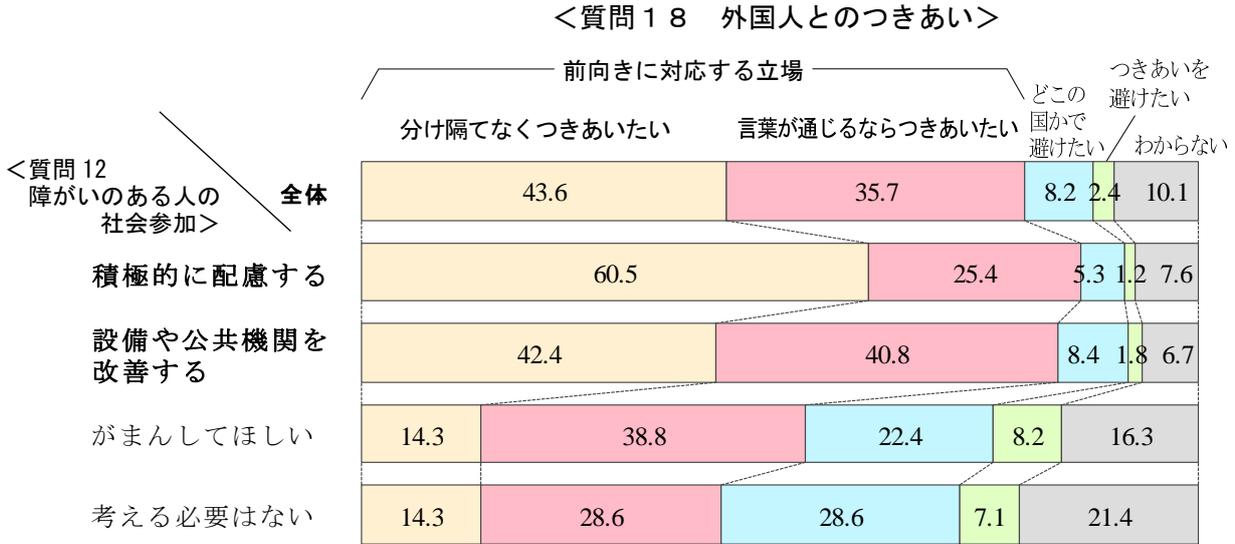
### 年代別集計

障がいのある人の社会参加に前向きに対応する立場で考えている人が、すべての世代で80%を超えている。



クロス集計

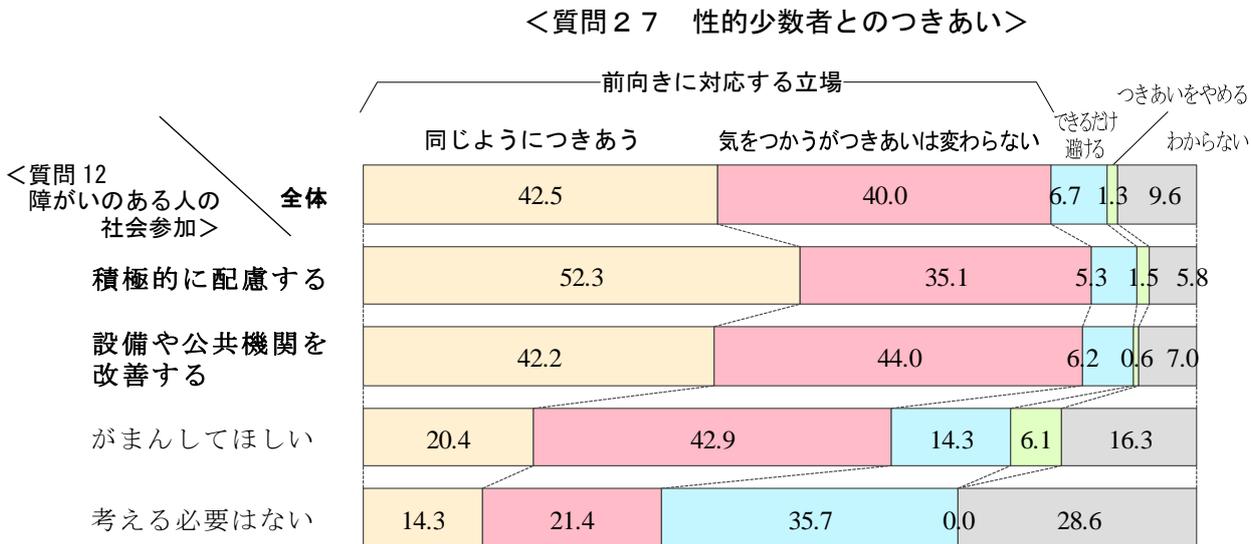
障がいのある人の社会参加に前向きに対応する立場で考えている人ほど、外国人とのつきあいについて前向きに考えている人の割合が高い。



障がいのある人の社会参加について、「積極的に配慮する」と答えた人の中で、外国人と「分け隔てなくつきあいたい」と答えた人は、60.5%で最も多い。

一方、障がいのある人の社会参加について、「がまんしてほしい」と「考える必要はない」に答えた人の中で、外国人とのつきあいについて「どこの国かで避けたい」「つきあいを避けたい」と答えた人の割合が高くなっている。

障がいのある人の社会参加に前向きに対応する立場で考えている人ほど、性的少数者とのつきあいについて前向きに考えている人の割合が高い。



障がいのある人の社会参加について、「積極的に配慮する」と答えた人の中で、性的少数者と「同じようにつきあう」と答えた人は、52.3%で最も多い。

一方、障がいのある人の社会参加について、「考える必要はない」と答えた人の中で、性的少数者とのつきあいについて「できるだけ避ける」と答えた人は、35.7%で最も多い。

## 13 同和問題（法律に関する知識）について

【質問13】 あなたは、「部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）」を知っていますか。次の中から一つだけ選んでください。

1. 知っている。
2. 法律の名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない。
3. 知らない。

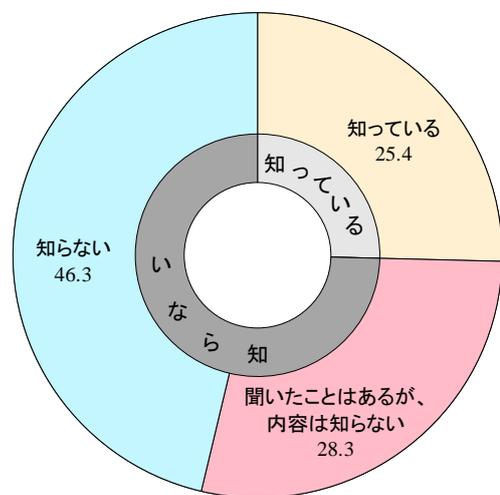
同和問題についての法律に関する知識を調査した。（グラフの数字は％）

### 単純集計

約25％の人が、「部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）」について知っている。

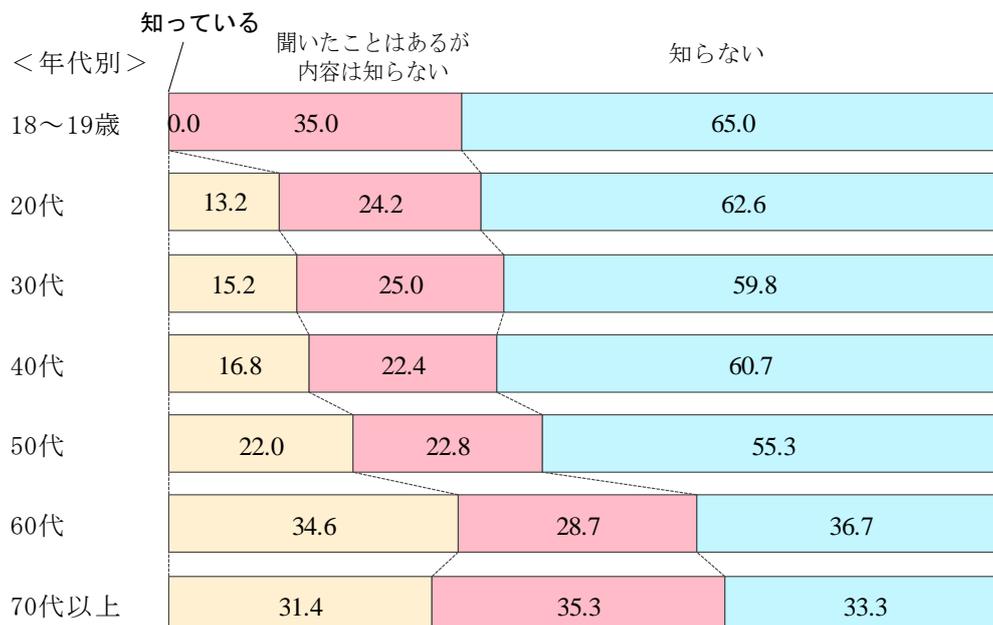
部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）について、「知っている」と答えた人は25.4％である。

「法律の名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」と答えた人は、28.3％で、「知らない」と答えた人は、46.3％である。



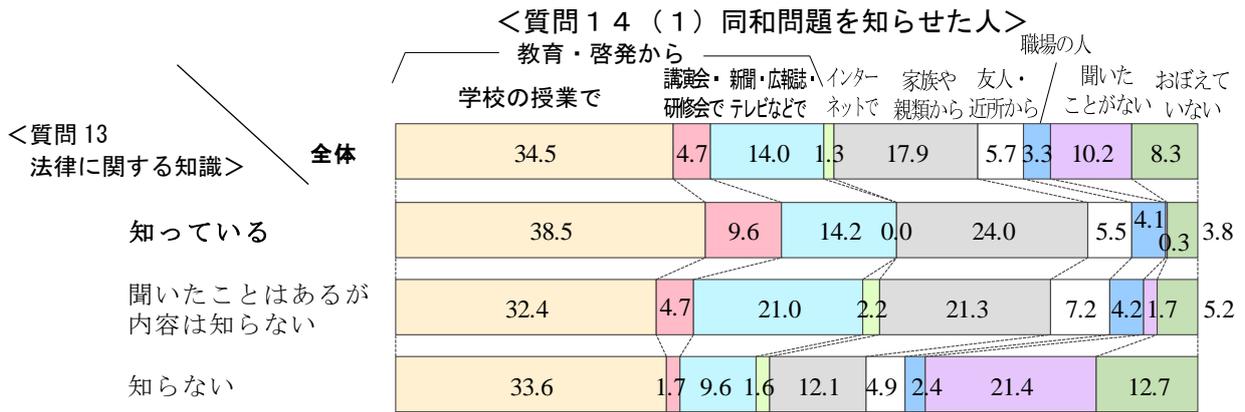
### 年代別集計

年齢が高い世代ほど、「部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）」について「知っている」と答えた人の割合が高い。



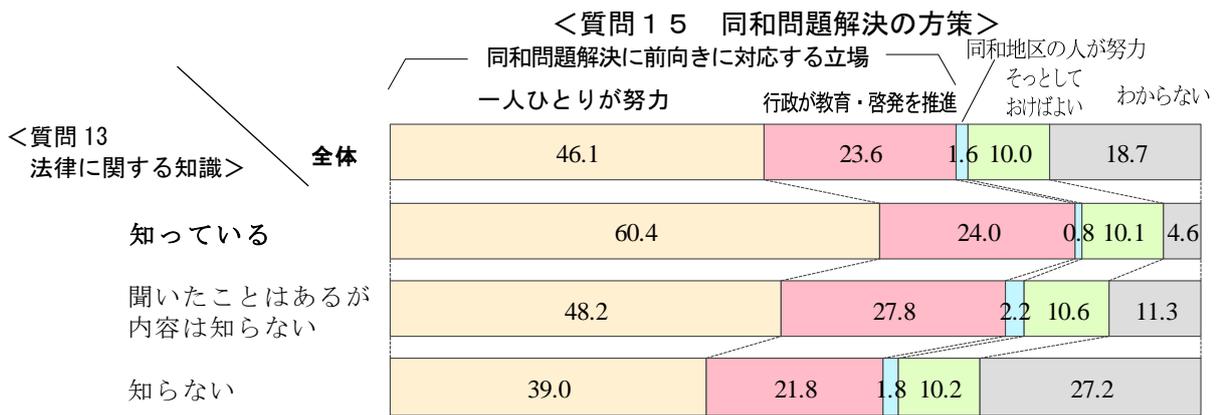
クロス集計

「部落差別の解消の推進に関する法律」を知っていると答えた人は、同和問題を教育・啓発から知った人の割合が高い。



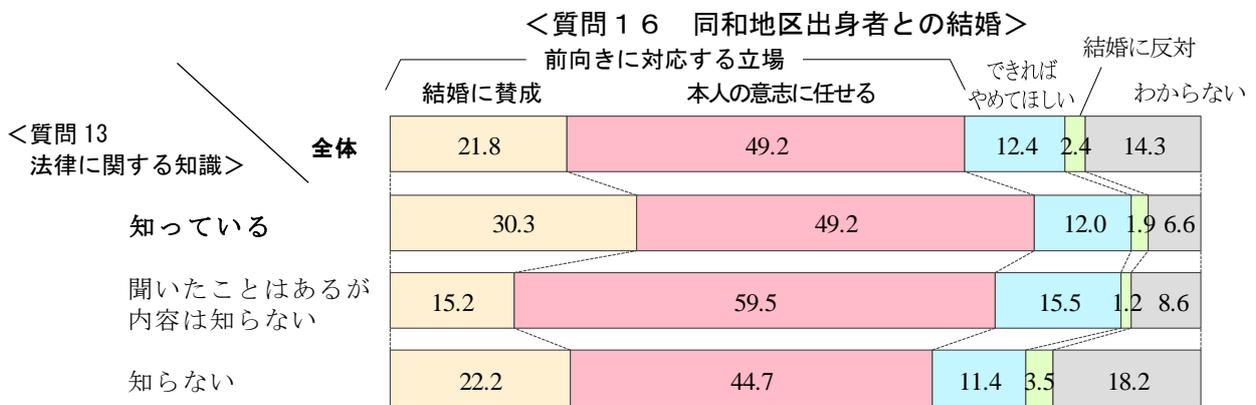
部落差別の解消の推進に関する法律について「知っている」と答えた人の中で、同和問題を知らせた人について、「教育・啓発から」と答えた人は62.3%となっている。

「部落差別の解消の推進に関する法律」を知っていると答えた人は、同和問題解決の方策で前向きに対応する立場の人の割合が高い。



部落差別の解消の推進に関する法律について「知っている」と答えた人の中で、84.4%の人が同和問題解決の方策について前向きに対応する立場で考えている。

「部落差別の解消の推進に関する法律」を知っていると答えた人は、同和地区出身者との結婚で前向きに対応する立場の人の割合が高い。



部落差別の解消の推進に関する法律について「知っている」と答えた人の中で、同和地区出身者との結婚について、79.5%の人が前向きに対応する立場で考えている。

# 14-1 同和問題を知らせた人について

【質問14-1】 あなたが部落差別（同和問題）をはじめて知ったのは、だれから（何から）ですか。一つだけ選んでください。

- 1. 学校の授業で
- 2. 講演会・研修会などで
- 3. 家族（父母・祖父母・兄弟姉妹など）や親類の人から
- 4. 友人や近所の人から
- 5. 職場の人から
- 6. 新聞・本・広報誌・テレビ・ラジオ・映画などで
- 7. インターネットで
- 8. 聞いたことがない
- 9. おぼえていない

同和問題を知らせた人についての意識の状況を調査した。（グラフの数字は％）

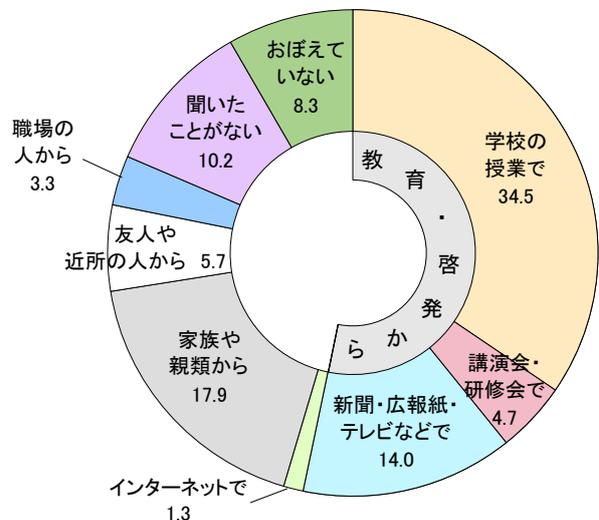
## 単純集計

同和問題について教育・啓発から知った人は約53%で、親族から知った人は約18%である。

同和問題についてはじめて知ったのはだれからかという問いについて、「学校の授業で」と答えた人が 34.5%で最も多く、ついで、「家族や親類の人から」が 17.9%、「マスコミから」が 14.0%の順になっている。

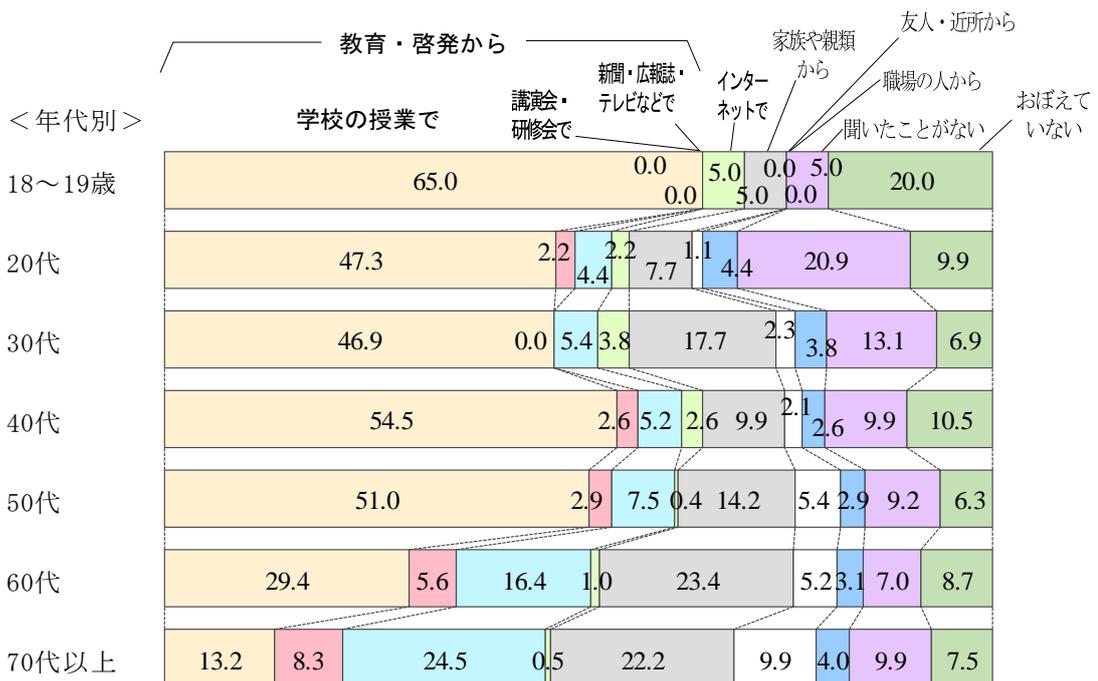
「学校の授業で」、「講演会・研修会」、「マスコミから」などの教育・啓発からはじめて知った人は、合わせて 53.2%である。

「友人や近所の人から」、「職場の人から」など知人から知った人は、合わせて 9.0%である。



## 年代別集計

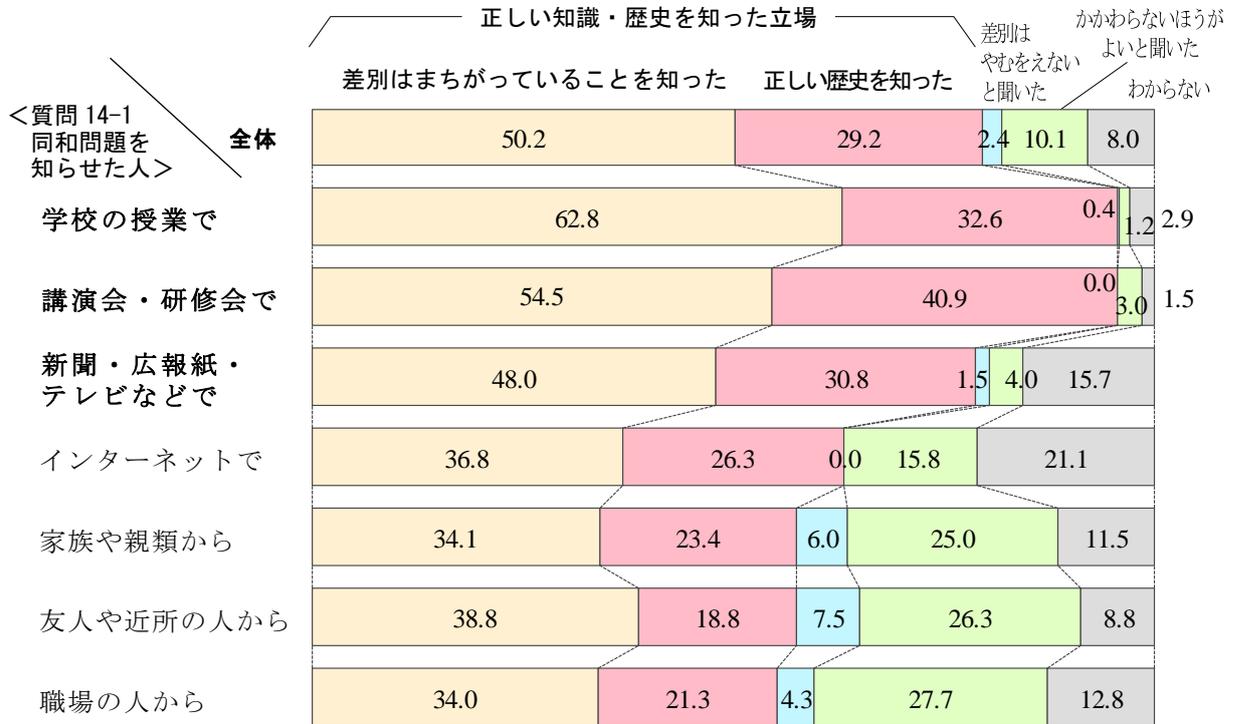
18～19歳から50代では、教育・啓発からはじめて知った人の割合が約52%～65%で高い。



クロス集計

同和問題を「学校の授業」や「講演会・研修会」で知った人ほど、同和問題について「差別はまちがっていることを知った」「正しい歴史を知った」と答えた人の割合が高い。

<質問 14-2 同和問題に関して知った内容>



同和問題を知らせた人について、「学校の授業で」と答えた人の中で、「差別はまちがっていることを知った」人は62.8%、「正しい歴史を知った」人は32.6%で、合わせて95.4%の人が、正しい知識・歴史を知ったという立場で答えている。

「講演会・研修会で」と答えた人の中で、「差別はまちがっていることを知った」人は54.5%、「正しい歴史を知った」人は40.9%で、合わせて95.4%の人が、正しい知識・歴史を知ったという立場で答えている。

「学校の授業」と「講演会・研修会」からの情報がいずれも95.4%であることは、人権教育・啓発の効果は確かなものであることを示している。

## 14-2 同和問題に関して知った内容について

【質問14-2】 (1) 1～7と答えた人は、どのような内容を知りましたか。一つだけ選んでください。

1. 偏見をもち、差別することは、不合理で、まちがっていることを知った。
2. 同和問題の正しい歴史について知った。
3. 偏見をもたれ、差別されることはやむをえないと聞いた。
4. あまりかかわらないほうがよいと聞いた。
5. わからない。

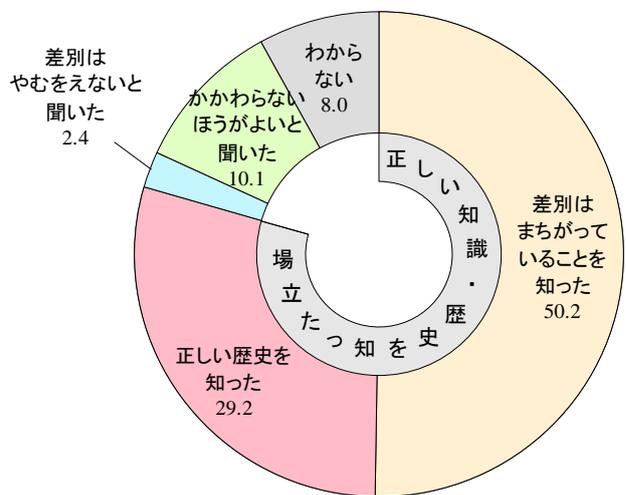
同和問題に関して知った内容の意識の状況を調査した。(グラフの数字は%)

### 単純集計

同和問題について、「差別のまちがい」と「正しい歴史」を知ったと答えた人は、約79%である

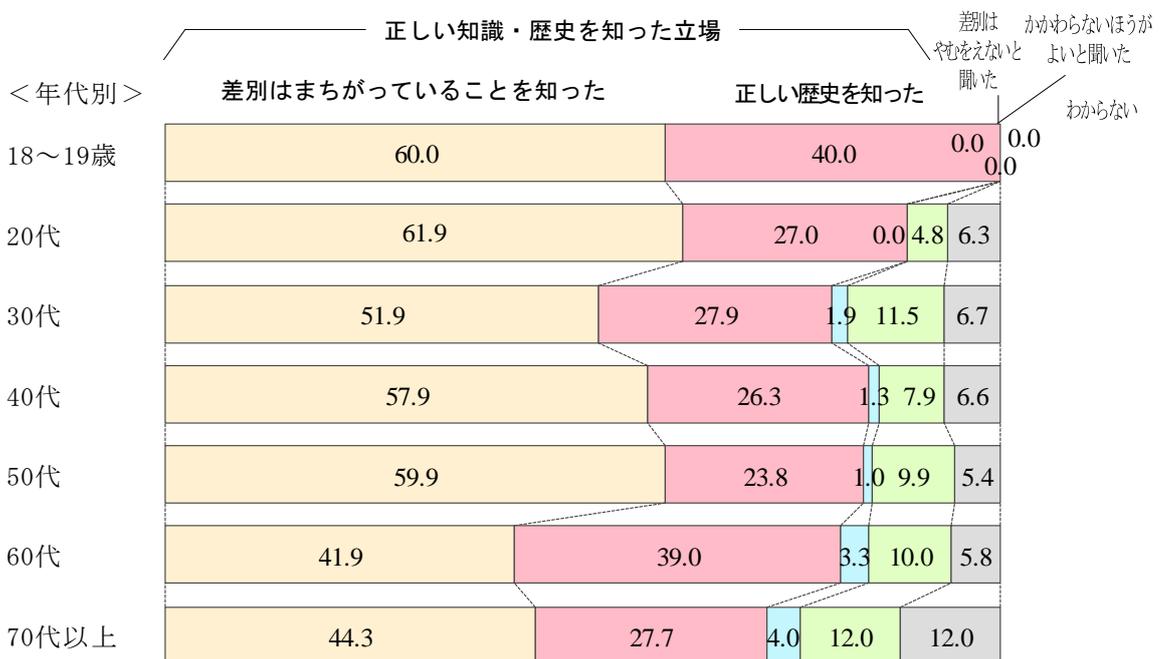
同和問題に関してどのような内容を知ったかについて、「差別はまちがっていることを知った」と答えた人が 50.2%で最も多く、ついで、「正しい歴史を知った」が 29.2%である。両者を合わせると、79.4%の人が、「正しい知識・歴史を知った」と答えている。

「かかわらないほうがよいと聞いた」と答えた人は、10.1%で、「差別はやむをえないと聞いた」と答えた人は、2.4%である。



### 年代別集計

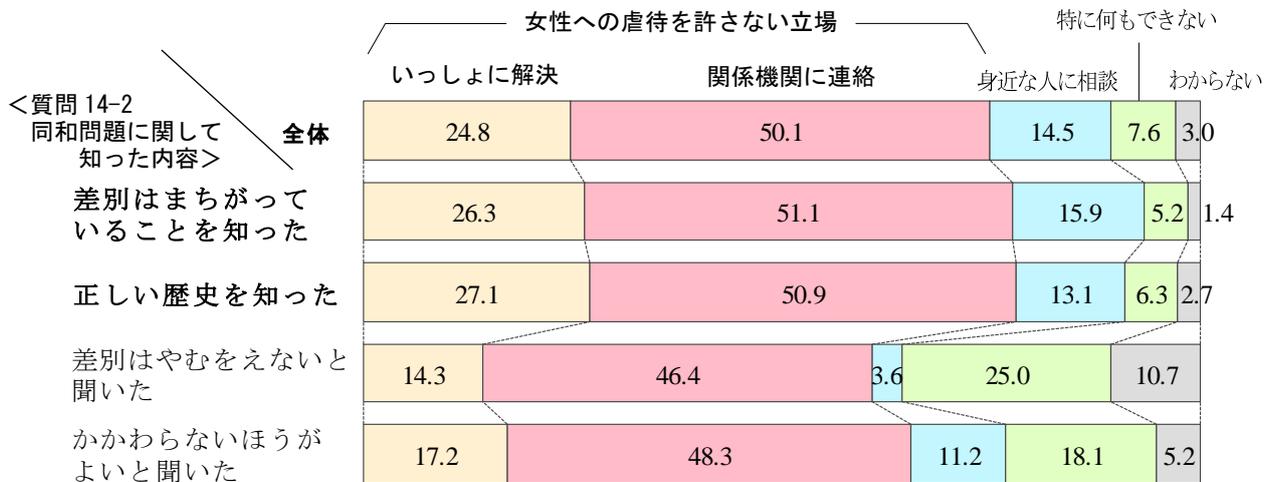
すべての世代で「正しい知識・歴史を知った」と答えた人の割合が高い。特に18～19歳では、100%となっている。



クロス集計

同和問題について、「差別のまちがい」と「正しい歴史」を知った人ほど、女性への虐待を許さない立場で考えている人の割合が高い。

<質問3 女性の人権（DVの問題）>

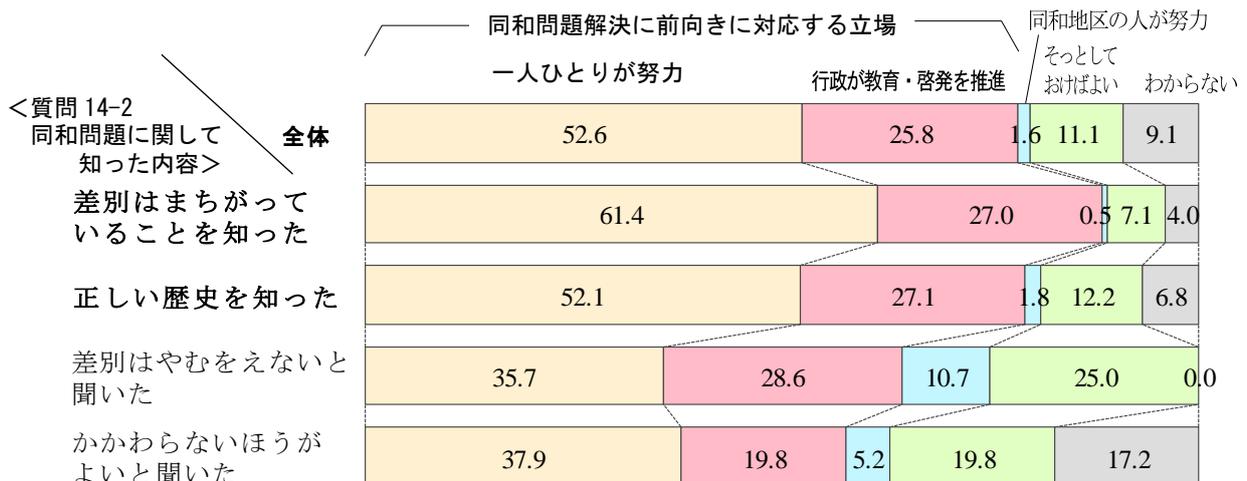


同和問題に関して知った内容について、「差別はまちがっていることを知った」と「正しい歴史を知った」に答えた人の中で、女性への虐待問題に対して「いっしょに解決」「関係機関に連絡」に答え、女性への虐待を許さない立場の人の割合が、共に高い。

一方、同和問題に関して、「差別はやむをえないと聞いた」と「かかわらないほうがよいと聞いた」に答えた人の中で、女性への虐待問題について「特に何もできない」と答えた人は、それぞれ25.0%、18.1%で比較的多い。

同和問題について、「差別のまちがい」と「正しい歴史」を知った人ほど、同和問題の解決に前向きに対応する立場の人の割合が高い。

<質問15 同和問題解決の方策>



同和問題に関して知った内容について、「差別はまちがっていることを知った」と答えた人の中で、同和問題解決の方策について「一人ひとりが努力する」「行政が教育・啓発を推進する」と、前向きな立場で答えた人の割合が、合わせて88.4%で高い。

一方、同和問題に関して、「差別はやむをえないと聞いた」と答えた人の中で、同和問題解決の方策について「そっとしておけばよい」と答えた人は、25.0%で比較的多い。

## 15 同和問題解決の方策について

【質問15】 同和問題について、あなたはどのように考えていますか。あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. 同和問題解決のために、私たち一人ひとりが、正しく学び、理解を深める努力をする。
2. 同和問題解決のために、国・県・市が教育及び啓発をすすめる。
3. 差別をされる側の人たちが、努力する必要がある。
4. 特に取りあげないで、そっとしておけばよい。
5. わからない。

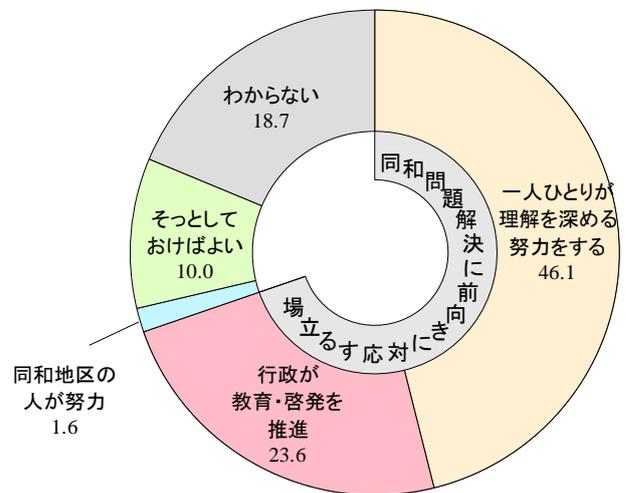
同和問題解決の方策についての意識の状況を調査した。(グラフの数字は%)

### 単純集計

約70%の人が、同和問題解決の方策について、「市民一人ひとり・行政の努力が必要」と考えている。

同和問題解決の方策として、「私たち一人ひとりの努力が必要」と答えた人が、46.1%で最も多い。「行政が教育・啓発を推進」と答えた人は、23.6%である。合わせて69.7%の人が、市民一人ひとり及び行政の努力が必要であると答えている。

「そっとしておけばよい」と答えた人は、10.0%で、「同和地区の人が努力すればよい」と答えた人は、1.6%である。



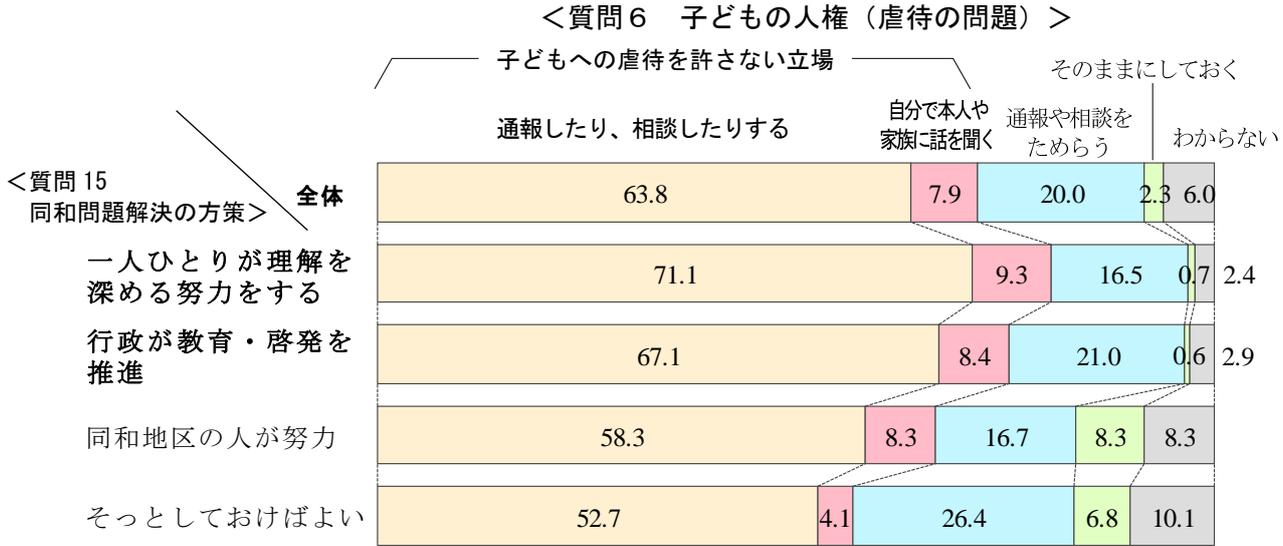
### 年代別集計

18～19歳、20代、30代、40代、50代では、同和問題解決の方策について、「市民一人ひとり・行政の努力が必要」と考えている人が7割を超えている。



クロス集計

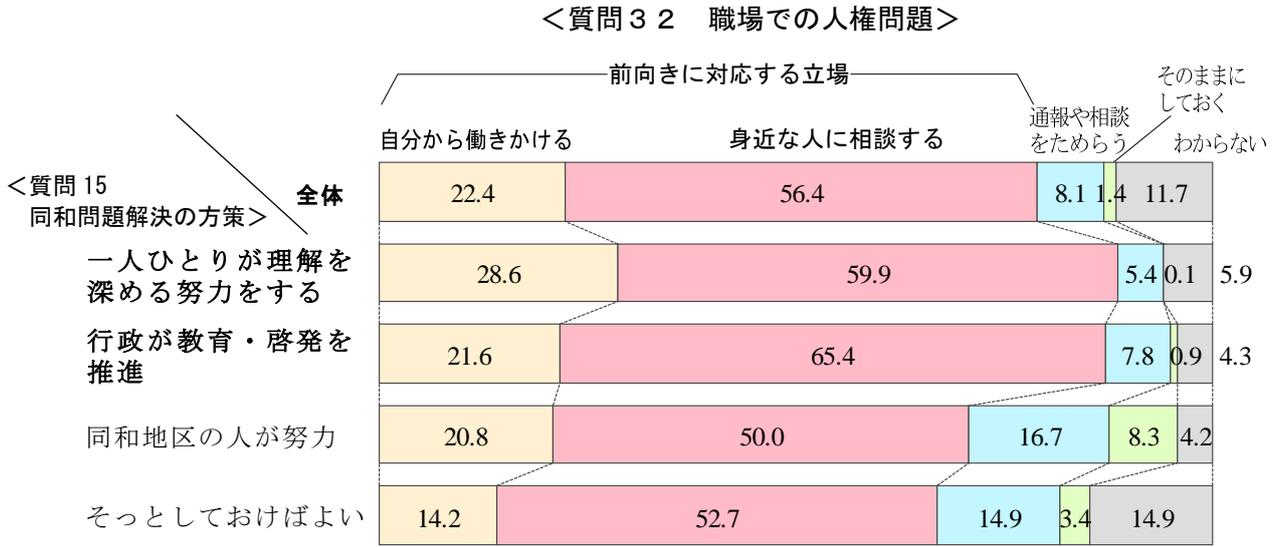
同和問題解決の方策について、「市民一人ひとり・行政の努力が必要」と考えている人ほど、子どもへの虐待を許さない立場の人の割合が高い。



同和問題解決の方策について、「一人ひとりが理解を深める努力をする」と答えた人の中で、子どもに対する虐待に気づいた時に「通報したり、相談したりする」と答えた人は、71.1%で最も多い。

一方、同和問題解決の方策について、「そっとしておけばよい」と答えた人の中で、子どもの虐待問題に対して「通報や相談をためらう」と答えた人は、26.4%で多くなっている。

同和問題解決の方策について、「市民一人ひとり・行政の努力が必要」と考えている人ほど、職場での人権問題について前向きに対応する立場の人の割合が高い。



同和問題解決の方策について、「一人ひとりが理解を深める努力をする」と答えた人の中で、職場での人権問題に対して「自分から働きかける」と答えた人は、28.6%で比較的多い。

一方、同和問題解決の方策について、「同和地区の人が努力する」と「そっとしておけばよい」に答えた人の中で、職場での人権問題に対して「通報や相談をためらう」と答えた人は、それぞれ16.7%・14.9%で、やや多い。

## 16 同和地区の出身者との結婚について

【質問16】 かりに、あなたの家族（子・孫・兄弟姉妹など）が結婚しようとする相手が、同和地区と呼ばれてきた地域出身の人であることがわかったときに、あなたはどうしますか。あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. 何も気にすることではないので、結婚に賛成する。
2. 少しは気になるが、結婚は本人同士の合意が尊重されるべきなので、本人の意志にまかせる。
3. 本人の意志にまかせるべきだとは思いますが、できることならやめてほしい。
4. 相手の出身地域が気になるので、結婚に反対する。
5. わからない。

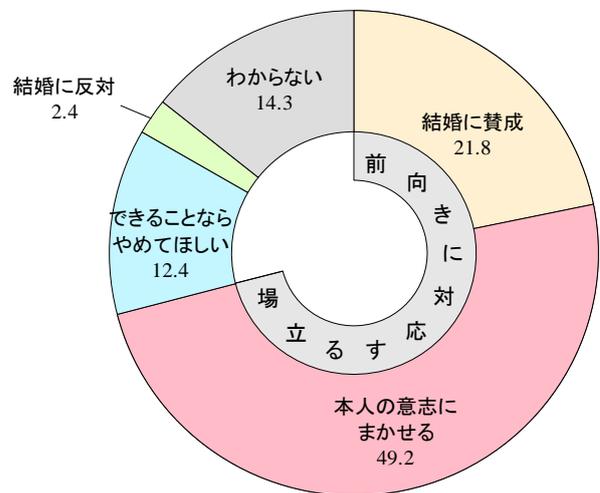
同和地区の出身者との結婚についての意識の状況を調査した。（グラフの数字は%）

### 単純集計

家族と同和地区の出身者との結婚について前向きに考えている人は、71%である。

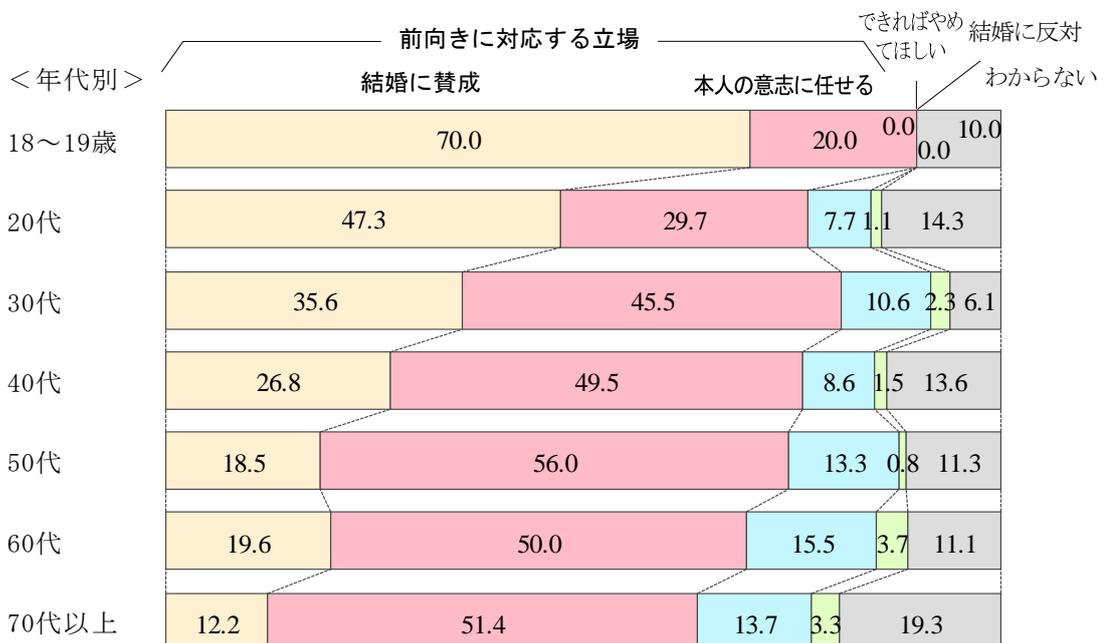
家族と同和地区の出身者との結婚について、「何も気にすることではないので、結婚に賛成する」と答えた人は、21.8%で、「本人の意志にまかせる」と答えた人は、49.2%である。両者を合わせると、71.0%の人が前向きに考えている。

「できることならやめてほしい」と答えた人は、12.4%で、「結婚に反対する」と答えた人は、2.4%である。



### 年代別集計

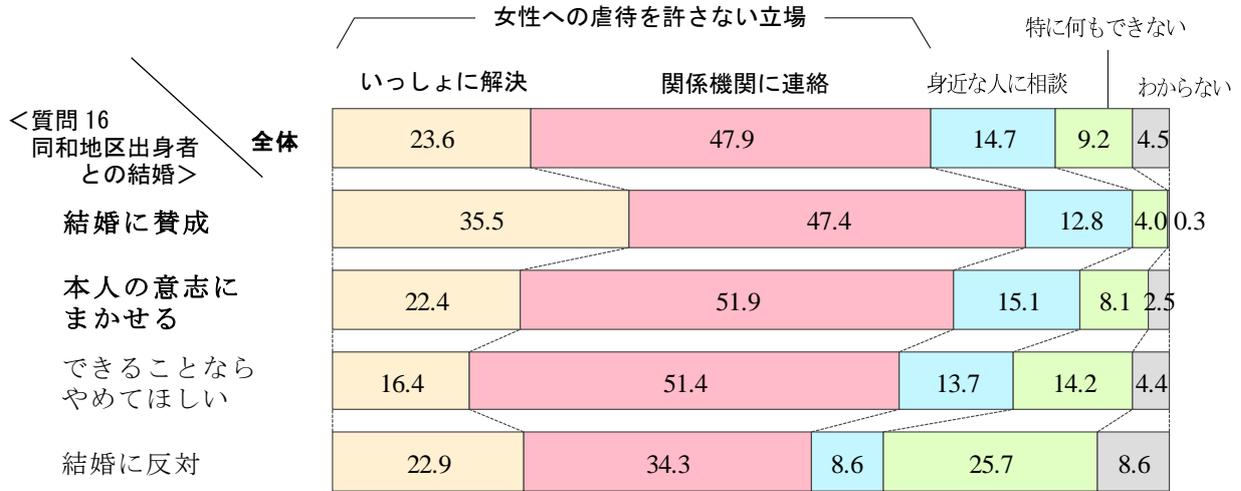
若い世代ほど、家族と同和地区の出身者との結婚について前向きに考えている人の割合が高い。



クロス集計

同和地区出身者との結婚を前向きに考えている人ほど、女性への虐待を許さない立場で考えている人の割合が高い。

<質問3 女性の人権（DVの問題）>

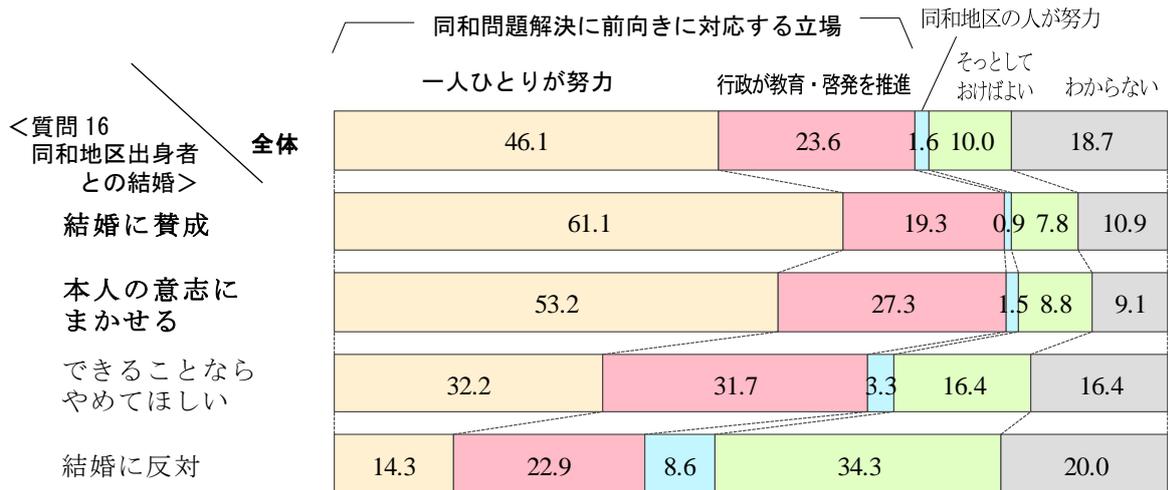


同和地区の出身者との結婚について、「結婚に賛成」と答えた人の中で、女性への虐待問題に対して「いっしょに解決」と答えた人（35.5%）と「関係機関に連絡する」と答えた人（47.4%）を合わせると、82.9%で最も多い。

一方、同和地区出身者との結婚について、「結婚に反対」と答えた人の中で、女性への虐待問題に対して「特に何もできない」と答えた人は、25.7%で比較的多い。

同和地区出身者との結婚を前向きに考えている人ほど、同和問題の解決に前向きに対応する立場で考えている人の割合が高い。

<質問15 同和問題解決の方策>



同和地区の出身者との結婚について、「結婚に賛成」と答えた人の中で、同和問題解決の方策について「一人ひとりが努力する」と答えた人は、61.1%で最も多い。

一方、同和地区出身者との結婚について、「結婚に反対」と答えた人の中で、同和問題解決の方策について「そっとしておけばよい」と答えた人は、34.3%で最も多い。

## 17 外国人の人権（法律に関する知識）について

【質問17】 あなたは、「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（ヘイトスピーチ解消法）」を知っていますか。次の中から一つだけ選んでください。

1. 知っている。
2. 法律の名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない。
3. 知らない。

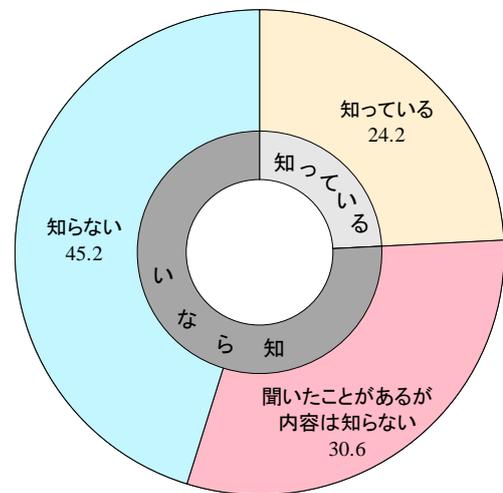
外国人の人権についての法律に関する知識を調査した。（グラフの数字は%）

### 単純集計

約24%の人が、「ヘイトスピーチ解消法」について知っている。

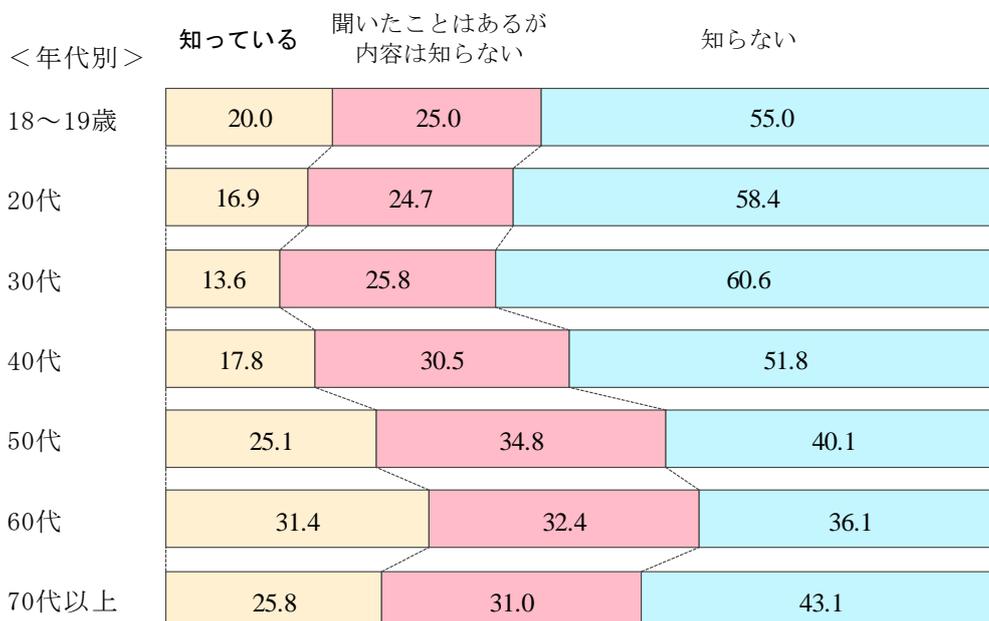
ヘイトスピーチ解消法について、「知っている」と答えている人が24.2%である。

「法律の名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」と答えている人が、30.6%で、「知らない」と答えた人は、45.2%である。



### 年代別集計

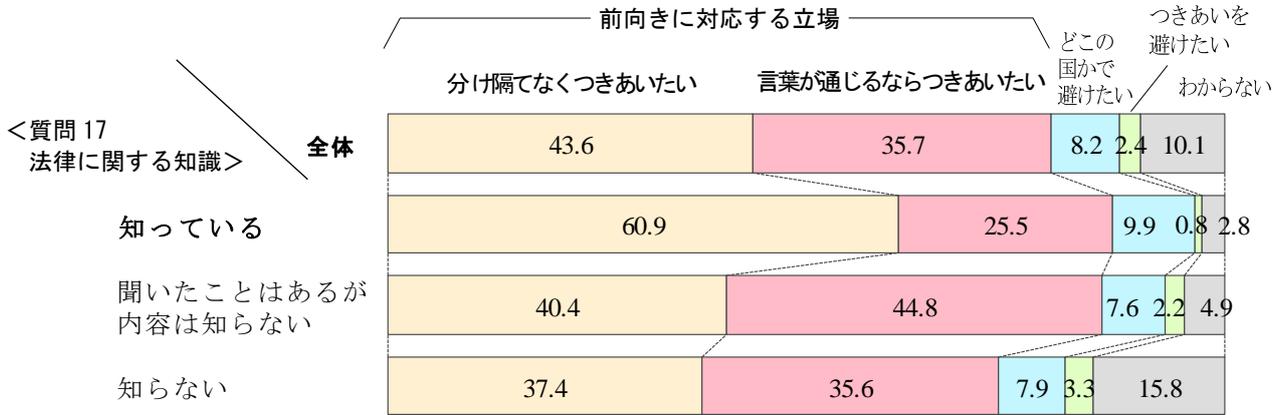
60代では、「ヘイトスピーチ解消法」を「知っている」と答えた人の割合が高く、30代では、「知らない」と答えた人の割合が高い。



クロス集計

「ヘイトスピーチ解消法」について「知っている」と答えた人は、外国人とのつきあいを前向きに対応する立場で考えている人の割合が高い。

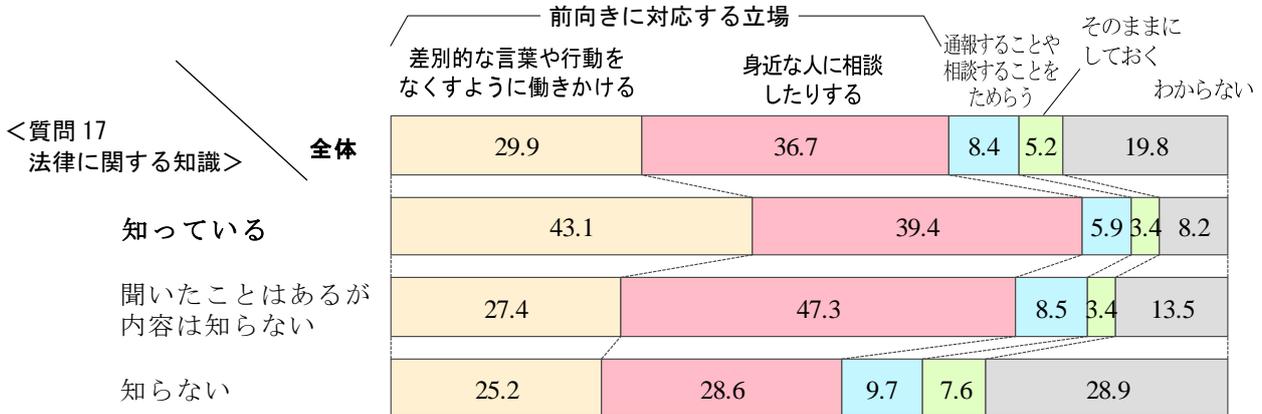
<質問18 外国人とのつきあい>



ヘイトスピーチ解消法について「知っている」と答えた人の中で、外国人とのつきあいについて、「分け隔てなくつきあいたい」と答えた人は 60.9%で最も多く、「言葉が通じるならつきあいたい (25.5%)」と答えた人を合わせると、86.4%の人が前向きな対応を考えている。

「ヘイトスピーチ解消法」について「知っている」と答えた人は、外国人の人権について前向きに対応する立場で考えている人の割合が高い。

<質問19 外国人の人権>



ヘイトスピーチ解消法について「知っている」と答えた人の中で、外国人の人権について、「差別的な言葉や行動をなくすように働きかける」と答えた人は 43.1%で最も多く、「身近な人に相談したりする (39.4%)」と答えた人を合わせると、82.5%の人が前向きな対応を考えている。

# 18 外国人とのつきあいについて

【質問18】 日本に定住する外国人が多くなり、日常生活の中で、外国人と接する機会が多くなっています。外国人とのつきあいについてどう考えますか。あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. 民族・国籍や文化の違いを理解し、同じ人間として分け隔てなくつきあいたい。
2. 日本語・外国語にかかわらず、言葉が通じるならつきあいたい。
3. どこの国（民族）の人かによって、場合によってはつきあいを避けたい。
4. つきあいを避けたい。
5. わからない。

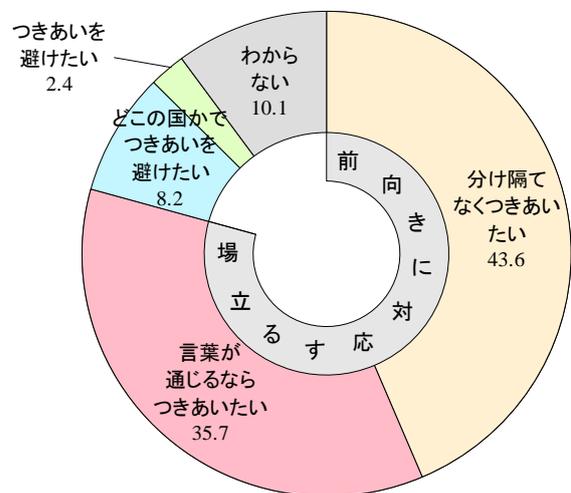
外国人とのつきあいについての意識の状況を調査した。（グラフの数字は%）

## 単純集計

約44%の人が、外国人と「分け隔てなくつきあいたい」と答えている。

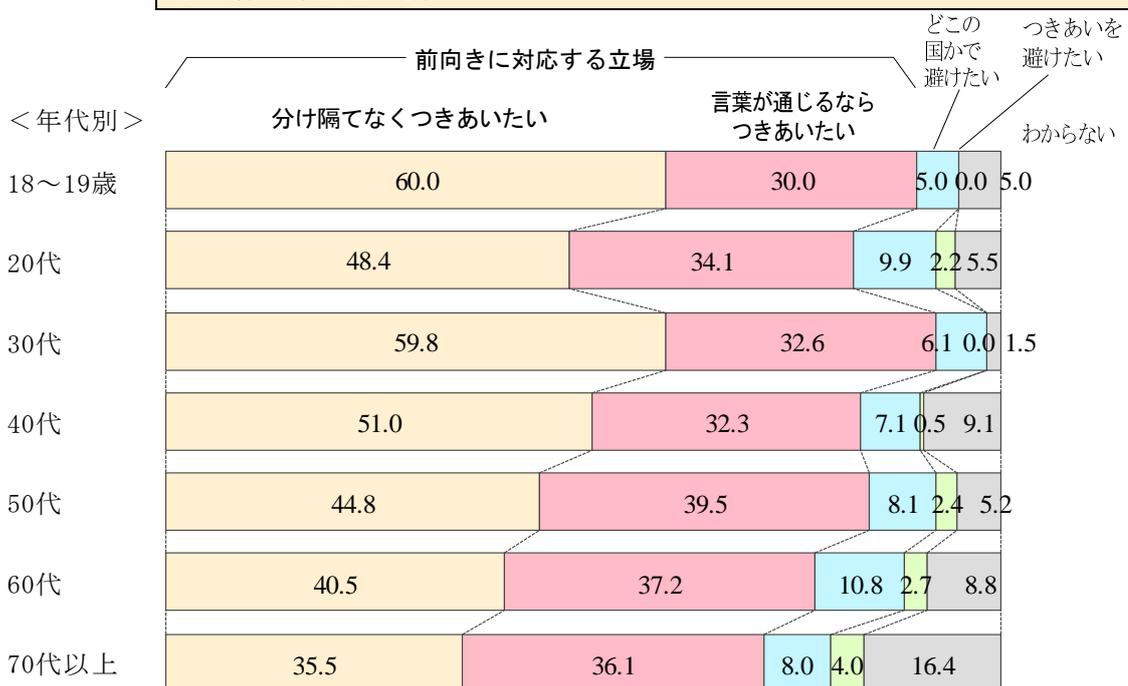
外国人とのつきあいについて、「同じ人間として分け隔てなくつきあいたい」と答えた人は、43.6%で、「言葉が通じるならつきあいたい」と答えた人は、35.7%である。「つきあいたい」という立場で考えている人は、両者を合わせると、79.3%である。

「どこの国（民族）の人かによって、場合によってはつきあいを避けたい」と答えた人は8.2%で、「つきあいを避けたい」と答えた人は2.4%である。



## 年代別集計

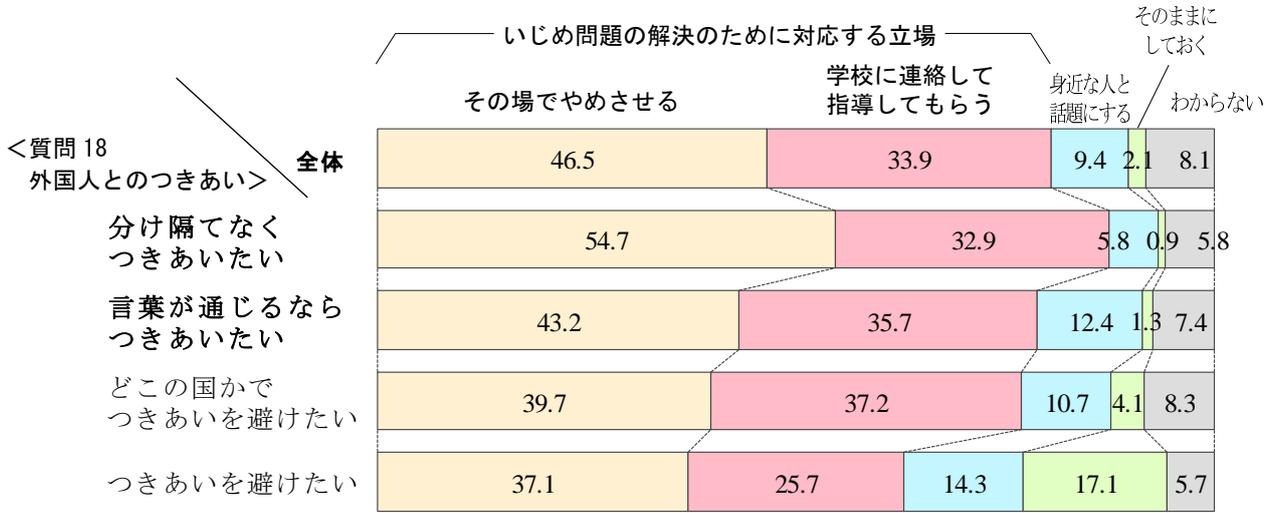
30代では、外国人とのつきあいについて、92%以上の人が前向きに対応する立場で考えている。



クロス集計

外国人とのつきあいについて、前向きに対応する立場で考えている人ほど、子どものいじめ問題の解決のために対応する立場で考えている人の割合が高い。

<質問5 子どもの人権（いじめの問題）>

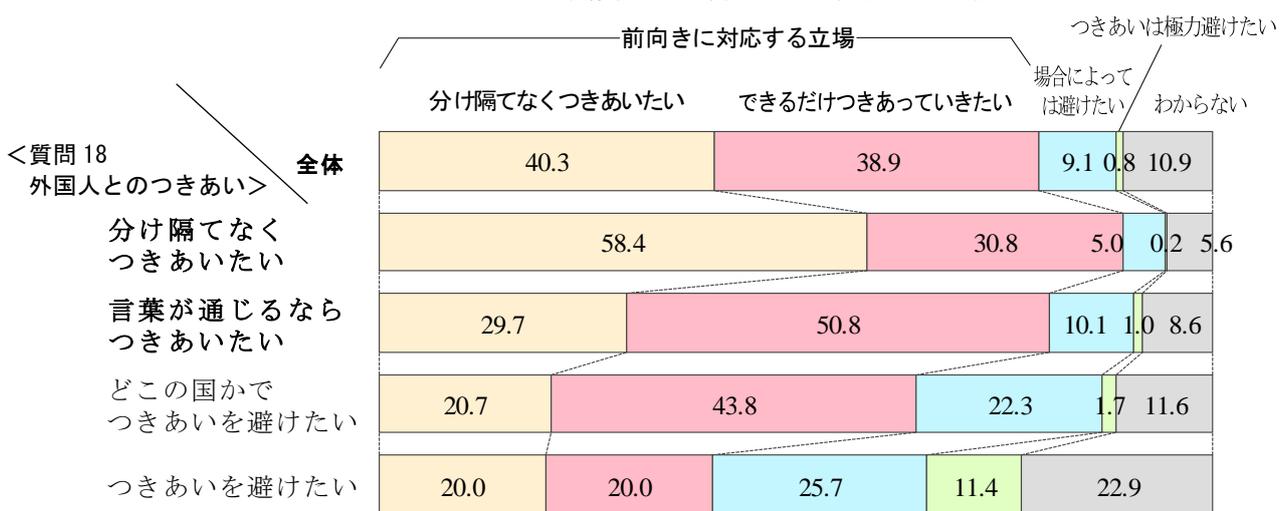


外国人とのつきあいについて、「分け隔てなくつきあいたい」と答えた人の中で、子どものいじめ問題に対して「その場でやめさせる」と答えた人は、54.7%で最も多い。

一方、外国人とのつきあいについて、「つきあいを避けたい」と答えた人の中で、子どものいじめ問題に対して「そのままにしておく」と答えた人は、17.1%で比較的多い。

外国人とのつきあいについて、前向きに対応する立場で考えている人ほど、障がいのある人とのつきあいについて前向きに対応する立場で考えている人の割合が高い。

<質問10 障がいのある人の人権>



外国人とのつきあいについて、「分け隔てなくつきあいたい」と答えた人の中で、障がいのある人とも「分け隔てなくつきあいたい」と答えた人は、58.4%で最も多い。

一方、外国人とのつきあいについて、「つきあいを避けたい」と答えた人の中で、障がいのある人とのつきあいについても「つきあいは極力避けたい」と答えた人は、11.4%で比較的多い。

## 19 外国人の人権について

【質問19】 日本に定住する外国人が、差別的な言葉や行動の被害を受けている疑いがあると感じたとき、どのように行動しますか。あなたのとる行動に近いものを一つだけ選んでください。

1. 同じ人間として分け隔てをすることはまちがっているので、差別的な言葉や行動をなくすよう働きかける。
2. 市の相談窓口や警察などに通報したり、民生委員・児童委員などの身近な人に相談したりする。
3. 偏見や差別があることはしかたがないと思うので、通報することや相談することをためらう。
4. 自分には関係がないので、そのままにしておく。
5. わからない。

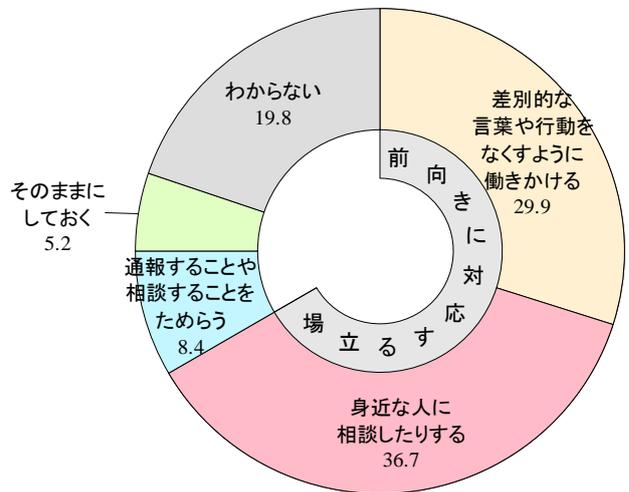
外国人の人権についての意識の状況を調査した。(グラフの数字は%)

### 単純集計

約67%の人が、外国人に対する差別的な言葉や行動をなくすよう働きかけたり、身近な人に相談したりすると考えている。

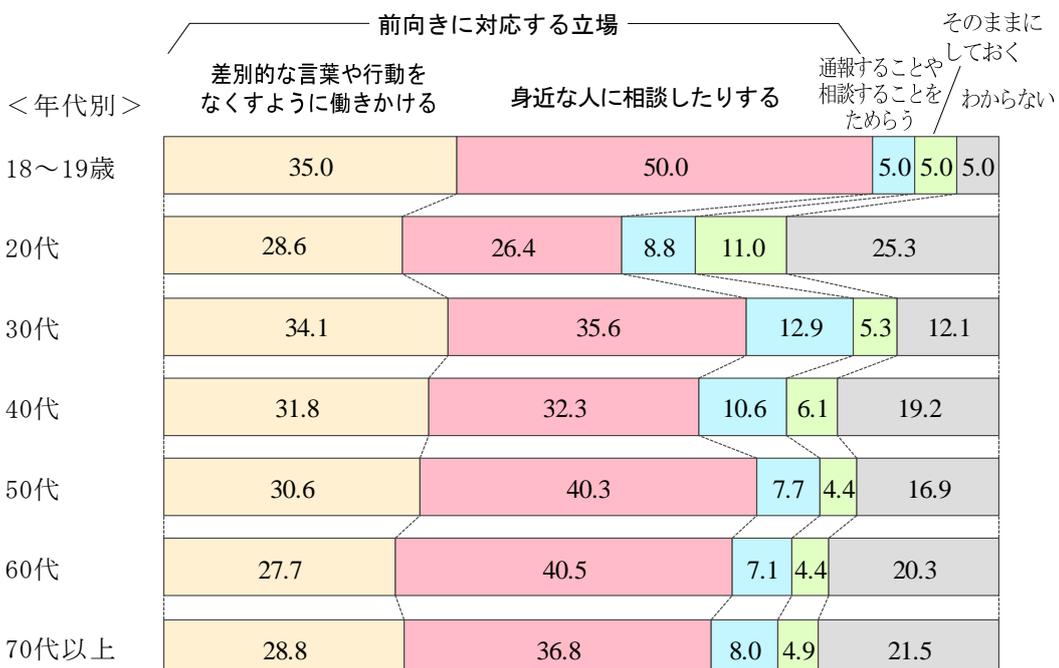
外国人の人権について、「差別的な言葉や行動をなくすよう働きかける」と答えた人は、29.9%で、「身近な人に相談したりする」と答えた人は、36.7%である。前向きに対応する立場の人は、両者を合わせると、66.6%である。

「通報することや相談することをためらう」と答えた人は、8.4%で、「そのままにしておく」と答えた人は、5.2%である。



### 年代別集計

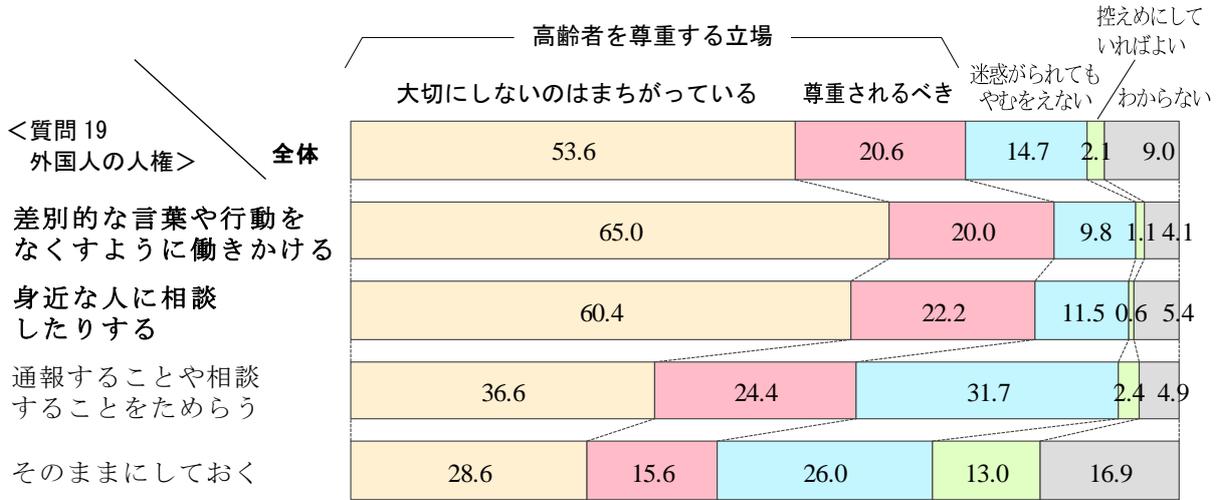
20代を除くすべての年代で、外国人への人権侵害に対して、前向きに対応する立場で考えている人は、6割を超えている。



クロス集計

外国人への人権侵害に対して、前向きに対応する立場の人ほど、高齢者を尊重する立場で考えている人の割合が高い。

<質問7 高齢者の人権>

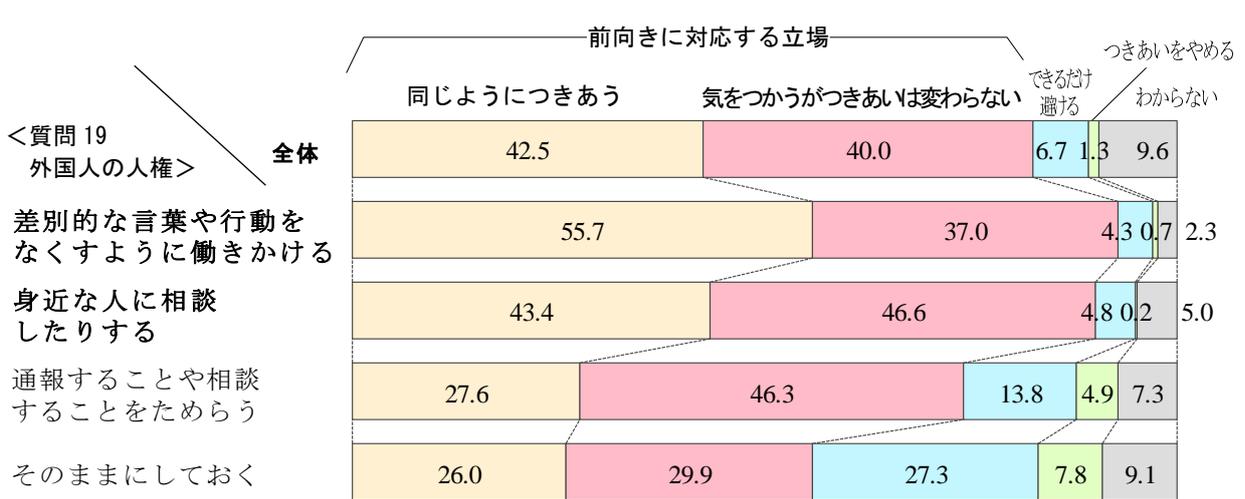


外国人への人権侵害について、「差別的な言葉や行動をなくすように働きかける」と「身近な人に相談したりする」に答えた人の中で、高齢者に対して「大切にしないのはまちがっている」と答えた人の割合が、それぞれ60%以上となっている。

一方、外国人の人権侵害について、「そのままにしておく」と答えた人の中で、高齢者を尊重する立場で答えた人の割合が44.2%で低くなっている。

外国人に対する人権侵害に対して、前向きに対応する立場の人ほど、性的少数者とのつきあいを前向きに対応すると答えた人の割合が高い。

<質問27 性的少数者とのつきあい>



外国人への人権侵害について、「差別的な言葉や行動をなくすように働きかける」と答えた人の中で、性的少数者と「同じようにつきあう」と答えた人は、55.7%で最も多い。

一方、外国人の人権侵害について、「そのままにしておく」と答えた人の中で、性的少数者とのつきあいについて「できるだけ避ける」「つきあいをやめる」と、消極的な立場で答えた人が、合わせて35.1%となっている。

## 20 エイズ患者・HIV感染者の人権について

【質問20】 エイズ患者・HIV感染者に対する差別をなくす取り組みが進められています。さらに、あなたと身近に接している人がHIV感染者であることがわかった場合、あなたはどのようにしますか。あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. その人の気持ちを理解し、支援できることがあれば支援したい。
2. 感染症についての正しい知識を身につけたい。
3. 当事者から直接相談がなければ、そっとしておく。
4. 自分に感染しないかと気がかりなので、あまりかかわらないようにする。
5. わからない。

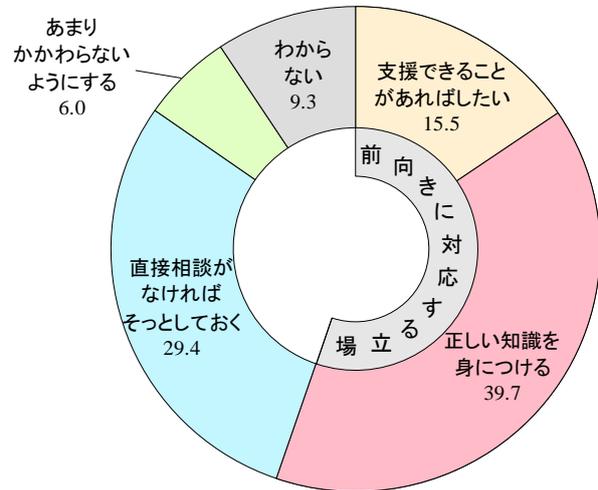
エイズ患者・HIV感染者の人権についての意識の状況を調査した。(グラフの数字は%)

### 単純集計

約55%の人が、エイズ患者・HIV感染者に対する差別の問題について前向きに対応する立場で考えている。

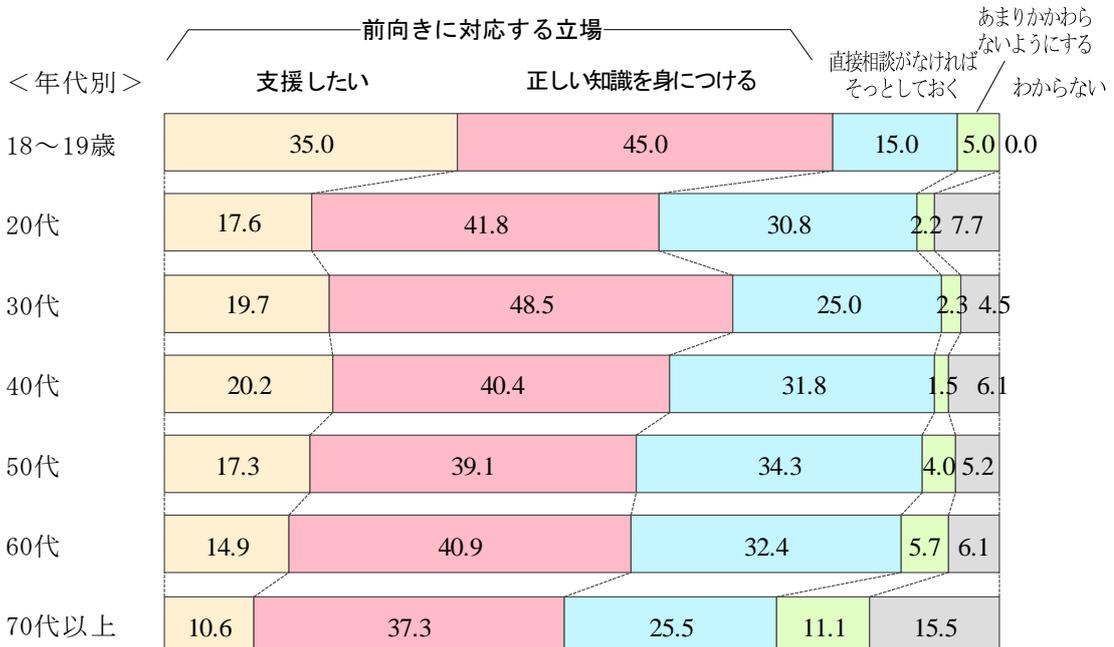
エイズ患者・HIV感染者に対する差別の問題について、「支援したい」と答えた人は、15.5%で、「正しい知識を身につけたい」と答えた人は、39.7%である。合わせて55.2%の人が、前向きに対応する立場で考えている。

「当事者から直接相談がなければ、そっとしておく」と答えた人は、29.4%で、「自分に感染しないかと気がかりなので、あまりかかわらないようにする」と答えた人は、6.0%である。



### 年代別集計

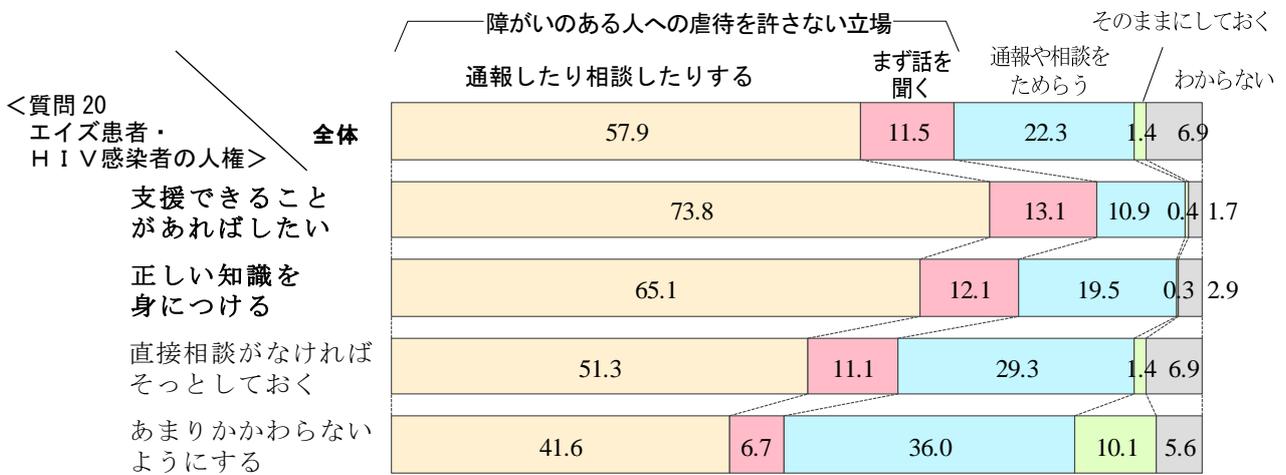
18～19歳、30代では、エイズ患者・HIV感染者に対する差別の問題について前向きに対応する立場で考えている人の割合が比較的高い。



クロス集計

エイズ患者・HIV感染者に対する問題について、前向きに対応する立場で考えている人ほど、障がいのある人への虐待を許さない立場で考えている人の割合が高い。

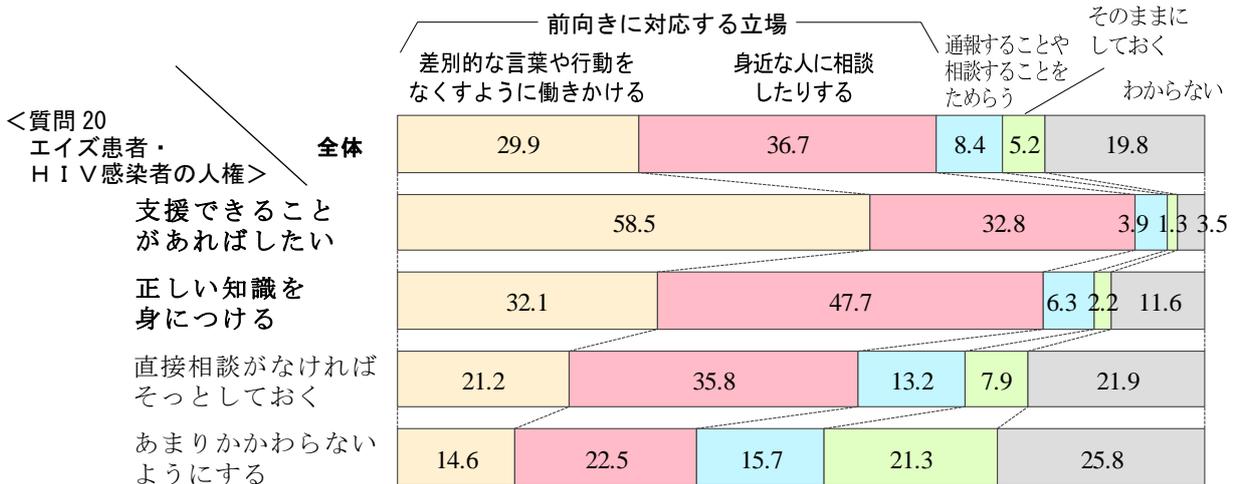
＜質問 1 1 障がいのある人の人権（虐待の問題）＞



エイズ患者・HIV感染者に対する問題について、「支援できることがあればしたい」と答えた人の中で、障がいのある人への虐待に対して「通報や相談したりする」と答えた人は、73.8%で最も多い。一方、エイズ患者・HIV感染者に対する問題について、「あまりかかわらないようにする」と答えた人の中で、障がいのある人への虐待に対して「通報や相談をためらう」「そのままにしておく」と答えた人が、合わせて46.1%で多くなっている。

エイズ患者・HIV感染者に対する問題について、前向きに対応する立場で考えている人ほど、外国人の人権侵害に対して前向きに対応する立場で考えている人の割合が高い。

＜質問 1 9 外国人の人権＞



エイズ患者・HIV感染者に対する問題について、「支援できることがあればしたい」と答えた人の中で、外国人への人権侵害に対して「差別的な言葉や行動をなくすように働きかける」と答えた人は、58.5%で最も多い。一方、エイズ患者・HIV感染者に対する問題について、「あまりかかわらないようにする」と答えた人の中で、外国人への人権侵害に対して「通報や相談をためらう」「そのままにしておく」と答えた人は、合わせて37.0%で多くなっている。

## 21 ハンセン病回復者等の人権について

【質問 21】 「ハンセン病回復者とその家族」に対する差別が、今なお残っています。このことについて、あなたはどのように考えますか。あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. ハンセン病患者・回復者を隔離していたことはまちがいのなので、差別をなくするために必要なことがあれば協力していきたい。
2. 「ハンセン病」やその回復者の人たちのことについて学習したい。
3. 身近な問題として直面したときに考える。
4. あまりかかわらないようにする。
5. わからない。

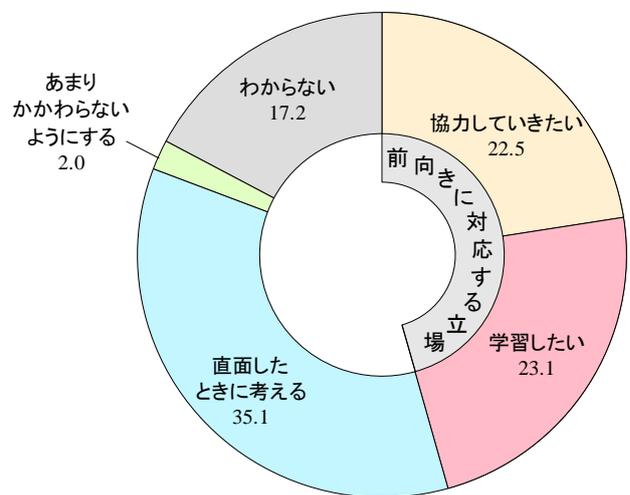
ハンセン病回復者等の人権についての意識の状況を調査した。(グラフの数字は%)

### 単純集計

約46%の人が、ハンセン病回復者等の人権について前向きに考えている。

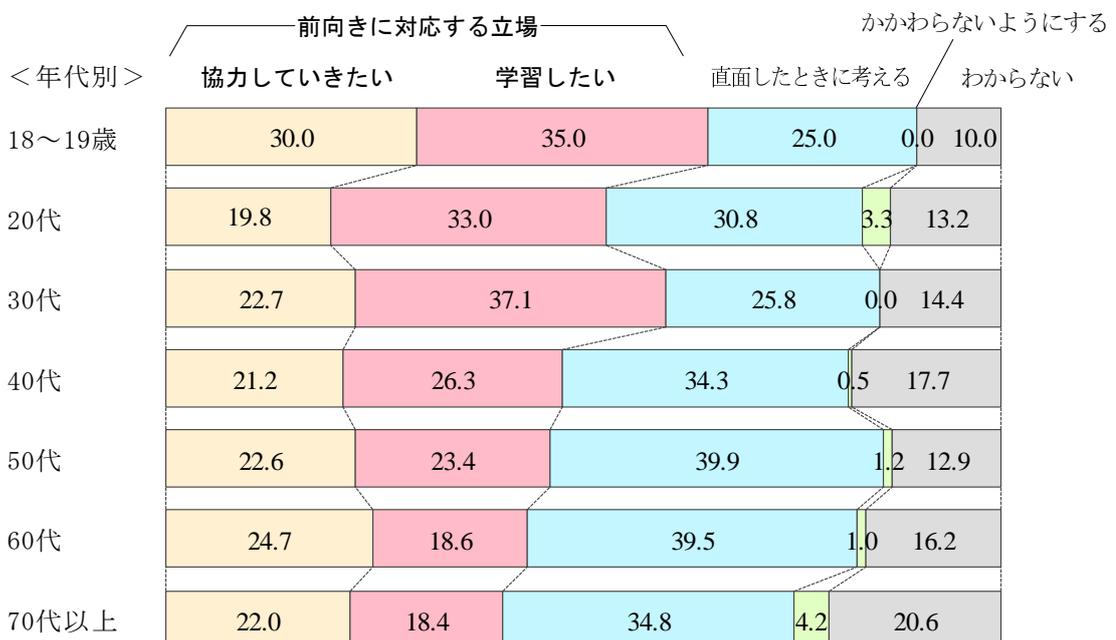
ハンセン病回復者等の人権について、「必要なことがあれば協力していきたい」と答えた人は、22.5%で、「学習したい」と答えた人は、23.1%である。合わせて45.6%の人が、前向きに対応する立場で考えている。

「身近な問題として直面したときに考える」と答えた人は、35.1%で、「あまりかかわらないようにする」と答えた人は、2.0%である。



### 年代別集計

若い世代ほど、ハンセン病回復者等の人権について前向きに対応する立場で考えている人の割合が高い。



クロス集計

ハンセン病回復者等の人権について、前向きに対応する立場で考えている人ほど、子どもへの虐待を許さない立場で考えている人の割合が高い。

<質問6 子どもの人権（虐待の問題）>

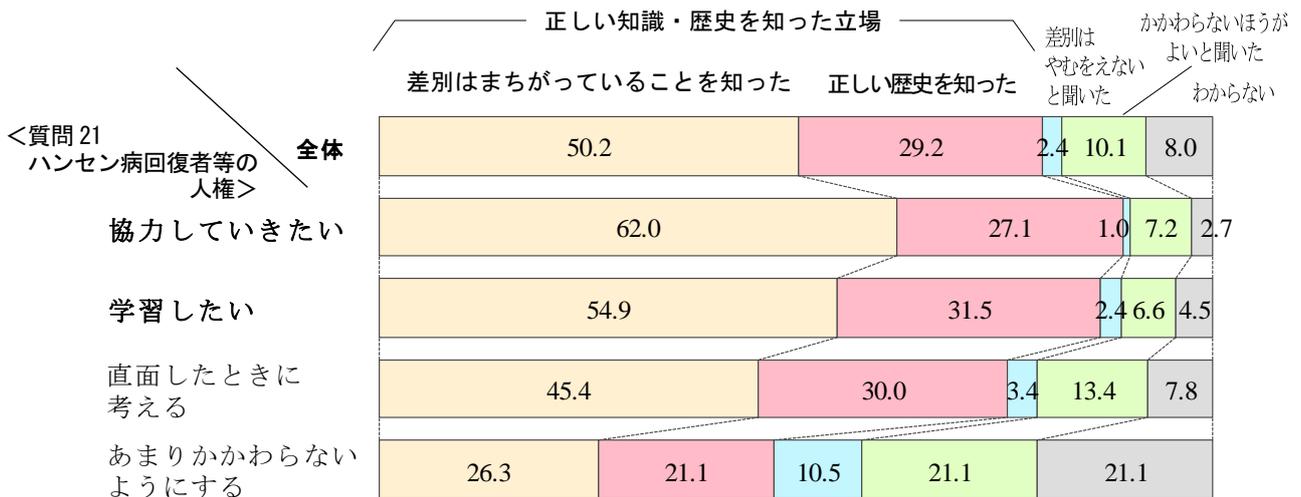


ハンセン病回復者等の人権について、「協力していきたい」と答えた人の中で、子どもへの虐待に対して「通報したり、相談したりする」と答えた人は、81.0%で最も多い。

一方、「あまりかかわらないようにする」と答えた人の中で、子どもへの虐待問題に対して「そのままにしておく」と答えた人は、13.3%で比較的多い。

ハンセン病回復者等の人権について、前向きに対応する立場で考えている人ほど、同和問題について「差別のまちがいと正しい歴史を知った」と答えた人の割合が高い。

<質問14-2 同和問題に関して知った内容>



ハンセン病回復者等の人権について、「協力していきたい」と「学習したい」に答えた人の中で、同和問題について「差別はまちがっていることを知った」「正しい歴史を知った」と答えた人は、合わせてそれぞれ89.1%・86.4%と、共に80%以上になっている。

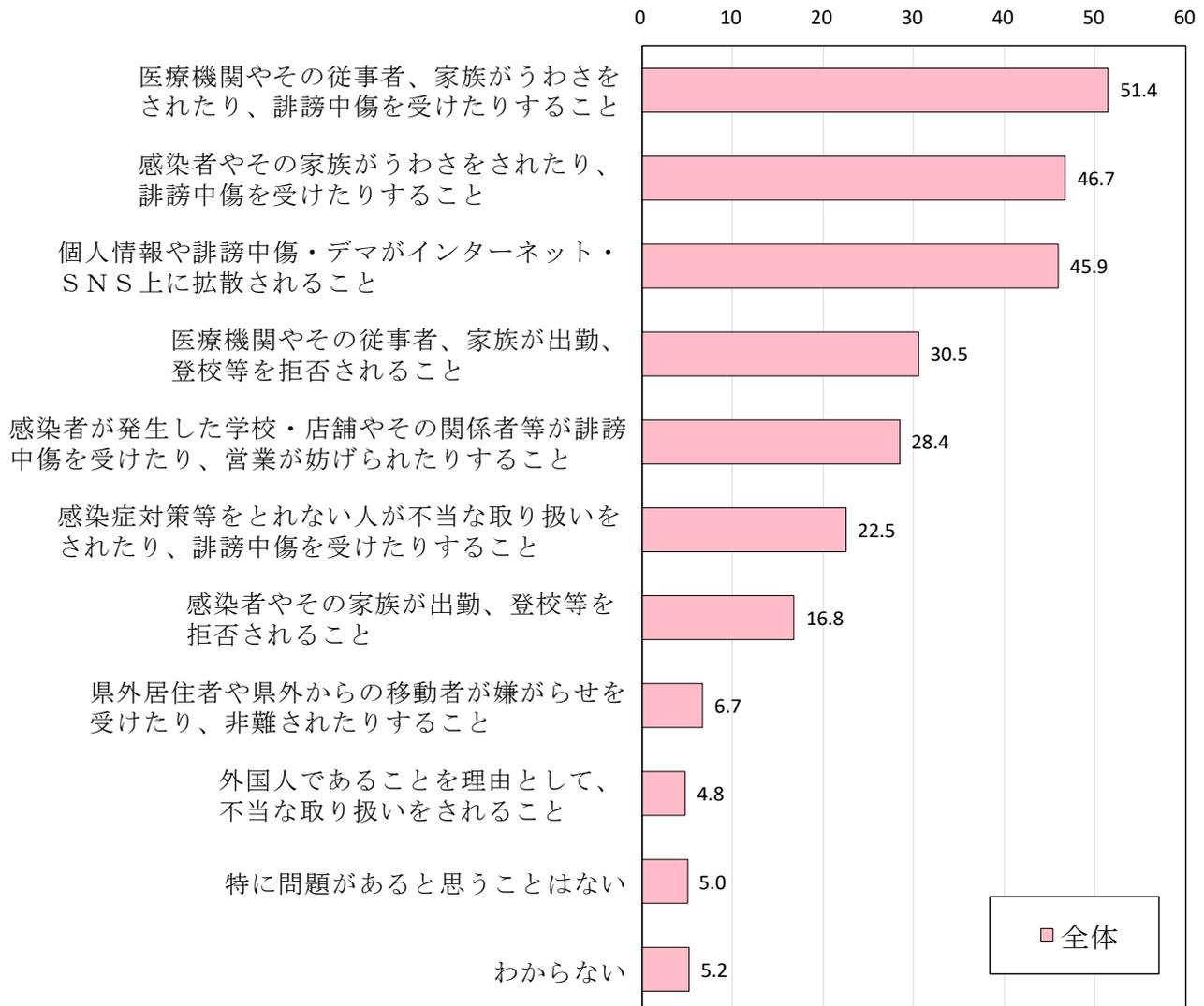
一方、「あまりかかわらないようにする」と答えた人の中で、同和問題では「差別はやむをえない」「かかわらないほうがよいと聞いた」と答えた人が、合わせて31.6%で多くなっている。

## 22 新型コロナ感染者等の人権について

【質問22】 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。次の中から三つまで選んでください。

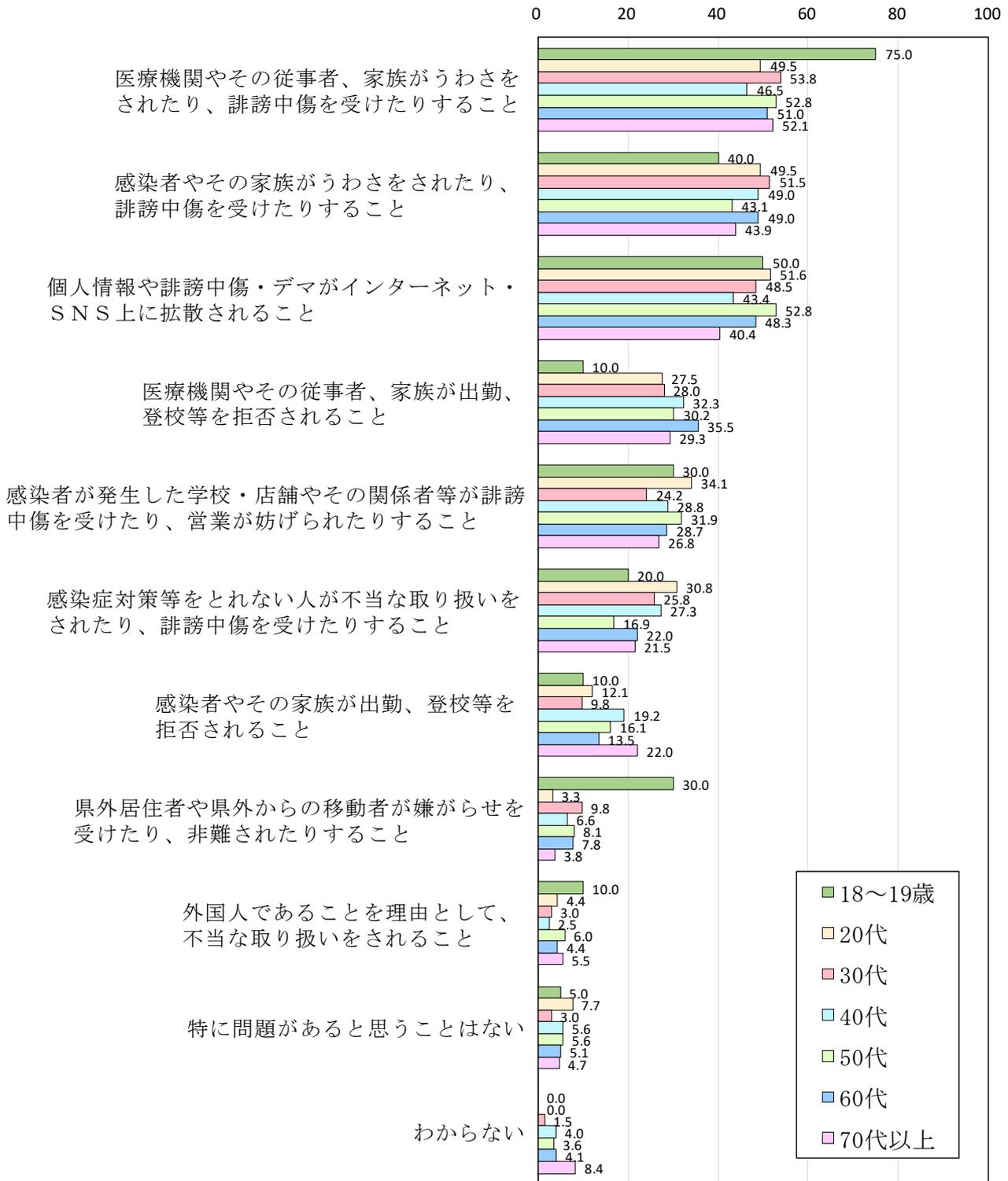
新型コロナ感染者等の人権についての意識の状況を調査した。(グラフの数字は%・複数回答)

《全体集計》



- ・「医療機関やその従事者、家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること」と答えた人が51.4%、「感染者やその家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること」と答えた人が46.7%、「感染者やその関係者等に関して、個人情報や誹謗中傷・デマがインターネット・SNS上に拡散されること」と答えた人が45.9%の順で特に問題があると考えている。

《年代別集計》



- 20代、40代を除く、すべての年代で「医療機関やその従事者、家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること」と答えた人の割合が最も高い。
- 20代では、「個人情報や誹謗中傷・デマがインターネット・SNS上に拡散されること」、40代では、「感染者やその家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること」と答えた人の割合が最も高い。

## 23 刑を終えて出所した人の人権について

【質問23】 刑を終えて出所した人が同じあやまちをせず、社会復帰を図るためには、どうすればよいと考えますか。あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. 社会復帰を願う人に対する誤った認識や偏見をもたず、更生して自立できるように支援する。
2. 行政などが、住居や就職先について相談に応じる。
3. 罪を犯した責任があるので、本人が努力をする。
4. 自分には関係のないことなので、そっとしておく。
5. わからない。

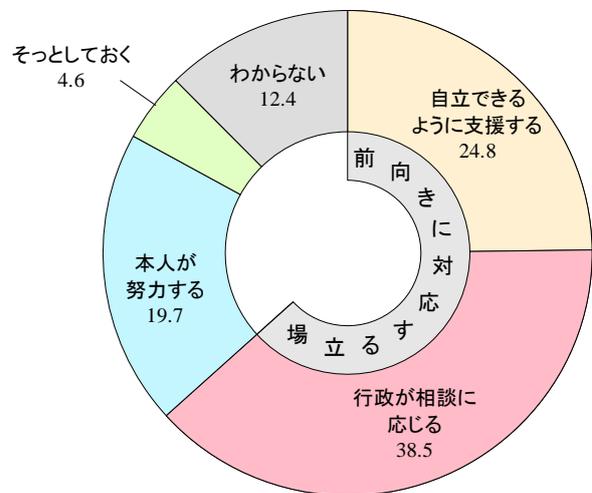
刑を終えて出所した人の人権についての意識の状況を調査した。(グラフの数字は%)

### 単純集計

約63%の人が、前向きに対応する立場で考えている。

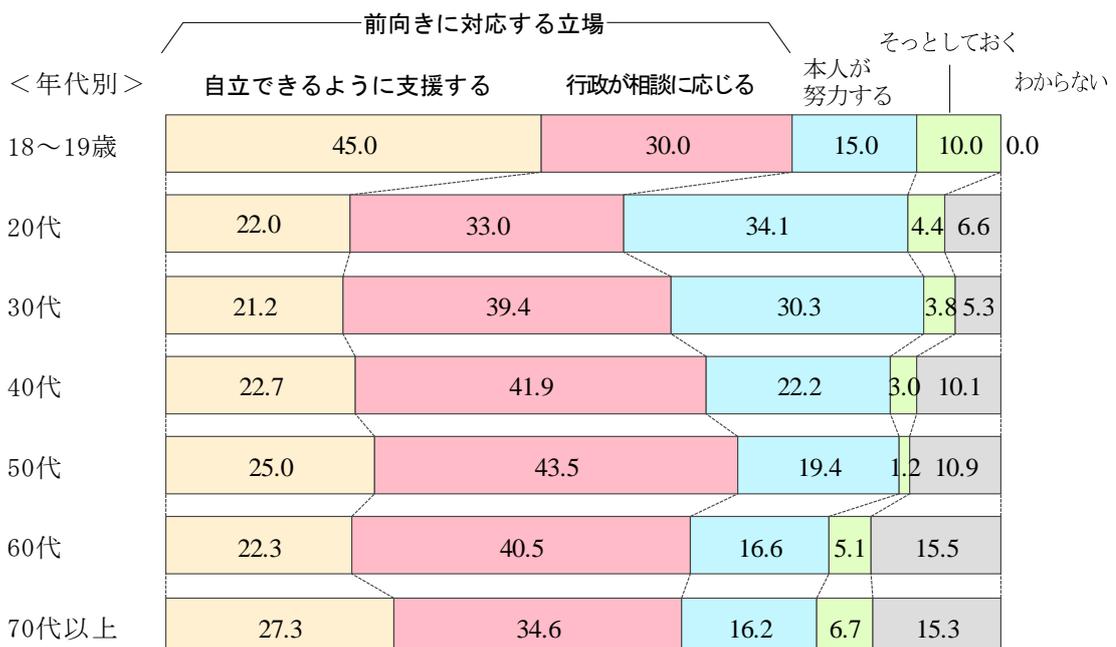
刑を終えて出所した人の人権について、「自立できるように支援する」と答えた人は、24.8%で、「行政等が相談に応じる」と答えた人は、38.5%である。両者を合わせると、63.3%の人が前向きに対応する立場で考えている。

「本人が努力をする」と答えた人は、19.7%で、「そっとしておく」と答えた人は、4.6%である。



### 年代別集計

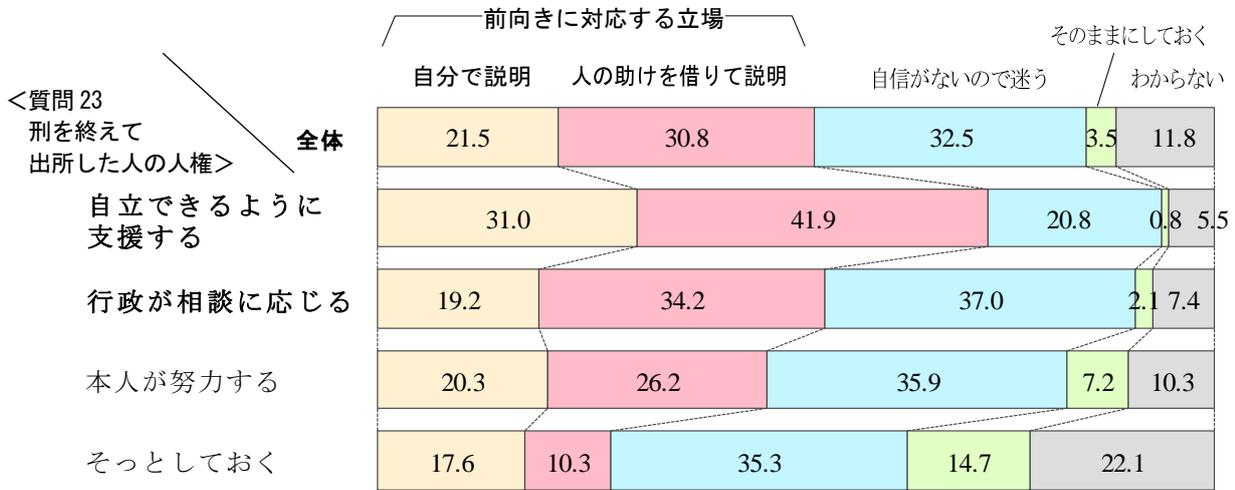
18～19歳、40代、50代では、64%以上の人が前向きに対応する立場で考えている。また、20代、30代では「本人が努力する」と答えた人の割合が高い。



クロス集計

刑を終えて出所した人の人権について、前向きに対応する立場で考えている人ほど、身近な人の差別的な発言や行動に対して前向きに対応する立場の人の割合が高い。

＜質問33 差別的な発言や行動に対する態度＞

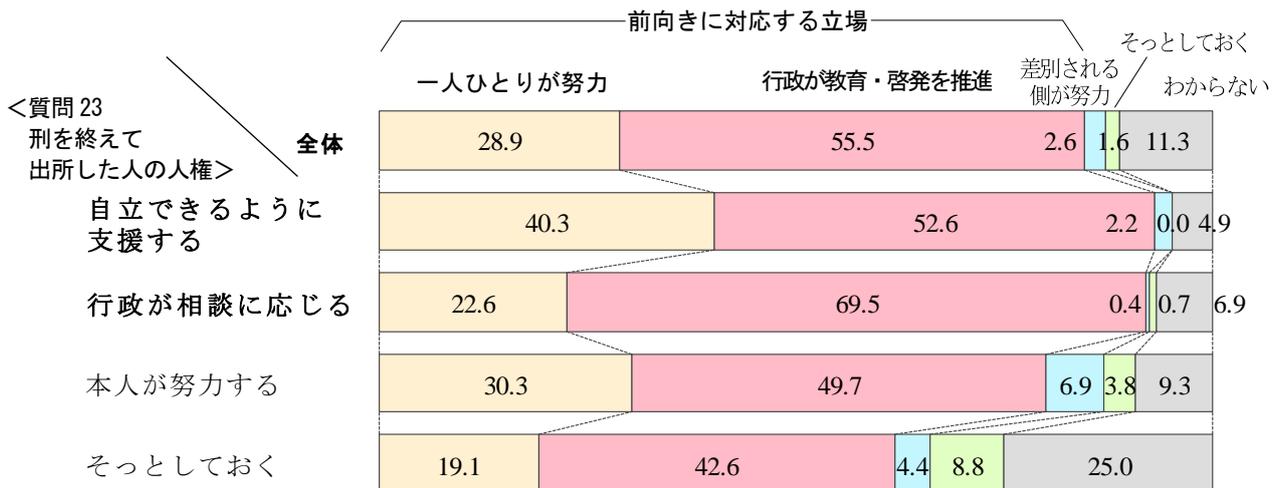


刑を終えて出所した人の人権について、「自立できるように支援する」と答えた人の中で、身近な人が差別的な発言や行動をした場合には、「自分で説明する」と答えた人は、31.0%が多い。

一方、刑を終えて出所した人の人権について、「そっとしておく」と答えた人の中で、差別的な発言や行動を「そのままにしておく」と答えた人は、14.7%で比較的多い。

刑を終えて出所した人の人権について、「自立できるように支援する」と答えた人の中で、人権問題の解決の方策として「一人ひとりが努力」と答えた人は、40.3%となっている。

＜質問34 人権問題の解決の方策＞



刑を終えて出所した人の人権について、「自立できるように支援する」と答えた人の中で、人権問題の解決の方策として「一人ひとりが努力」と答えた人は、40.3%が多い。

一方、刑を終えて出所した人の人権について、「そっとしておく」と答えた人の中で、人権問題の解決の方策として「一人ひとりが努力」と答えた人は、19.1%で比較的小さい。

## 24 犯罪被害者等の人権について

【質問24】 犯罪の被害にあった人やその家族が、社会の理解不足から好奇の目にさらされて苦しんだり、被害によって経済的に困ったりすることがあります。このことについて、あなたはどのように考えますか。あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. マスコミ報道をはじめ、社会全体や一人ひとりが、心情を思いやる配慮をすることが大切である。
2. まず、犯罪の被害に対しての補償が必要である。
3. 好奇の目にさらされたりすることはある程度やむをえない。
4. そうした人がまわりにいないので、あまり考えたことがない。
5. わからない。

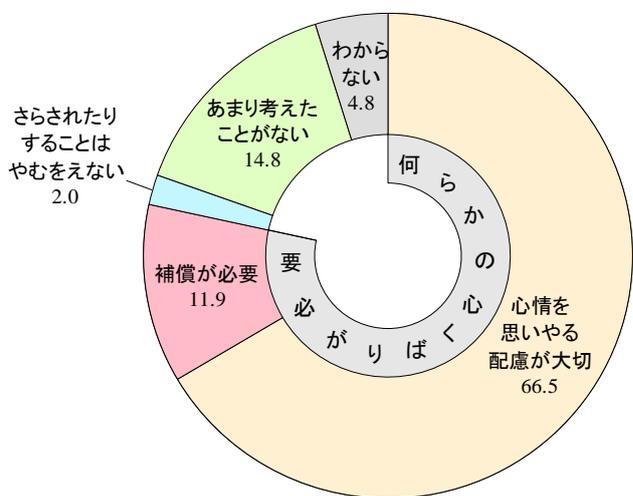
犯罪被害者等の人権についての意識の状況を調査した。(グラフの数字は%)

### 単純集計

約78%の人が、犯罪被害者等への何らかの心くばりが大切だと考えている。

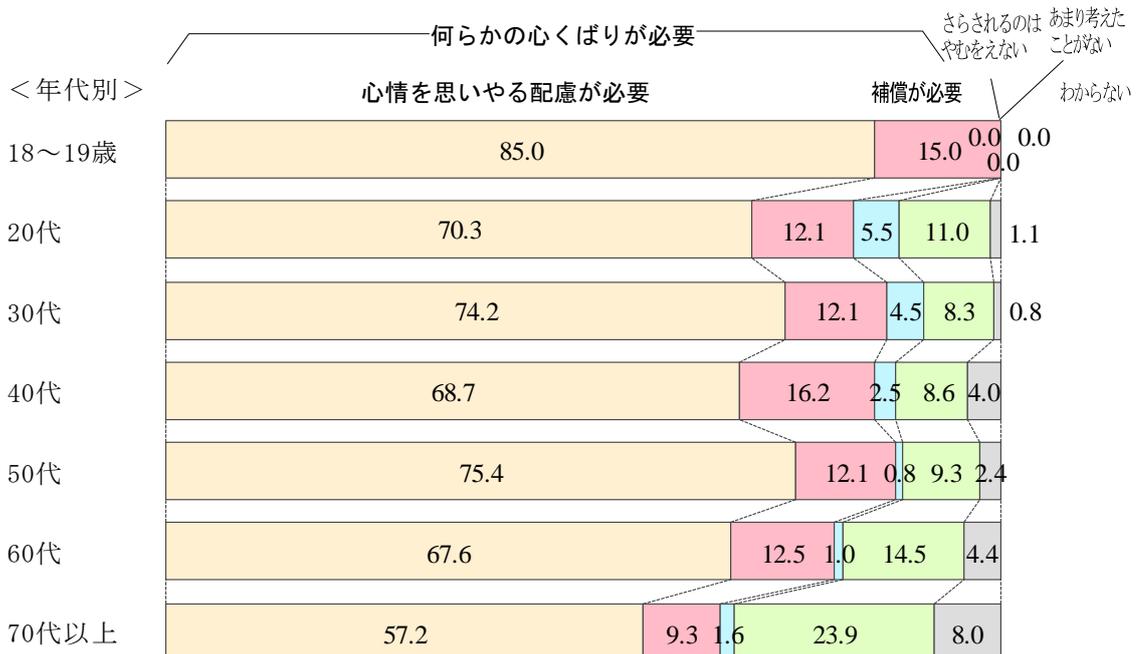
犯罪の被害にあった人やその家族などに対して、「心情を思いやる配慮が大切」と答えた人は、66.5%で、「補償が必要だ」と答えた人は、11.9%である。合わせて78.4%の人が、何らかの心くばりが必要であるという立場で考えている。

「あまり考えたことがない」と答えた人は、14.8%で、「好奇の目にさらされることはある程度やむをえない」と答えた人は、2.0%である。



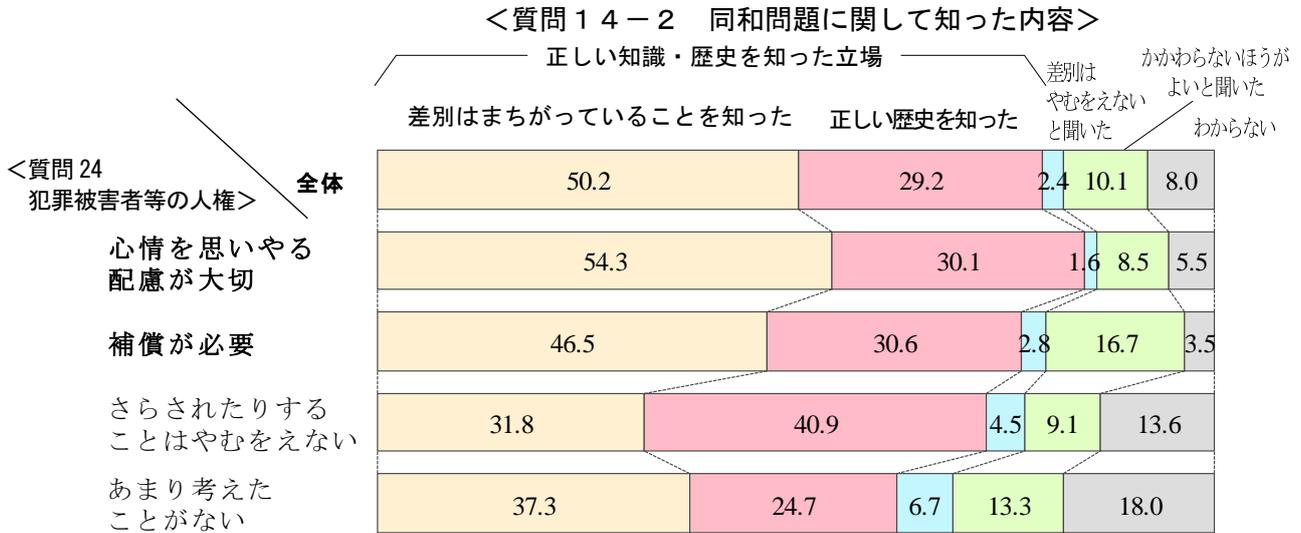
### 年代別集計

70代以上を除いて、すべての年代で、犯罪の被害にあった人やその家族に対して、何らかの心くばりが必要と考えている人の割合が8割以上で高い。



クロス集計

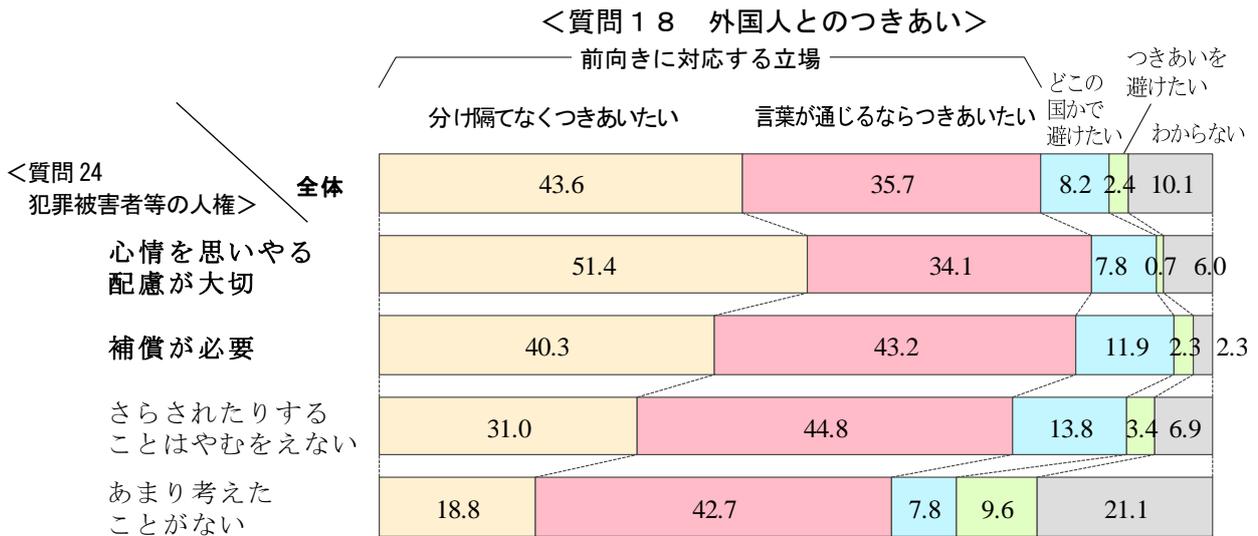
犯罪の被害にあった人やその家族に対して、何らかの心くばりが大切だと考えている人ほど、同和問題について、正しい知識・歴史を知ったという立場で答えた人の割合が高い。



犯罪の被害にあった人やその家族に対して、「心情を思いやる配慮が大切」と答えた人の中で、同和問題について「差別はまちがっていることを知った」「正しい歴史を知った」と答えた人は、合わせて84.4%で最も多い。

一方、犯罪の被害にあった人やその家族の人たちに対して、「あまり考えたことがない」と答えた人の中で、同和問題について、正しい知識・歴史を知ったという立場で答えた人の割合が低くなっている。

犯罪の被害にあった人やその家族に対して、何らかの心くばりが大切だと考えている人ほど、外国人とのつきあいを前向きに対応する立場で考えている人の割合が高い。



犯罪の被害にあった人やその家族に対して、「心情を思いやる配慮が大切」と答えた人の中で、外国人と「分け隔てなくつきあいたい」と答えた人は、51.4%で最も多い。

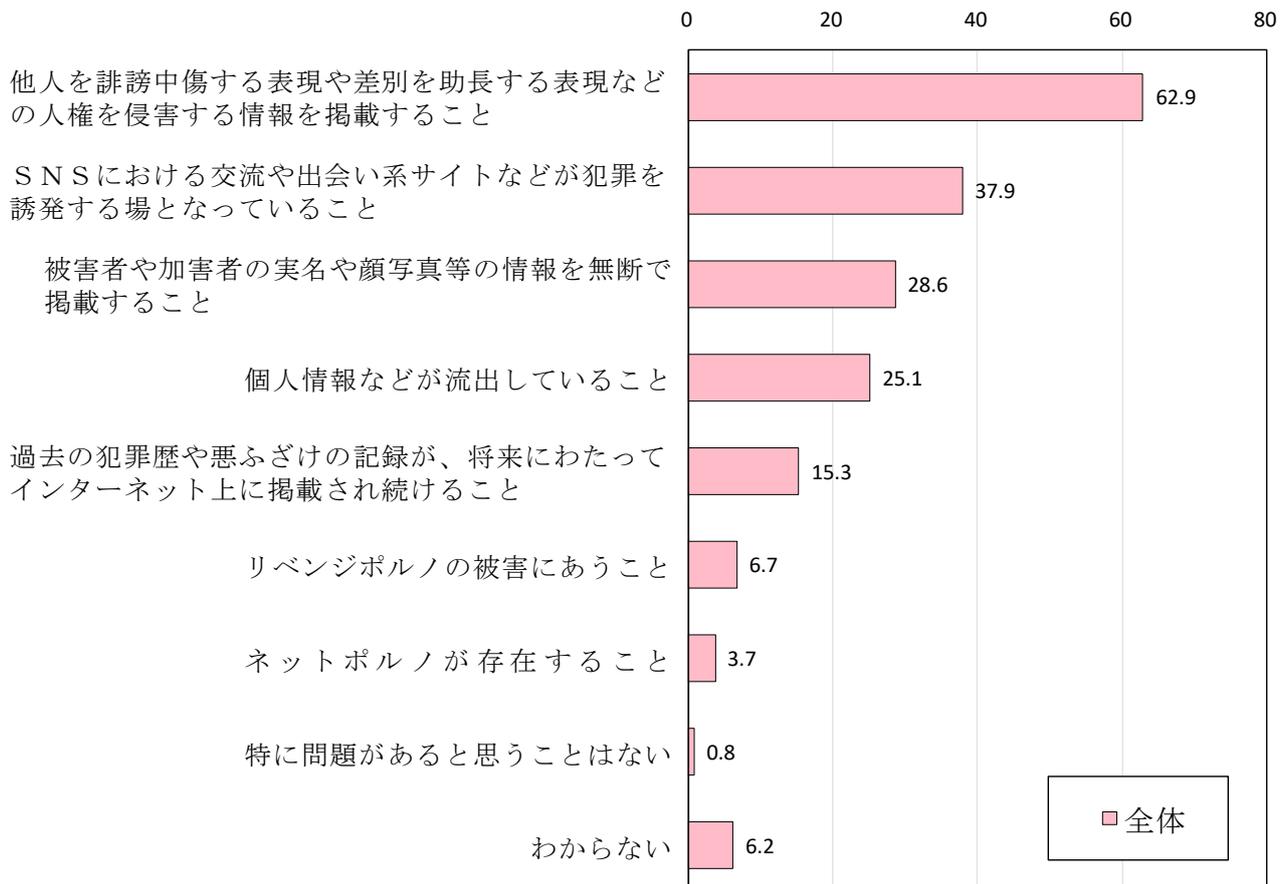
一方、犯罪の被害にあった人やその家族に対して、「あまり考えたことがない」と答えた人の中で、外国人とのつきあいについて前向きに対応する立場で考えている人の割合が低くなっている。

## 25 インターネットの悪用による人権侵害の問題について

【質問25】 インターネットによる人権侵害について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。次の中から二つまで選んでください。

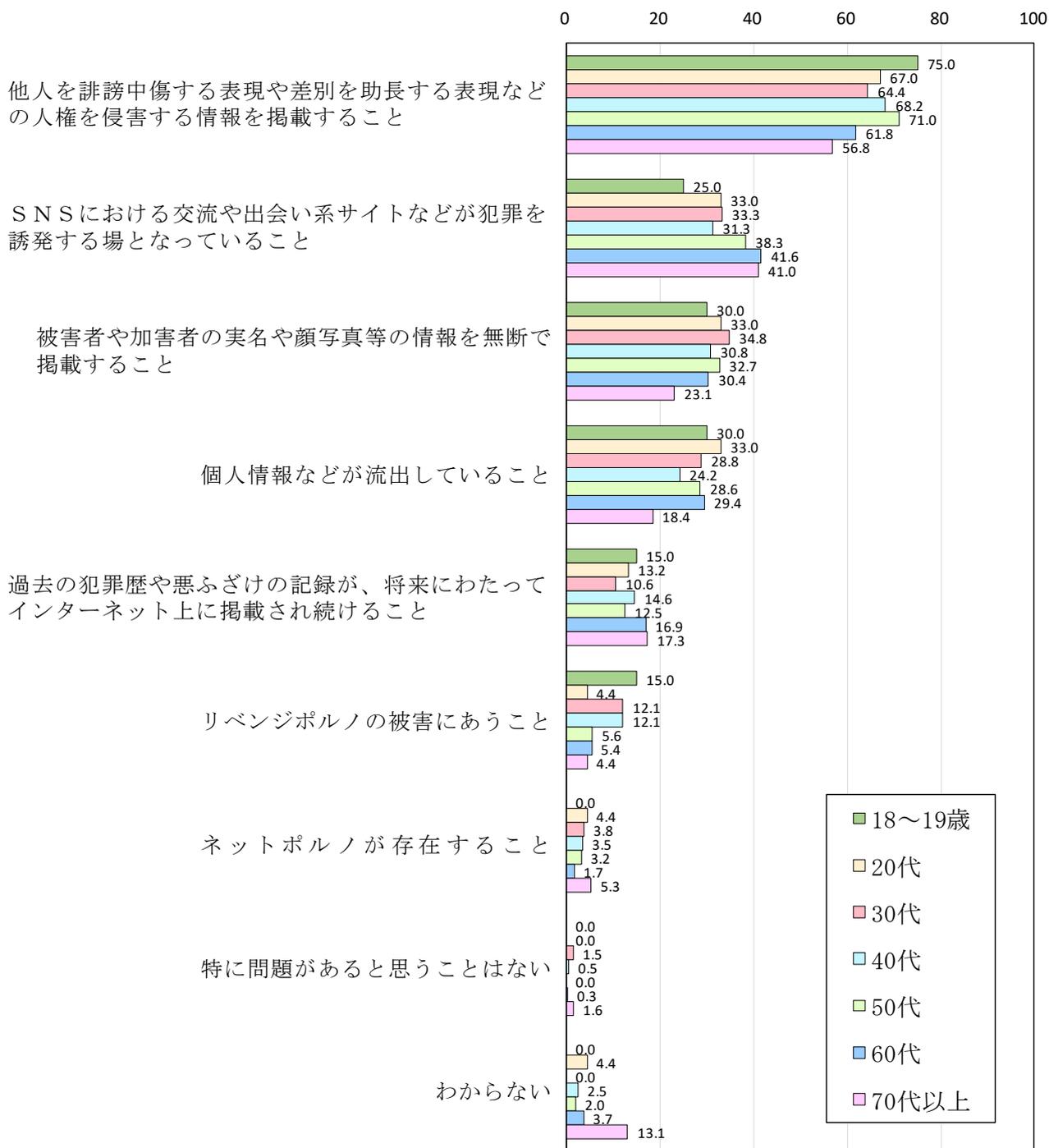
インターネットの悪用による人権侵害の問題についての意識の状況を調査した。(グラフの数字は%・複数回答)

《全体集計》



- ・「他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現などの人権を侵害する情報を掲載すること」と答えた人が 62.9%、「SNSにおける交流や出会い系サイトなどが犯罪を誘発する場となっていること」と答えた人が 37.9%、「被害者や加害者の実名や顔写真等の情報を無断で掲載すること」と答えた人が 28.6%、「個人情報などが流出している」と答えた人が 25.1%の順で特に問題があると考えている。
- ・続いて、「過去の犯罪歴や悪ふざけの記録が、将来にわたってインターネット上に掲載され続けること」と答えた人が 15.3%、「リベンジポルノの被害にあうこと」と答えた人が 6.7%、「ネットポルノが存在すること」と答えた人が 3.7%で、順に少なくなっている。

《年代別集計》



- ・ 「他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現などの人権を侵害する情報を掲載すること」については、年齢が低い世代ほど、インターネットによる人権侵害で特に問題があると考えている。
- ・ 「SNSにおける交流や出会い系サイトなどが犯罪を誘発する場となっていること」については、年齢が高い世代ほど、インターネットによる人権侵害で特に問題があると考えている。

## 26 インターネットの悪用による人権侵害について

【質問26】 インターネットを使って人を中傷したり、プライバシーをあばきたてたり、差別をあおるような文書を流したりすることが増えています。あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. 一人ひとりがマナーを守り、そうしたことをしないようにする。
2. 法律できちんと取り締まる。
3. インターネットが普及した現代では、そういうことは避けられないことである。
4. あまり自分にはかかわりが無いので関心がない。
5. わからない。

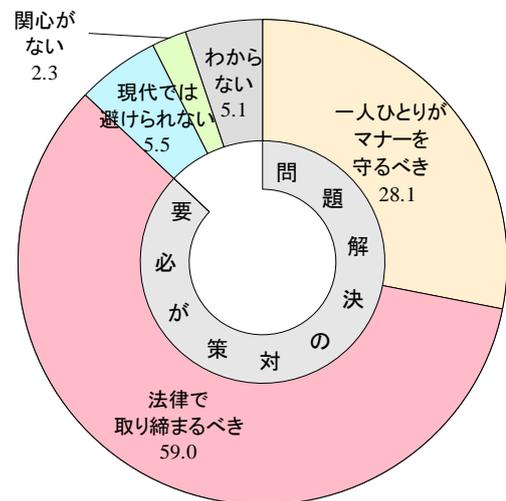
インターネットの悪用による人権侵害についての意識の状況を調査した。(グラフの数字は%)

### 単純集計

約87%の人が、インターネットの悪用による人権侵害に対して、問題解決の対策が必要であるという立場で考えている。

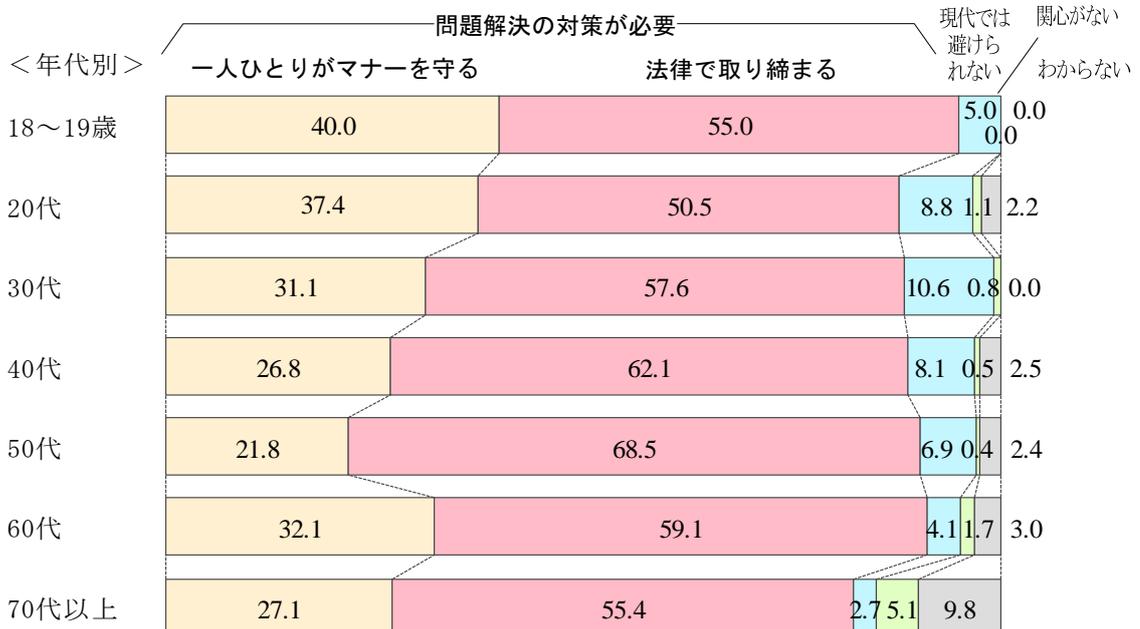
インターネットの悪用による人権侵害に対して「一人ひとりがそうしたことをしないようにすべきだ」と答えた人は、28.1%で、「法律で取り締まるべきだ」と答えた人は、59.0%である。合わせて87.1%の人が、問題解決の対策が必要であるとの立場で考えている。

「現代ではそういうことは避けられない」と答えた人は5.5%で、「関心がない」と答えた人は、2.3%である。



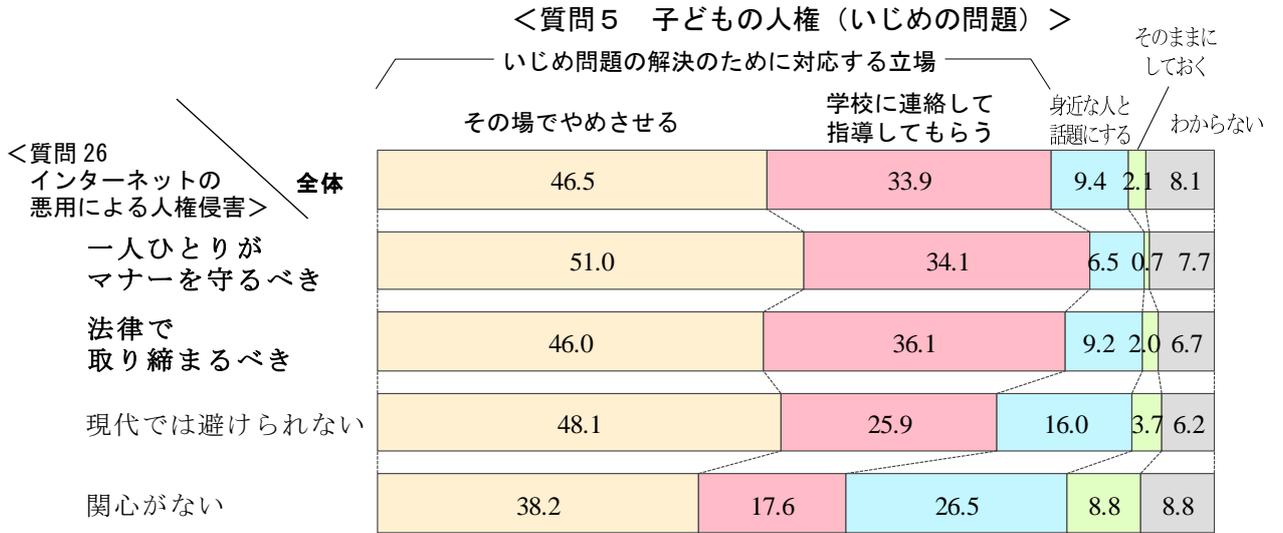
### 年代別集計

すべての年代で、インターネットの悪用による人権侵害に対して、問題解決の対策が必要であると考えている人の割合が8割を超えている。



クロス集計

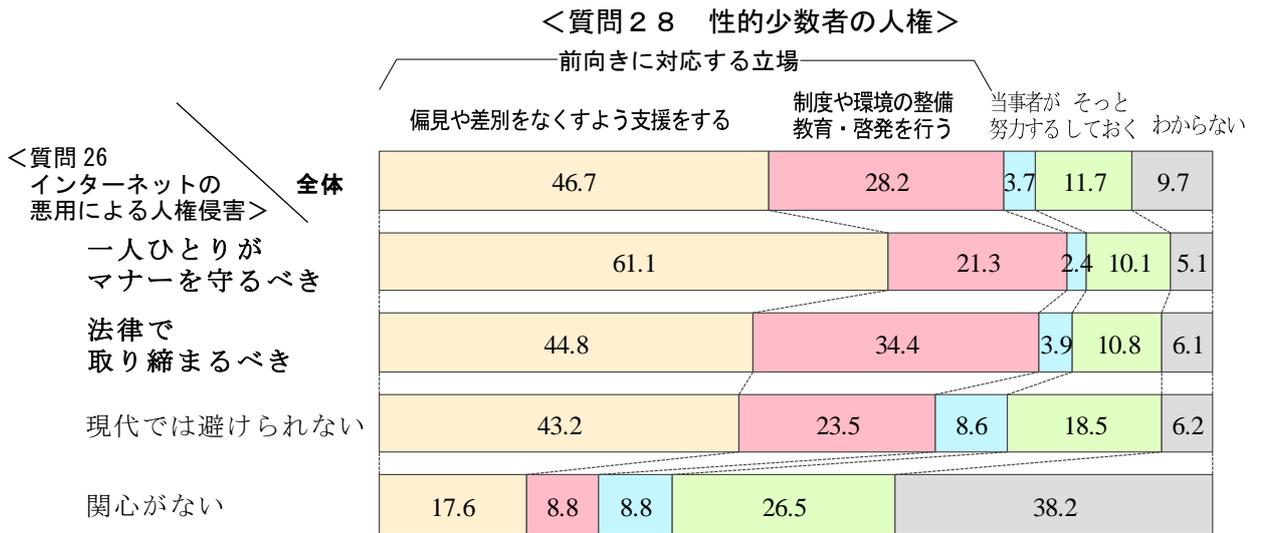
インターネットの悪用による人権侵害に対して、問題解決の対策が必要であると考える人ほど、子どものいじめ問題の解決のために対応する立場の人の割合が高い。



インターネットの悪用による人権侵害に対して、「一人ひとりがマナーを守るべき」と答えた人の中で、子どものいじめ問題に対して「その場でやめさせる」「学校に連絡して指導してもらう」と、何らかの対応する立場で答えた人は、合わせて85.1%で最も多い。

一方、「関心がない」と答えた人の中で、子どものいじめ問題に対して「身近な人と話題にする」と、「そのままにしておく」と答えた人は、合わせて35.3%と多くなっている。

インターネットの悪用による人権侵害に対して、問題解決の対策が必要であると考える人ほど、性的少数者の人権について前向きに対応する立場で考えている人の割合が高い。



インターネットの悪用による人権侵害に対して、「一人ひとりがマナーを守るべき」と答えた人の中で、性的少数者の「偏見や差別をなくすよう支援する」と答えた人は、61.1%で最も多い。

一方、「関心がない」と答えた人の中で、性的少数者の人権について前向きに対応する立場で答えた人の割合が低くなっている。

## 27 性的少数者とのつきあいについて

【質問27】 日頃から親しくつきあっている友人や職場の人、近所の人、性的指向が少数派である人（同性愛者、両性愛者、無性愛者など）や性別違和を感じている人であることがわかったとき、あなたはどうしますか。あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. これまでと変わらず同じようにつきあっていく。
2. 少しは気になるが、つきあいは変わらない。
3. 表面的にはつきあうが、できるだけつきあいを避けていく。
4. つきあいをやめてしまう。
5. わからない。

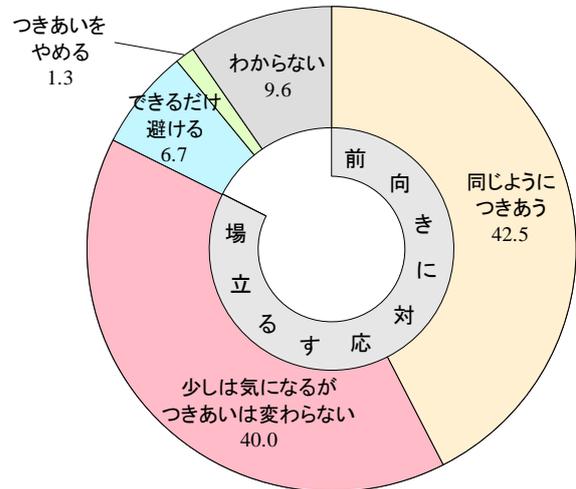
性的少数者とのつきあいについての意識の状況を調査した。（グラフの数字は％）

### 単純集計

82.5％の人が、性的指向が少数派である人や性別違和を感じている人などの性的少数者と「つきあっていく」立場で考えている。

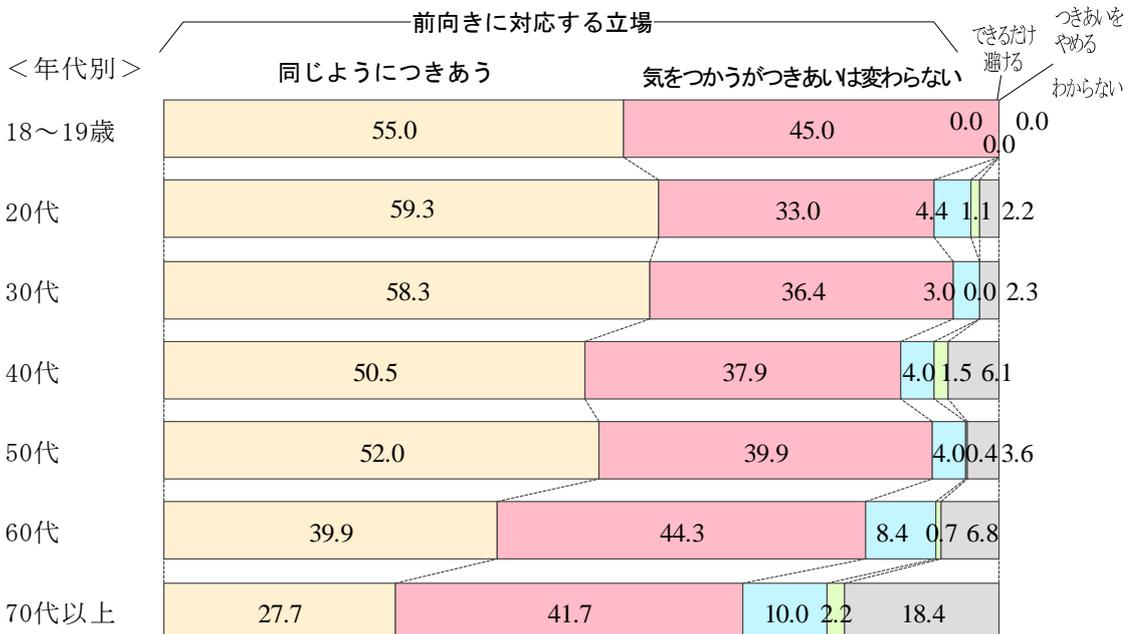
性的指向が少数派である人や性別違和を感じている人などの性的少数者とのつきあいについて、「これまでと同じようにつきあっていく」と答えた人は、42.5％で、「少しは気になるが、つきあいは変わらない」と答えた人は、40.0％である。合わせて 82.5％の人が、「つきあっていく」立場で考えている。

「できるだけつきあいを避けていく」と答えた人は、6.7％で、「つきあいをやめる」と答えた人は、1.3％である。



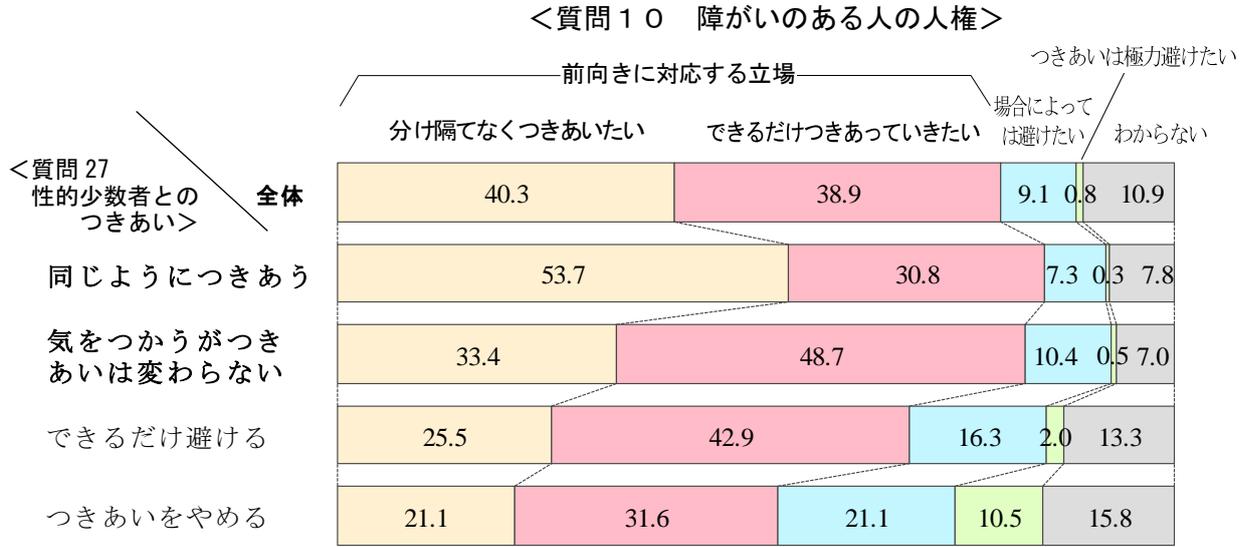
### 年代別集計

若い世代ほど、性的指向が少数派である人や性別違和を感じている人などの性的少数者とのつきあいについて、前向きに対応する立場で考えている。



クロス集計

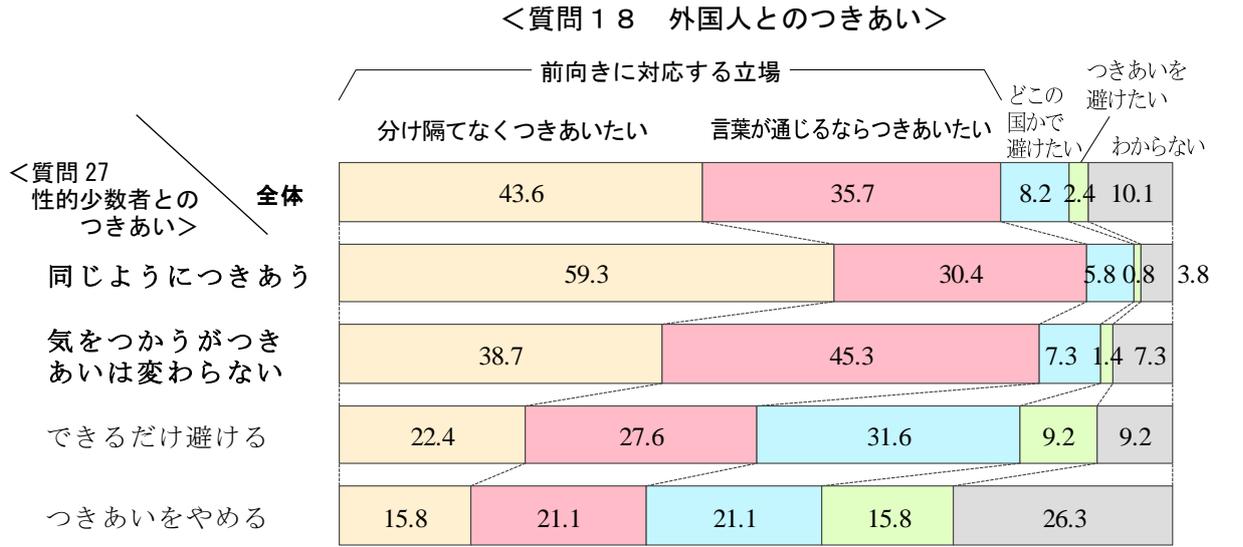
性的指向が少数派である人や性別違和を感じている人たちと「つきあっていく」という立場で考えている人ほど、障がいのある人とのつきあいを前向きに対応する立場の人の割合が高い。



性的指向が少数派である人や性別違和を感じている人たちと「同じようにつきあう」と答えた人の中で、障がいのある人と「分け隔てなくつきあいたい」と答えた人は、53.7%で最も多い。

一方、性的少数者との「つきあいをやめる」と答えた人の中で、障がいのある人とのつきあいを「場合によっては避けたい」「つきあいは極力避けたい」と答えた人は、合わせて31.6%で比較的多い。

性的指向が少数派である人や性別違和を感じている人たちと、「これまでと同じようにつきあっていく」という立場で考えている人ほど、外国人とのつきあいで前向きに対応する立場の人の割合が高い。



性的指向が少数派である人や性別違和を感じている人たちと「これまでと同じようにつきあう」と答えた人の中で、外国人と「分け隔てなくつきあいたい」と答えた人は、59.3%で最も多い。

一方、性的少数者との「つきあいをやめる」と答えた人の中で、外国人との「つきあいを避けたい」と答えた人が、15.8%で比較的多い。

## 28 性的少数者の人権について

【質問28】 性的指向が少数派である人（同性愛者、両性愛者、無性愛者など）や性別違和を感じている人が、自分らしく生きることのできる多様性を認める社会をつくるためには、どうすればよいと考えますか。あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. 市民一人ひとりが、性の多様性について正しく理解し、偏見や差別をなくすよう支援をする。
2. 国・県・市などの行政や学校が、制度や環境を整えたり、教育・啓発を行ったりする。
3. 当事者の人たちが、努力する必要がある。
4. そっとしておけばよい。
5. わからない。

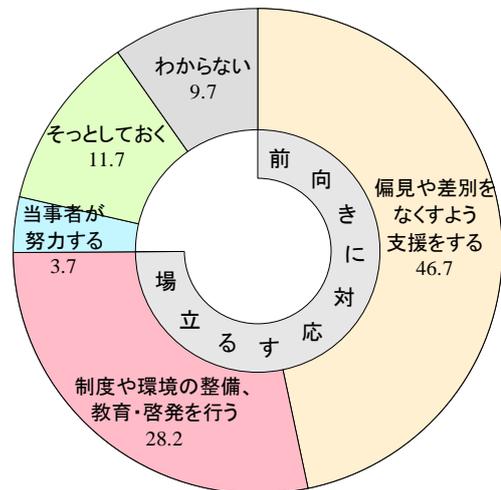
性的少数者の人権についての意識の状況を調査した。（グラフの数字は％）

### 単純集計

約75％の人が、性的少数者の人権について前向きに対応する立場で考えている。

性的少数者の人権に対して、「偏見や差別をなくすよう支援をする」と答えた人は、46.7％で、「制度や環境の整備、教育・啓発を行う」と答えた人は、28.2％である。合わせて74.9％の人が、前向きに対応する立場で答えている。

「当事者が努力する」と答えた人は3.7％で、「そっとしておく」と答えた人は、11.7％である。



### 年代別集計

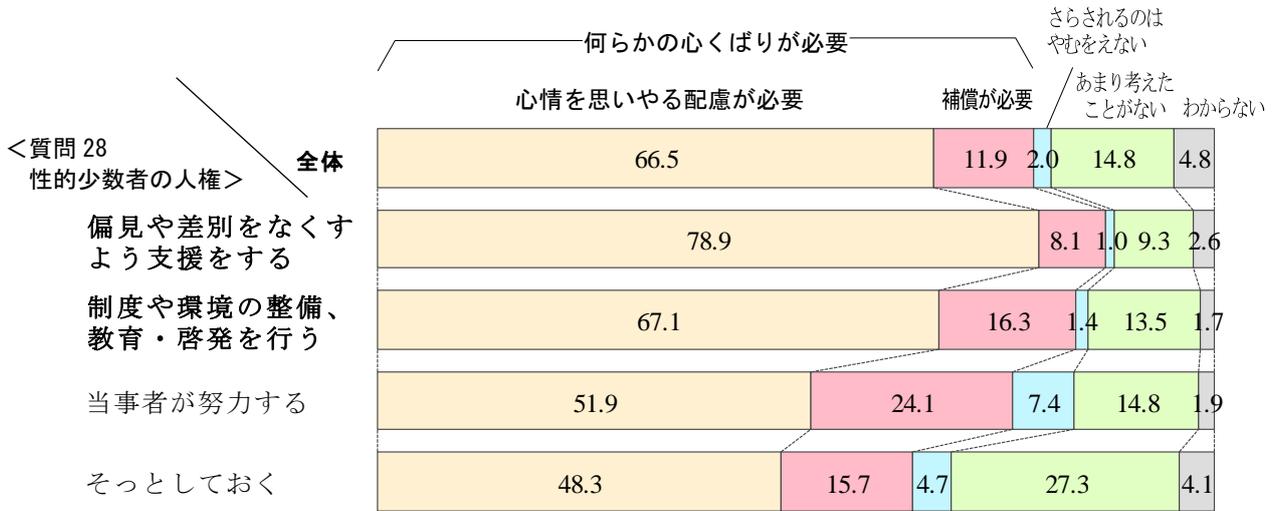
70代以上を除く、すべての世代において性的少数者の人権について前向きに対応する立場の人の割合が74％以上で高い。



クロス集計

性的少数者の人権について、前向きに対応する立場で考えている人ほど、犯罪被害者等への何らかの心くばりが必要だと考えている人の割合が高い。

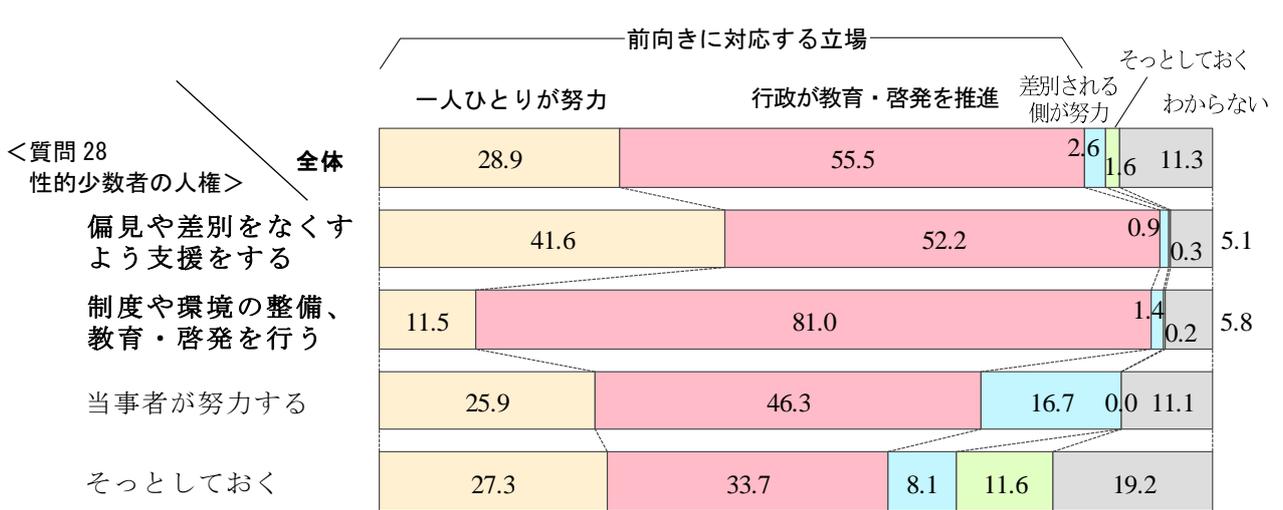
<質問24 犯罪被害者等の人権>



性的少数者の人権について、「偏見や差別をなくすよう支援をする」と答えた人の中で、犯罪被害者等へ「心情を思いやる配慮が必要」と答えた人は、78.9%で最も多い。  
 一方、性的少数者の人権について、「そっとしておく」と答えた人の中で、犯罪被害者等への人権について「あまり考えたことがない」と答えた人は、27.3%で多くなっている。

性的少数者の人権について、前向きに対応する立場で考えている人ほど、人権問題の解決の方策について「市民・行政・学校の努力が必要である」と答えた人の割合が高い。

<質問34 人権問題の解決の方策>



性的少数者の人権について、「偏見や差別をなくすよう支援をする」と答えた人の中で、人権問題の解決の方策について「一人ひとりが努力する」と答えた人は、41.6%で多い。  
 一方、性的少数者の人権について、「当事者が努力する」と答えた人の中で、人権問題の解決の方策についても「差別される側が努力」と答えた人は、16.7%で比較的多い。

## 29 アイヌの人々(アイヌ民族)の人権について

【質問29】 アイヌの人々の文化を保護し、人権を尊重する法律があります。アイヌの人々や文化について、あなたはどのように考えますか。あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. アイヌの人々は、日本の民族の一つであり、アイヌの人々の人権を守ることが大切である。
2. アイヌの人々の文化や伝統を大切に保存していく必要がある。
3. アイヌの人々と身近に接したことがなく、あまり考えたことがない。
4. 法律まで定めてアイヌの人々を支援するのは、理解できない。
5. わからない。

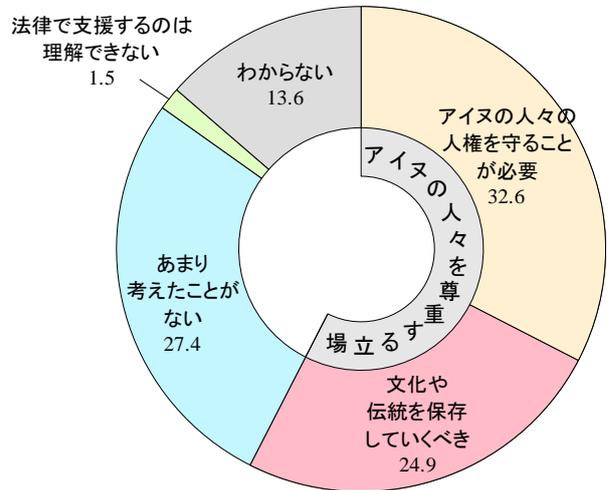
アイヌの人々(アイヌ民族)の人権についての意識の状況を調査した。(グラフの数字は%)

### 単純集計

57.5%の人が、アイヌの人々(アイヌ民族)の人権を尊重する立場で考えている。

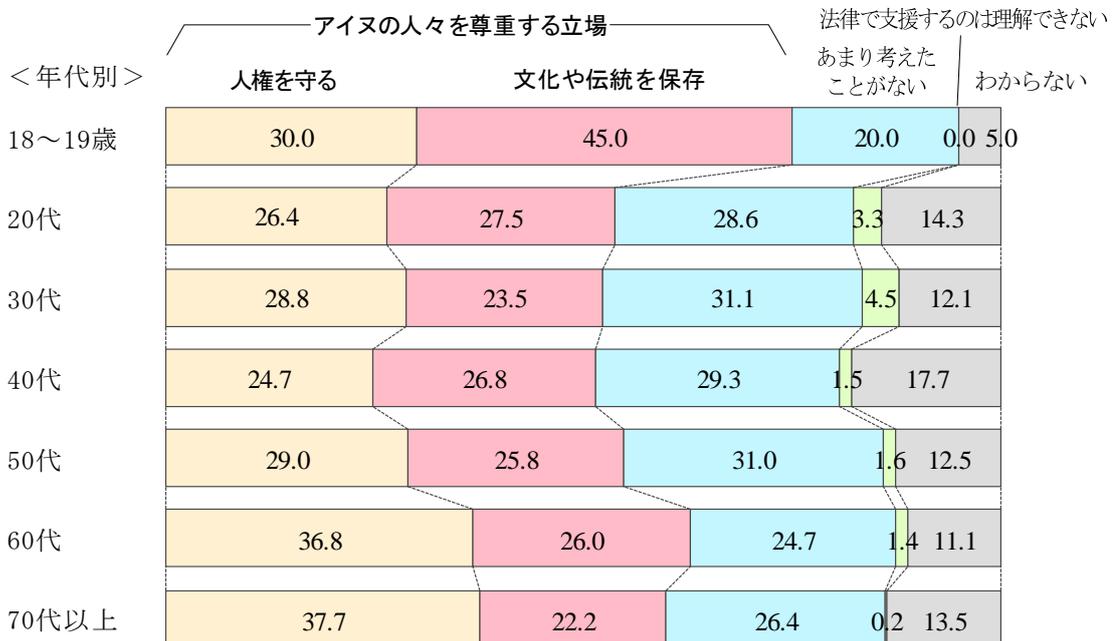
アイヌの人々(アイヌ民族)の文化の保護と人権の尊重について、「アイヌの人々の人権を守ることが大切」と答えた人は、32.6%で、「文化や伝統を大切に保存していくことが必要」と答えた人は、24.9%である。両者を合わせると57.5%の人が、アイヌの人々の人権を尊重する立場で考えている。

「あまり考えたことがない」と答えた人は、27.4%で、「法律まで定めて支援するのは、理解できない」と答えた人は、1.5%である。



### 年代別集計

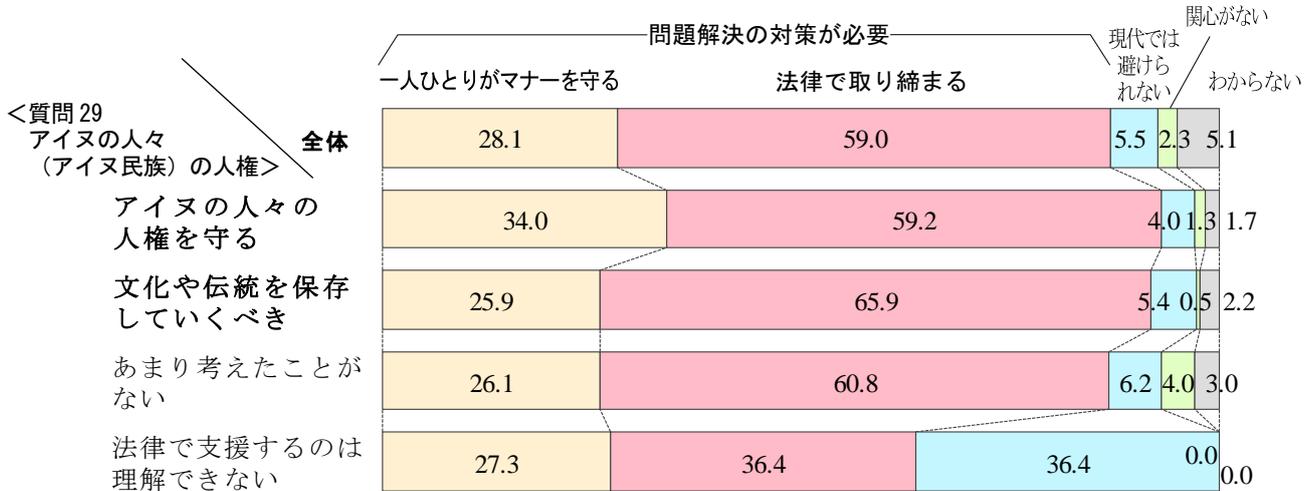
18~19歳、60代では、アイヌの人々の人権を尊重する立場で考えている人の割合が比較的高い。



クロス集計

アイヌの人々(アイヌ民族)の人権を尊重する立場で考えている人ほど、インターネットの悪用による人権侵害に対して、問題解決の対策が必要であるという立場で考えている人の割合が高い。

<質問26 インターネットの悪用による人権侵害>

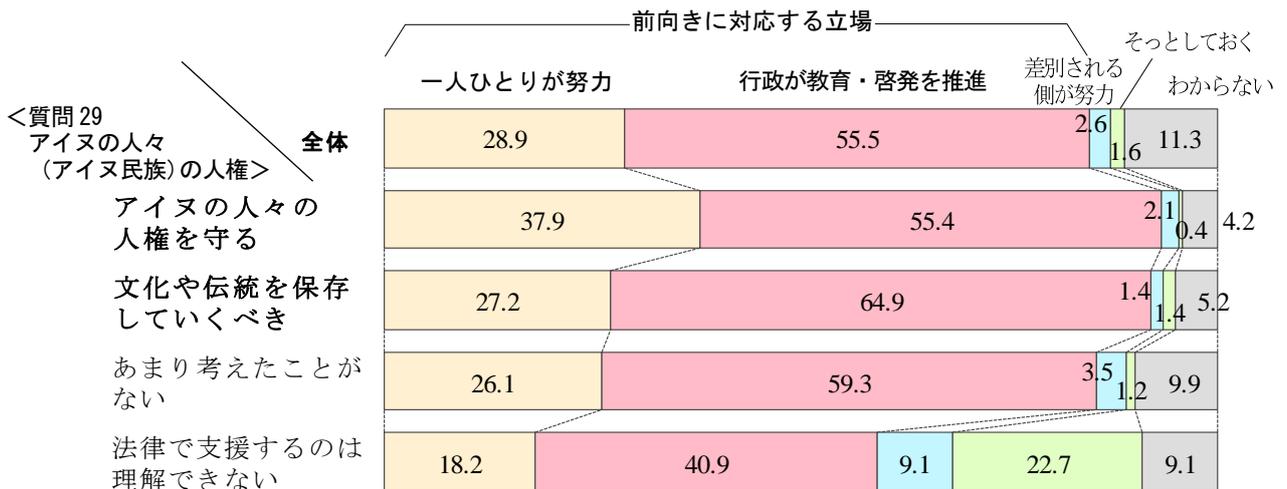


「アイヌの人々(アイヌ民族)の人権を守る必要がある」と「文化や伝統を保存していくべき」に答えた人の中で、インターネットの悪用による人権侵害に対して「一人ひとりがマナーを守る」「法律で取り締まる」と、問題解決の対策が必要であると答えた人は、共に90%以上となっている。

一方、アイヌの人々の人権について、「法律で支援するのは理解できない」と答えた人の中で、インターネットでの人権侵害に対して「現代では避けられない」と答えた人が、36.4%と多くなっている。

アイヌの人々(アイヌ民族)の人権を尊重する立場で考えている人ほど、人権問題の解決の方策に「市民・行政・学校の努力が必要」という立場で考えている人の割合が高い。

<質問34 人権問題の解決の方策>



「アイヌの人々(アイヌ民族)の人権を守る必要がある」と「文化や伝統を保存していくべき」に答えた人の中で、人権問題の解決の方策として「一人ひとりが努力」「行政が教育・啓発を推進」と、市民・行政・学校の努力が必要であると答えた人は、共に90%以上となっている。

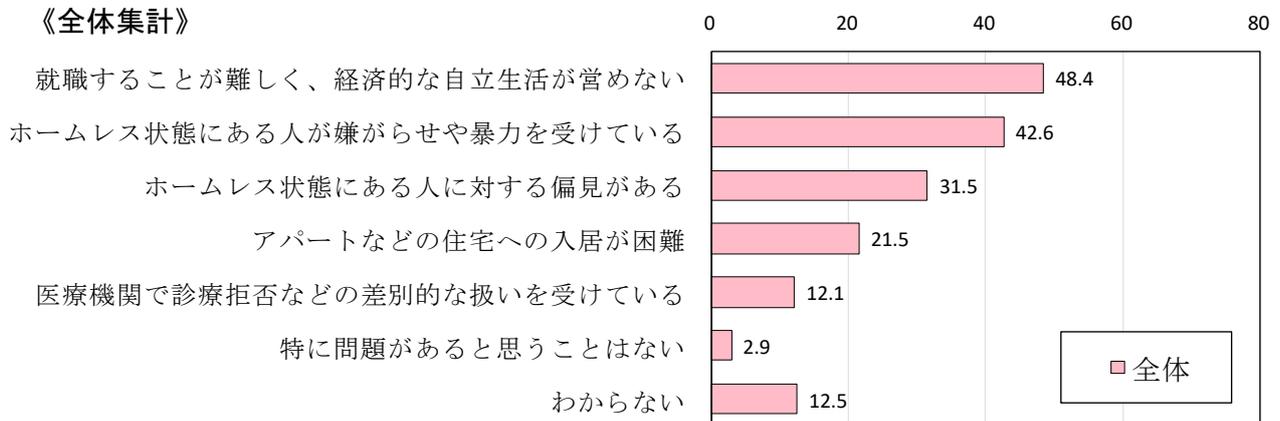
一方、アイヌの人々の人権について、「法律で支援するのは理解できない」と答えた人の中で、人権問題の解決の方策について「そっとしておく」と答えた人が、22.7%と多くなっている。

## 30 ホームレス状態にある人の人権問題について

【質問30】 ホームレス状態にある人の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。次の中から二つまで選んでください。

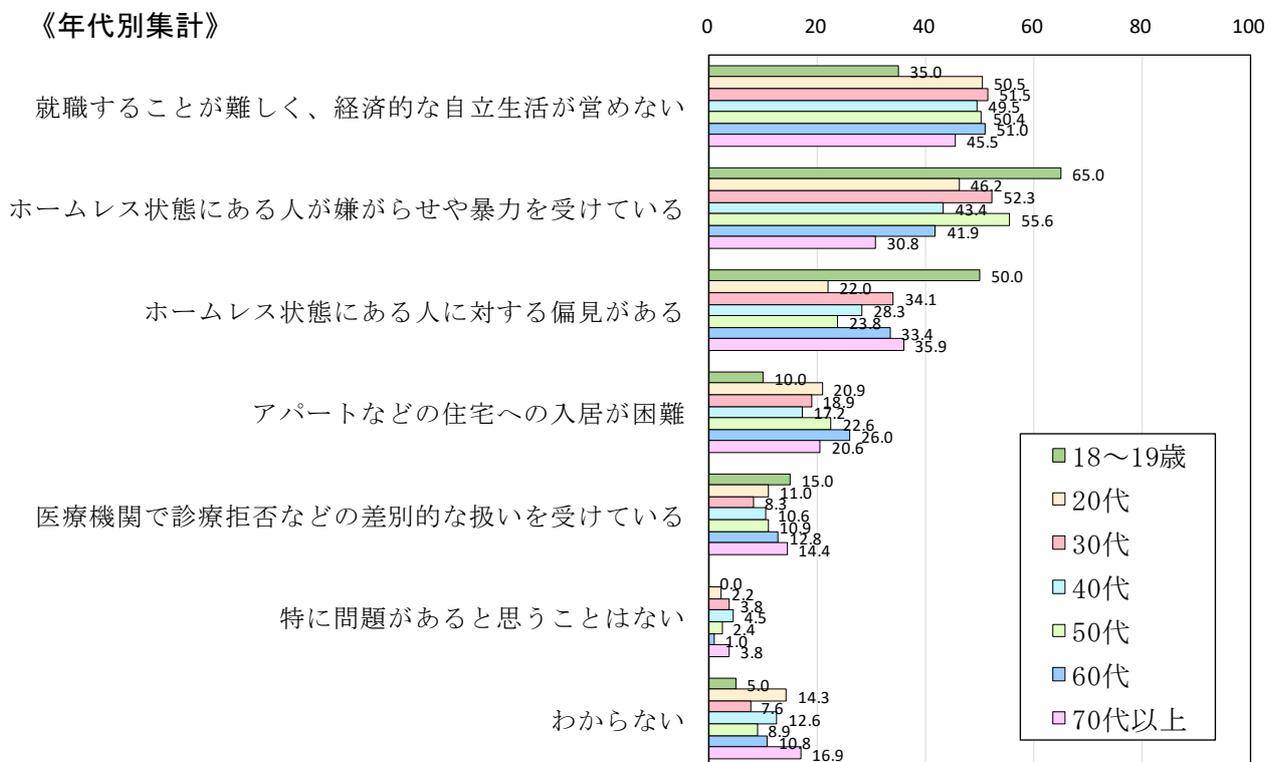
ホームレス状態にある人の人権問題についての意識の状況を調査した。(グラフの数字は%・複数回答)

### 《全体集計》



- ・「就職することが難しく、経済的な自立生活が営めない」と答えた人が48.4%、「ホームレス状態にある人が嫌がらせや暴力を受けている」と答えた人が42.6%、「ホームレス状態にある人に対する偏見がある」と答えた人が31.5%の順で特に問題があると考えている。

### 《年代別集計》



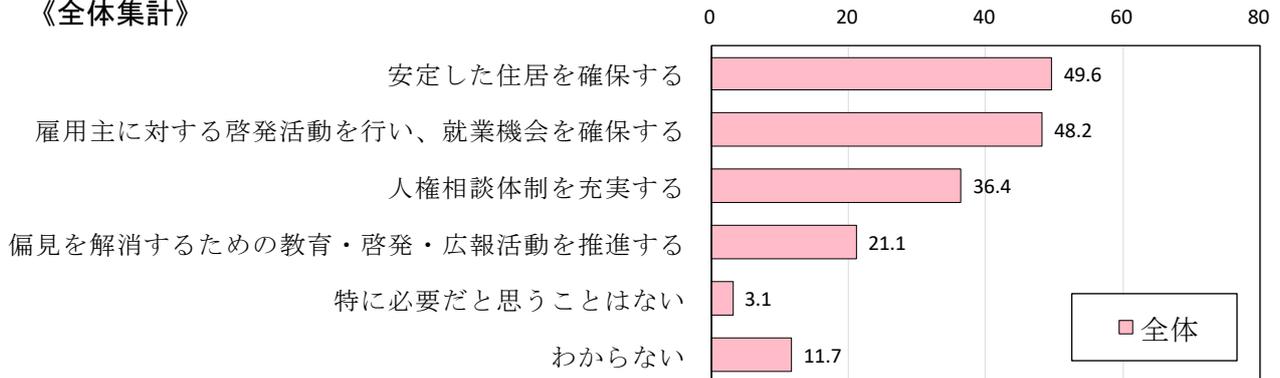
- ・20～60代では、「就職することが難しく、経済的な自立生活が営めない」と答えた人の割合が約5割となっている。

## 31 ホームレス状態にある人の人権問題の解決について

【質問31】 ホームレス状態にある人への人権問題を解決するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。次の中から二つまで選んでください。

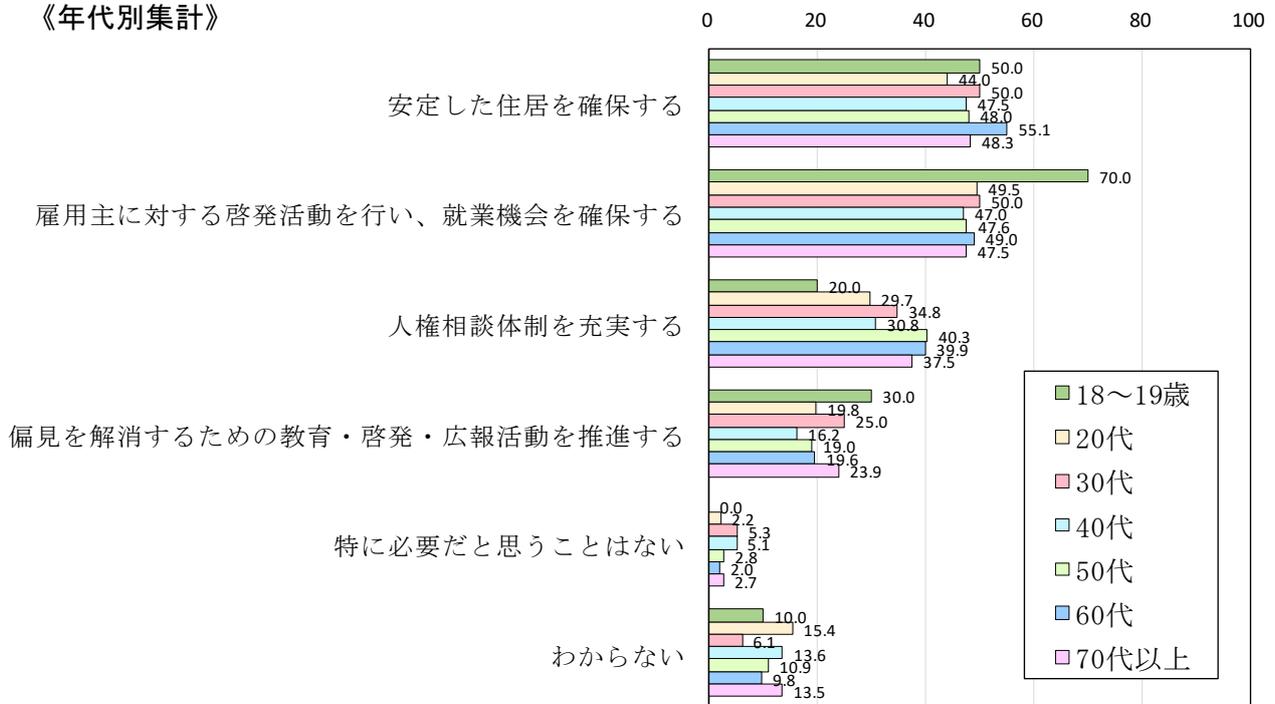
ホームレス状態にある人の人権問題の解決についての意識の状況を調査した。(グラフの数字は%・複数回答)

### 《全体集計》



- ・「安定した住居を確保する」と答えた人が 49.6%、「雇用主に対する啓発活動を行い、就業機会を確保する」と答えた人が 48.2%、「ホームレス状態にある人のための人権相談体制を充実する」と答えた人が 36.4%の順で特に必要であると考えている。

### 《年代別集計》



- ・「人権相談体制を充実する」については、年齢が高い世代ほど特に必要であると考えている。

## 32 職場での人権問題について

【質問32】 長時間労働による過労死や、職場におけるパワーハラスメントや、セクシュアルハラスメントなど、職場での人権問題が起きています。もし、このような職場での人権問題が起きた場合に、どのように行動しますか。あなたのとる行動に近いものを一つだけ選んでください。

1. 同じ職場の人と協力し、自分から職場での人権侵害をなくすよう働きかける。
2. 相談窓口などに通報したり、身近な人に相談したりする。
3. ある程度の問題が起きることはあると思うので、通報することや相談することをためらう。
4. 自分には関係がないので、そのままにしておく。
5. わからない。

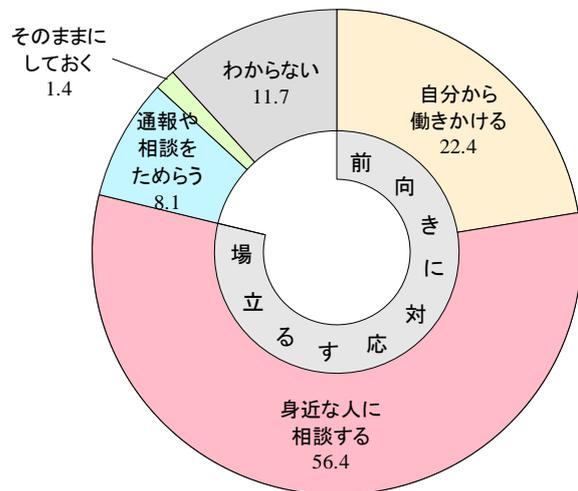
職場での人権についての意識の状況を調査した。(グラフの数字は%)

### 単純集計

約79%の人が、職場での人権問題に対して前向きに対応する立場で考えている。

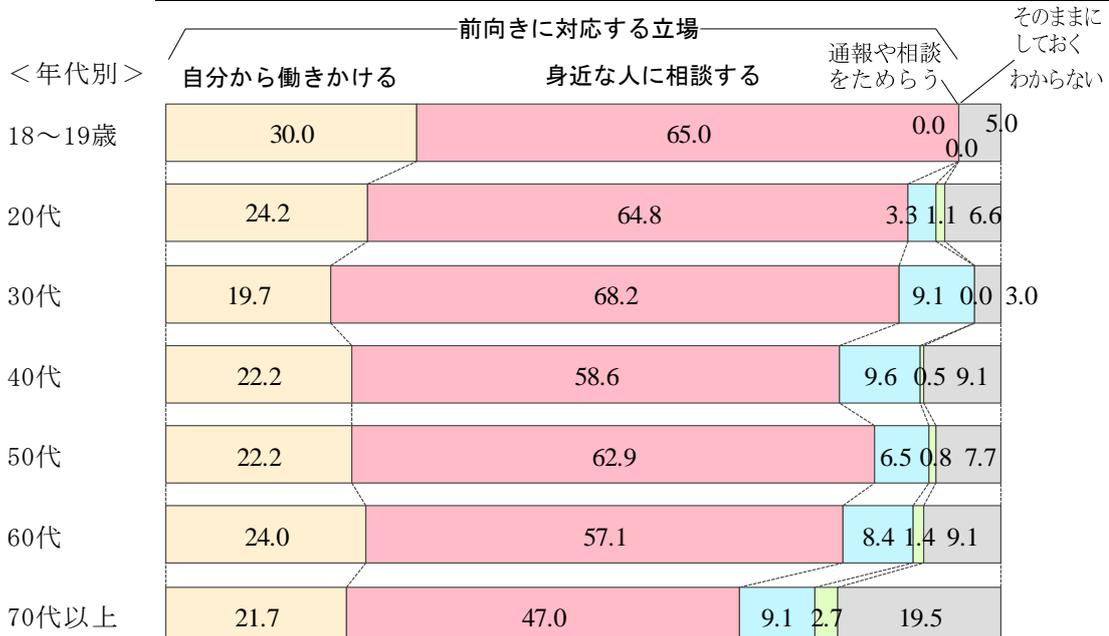
職場での人権問題について、「自分から働きかける」と答えた人は、22.4%で、「身近な人に相談する」と答えた人は、56.4%である。合わせて78.8%の人が、前向きに対応する立場で答えている。

「通報や相談をためらう」と答えた人は8.1%で、「自分には関係がないのでそのままにしておく」と答えた人は、1.4%である。



### 年代別集計

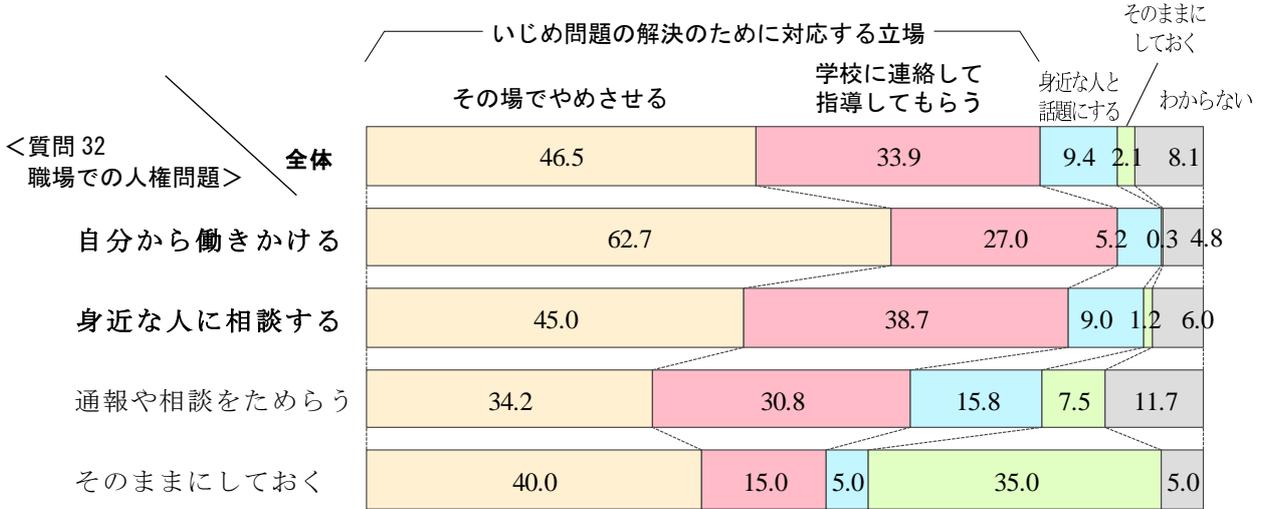
70代以上を除いて、すべての年代で前向きに対応する立場の考えの人の割合は、8割を超えている。



クロス集計

職場での人権問題について、前向きに対応する立場で考えている人ほど、子どものいじめ問題の解決のために対応する立場の人の割合が高い。

<質問5 子どもの人権（いじめの問題）>

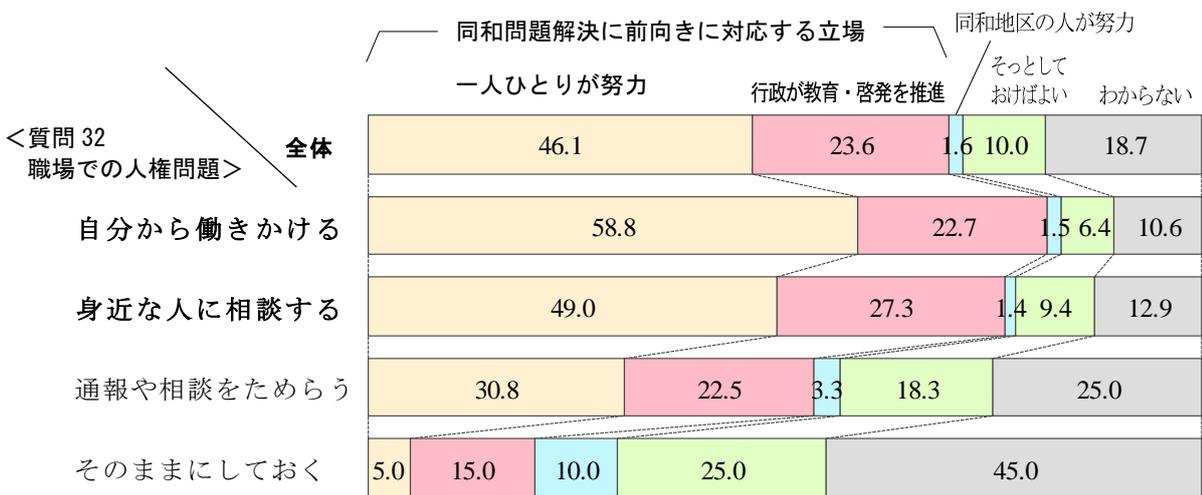


職場での人権問題について、「自分から働きかける」と答えた人の中で、子どものいじめ問題に対して「その場でやめさせる」と答えた人は、62.7%で最も多い。

一方、職場での人権問題について、「そのままにしておく」と答えた人の中で、子どものいじめ問題に対しても「そのままにしておく」と答えた人が、35.0%で最も多い。

職場での人権問題について、前向きに対応する立場で考えている人ほど、同和問題解決に前向きに対応する立場の人の割合が高い。

<質問15 同和問題解決の方策>



職場での人権問題について、「自分から働きかける」と答えた人の中で、同和問題への解決の方策として「一人ひとりが努力」と答えた人は、58.8%で最も多い。

一方、職場での人権問題について、「そのままにしておく」と答えた人の中で、同和問題の解決の方策としても「そっとしておけばよい」と答えた人が、25.0%で最も多い。

### 33 差別的な発言や行動に対しての態度について

【質問33】 かりに、あなたの身近な人が、質問32まででふれてきたような人権問題について差別的な発言や行動をした場合、あなたはどうしますか。あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. 自分で差別のまちがいを説明する。
2. 人権問題についてよく知っている人の助けを借りて、差別のまちがいを説明する。
3. 説明する自信がないので、迷う。
4. 自分には関係がないことだから、そのままにしておく。
5. わからない。

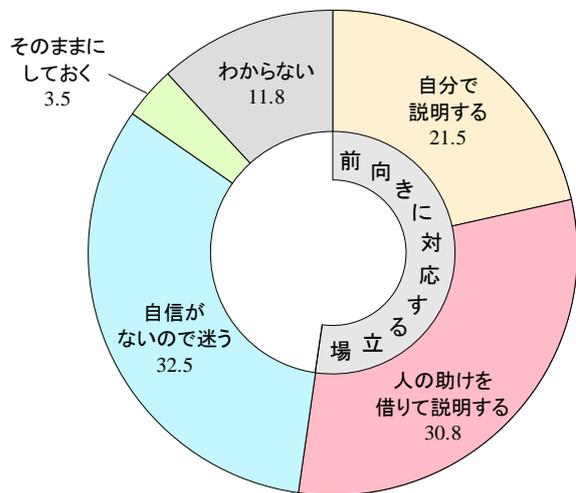
身近な人の差別的な言動に対する態度についての意識の状況を調査した。(グラフの数字は%)

#### 単純集計

約52%の人が、身近な人の差別的な言動に対して前向きに対応する立場で考えている。

身近な人の差別的な言動に対して、「自分でまちがいを説明する」と答えた人は、21.5%で、「人の助けを借りてまちがいを説明する」と答えた人は、30.8%である。合わせて52.3%の人が、前向きに対応する立場で答えている。

「自信がないので迷う」と答えた人は32.5%で、最も多く、「自分には関係がないのでそのままにしておく」と答えた人は、3.5%である。



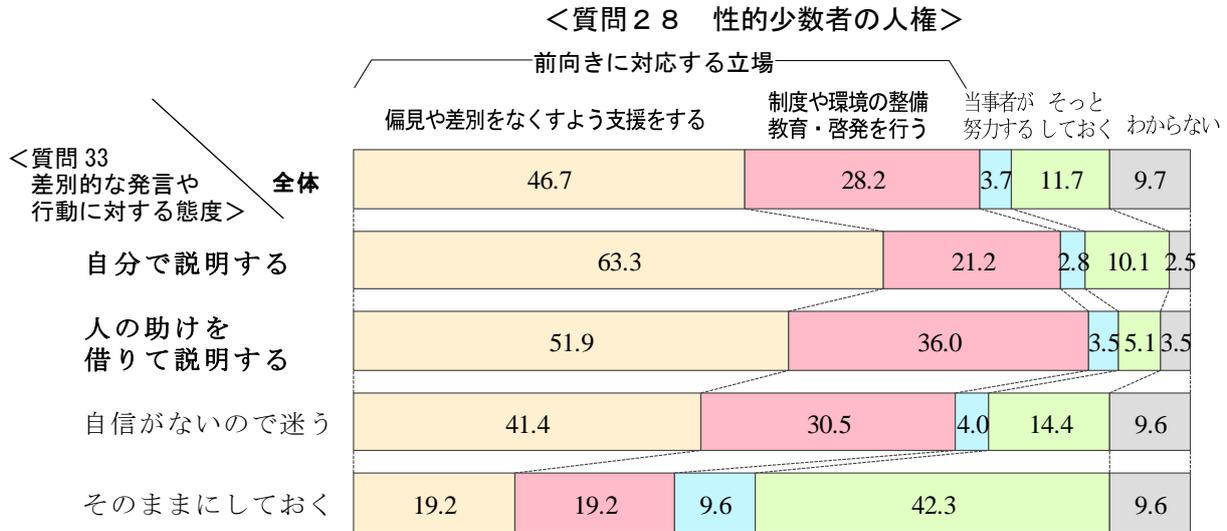
#### 年代別集計

若い世代ほど、「自分でまちがいを説明する」と答えた人の割合が高く、70代以上では他の年代と比べて低くなっている。



クロス集計

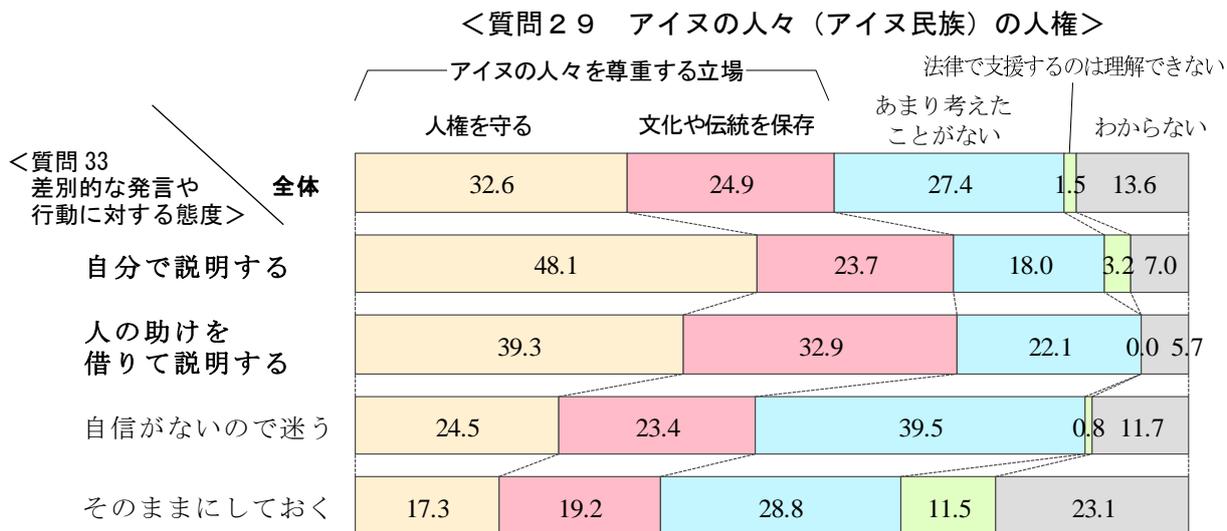
差別的な発言や行動について、「自分でまちがいを説明する」と答えた人の中で、性的少数者への「偏見や差別をなくすよう支援をする」と答えた人の割合が60%以上となっている。



差別的な発言や行動について、「自分で差別のまちがいを説明する」と答えた人の中で、性的少数者への「偏見や差別をなくすよう支援をする」と答えた人は、63.3%で最も多い。

一方、差別的な発言や行動について、「そのままにしておく」と答えた人の中で、性的少数者の人権についても「そっとしておく」と答えた人が、42.3%で最も多い。

差別的な発言や行動について、「自分でまちがいを説明する」と答えた人の中で、アイヌの人々(アイヌ民族)の「人権を守る」と答えた人の割合が48.1%で最も高い。



差別的な発言や行動について、「自分で差別のまちがいを説明する」と答えた人の中で、アイヌの人々(アイヌ民族)の「人権を守る」と答えた人は、48.1%で最も多い。

一方、差別的な発言や行動について、「そのままにしておく」と答えた人の中で、アイヌの人々(アイヌ民族)の人権については「法律で支援するのは理解できない」と答えた人が、11.5%で比較的多い。

## 34 人権問題の解決の方策について

【質問34】 あなたは、人権問題を解決するためには、今後どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. 市民一人ひとりが解決のために努力する。
2. 国・県・市などの行政や学校において、教育・啓発活動をねばり強く行う。
3. 差別される側の人たちが、努力する必要がある。
4. そっとしておけばよい。
5. わからない。

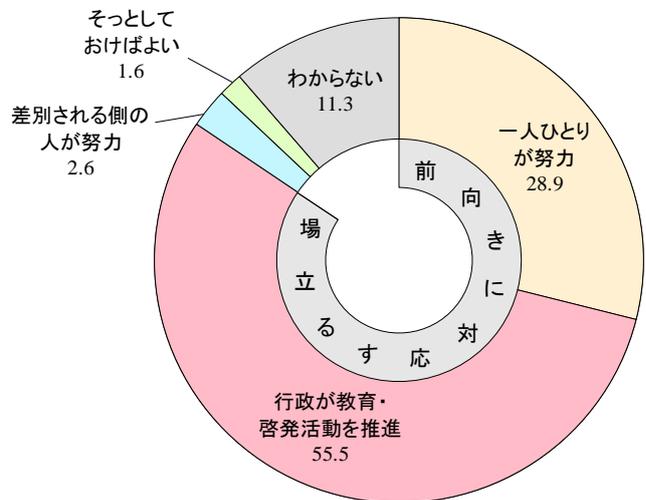
人権問題の解決の方策についての意識の状況を調査した。(グラフの数字は%)

### 単純集計

約84%の人が、人権問題の解決の方策について「市民・行政・学校の努力が必要」という立場で考えている。

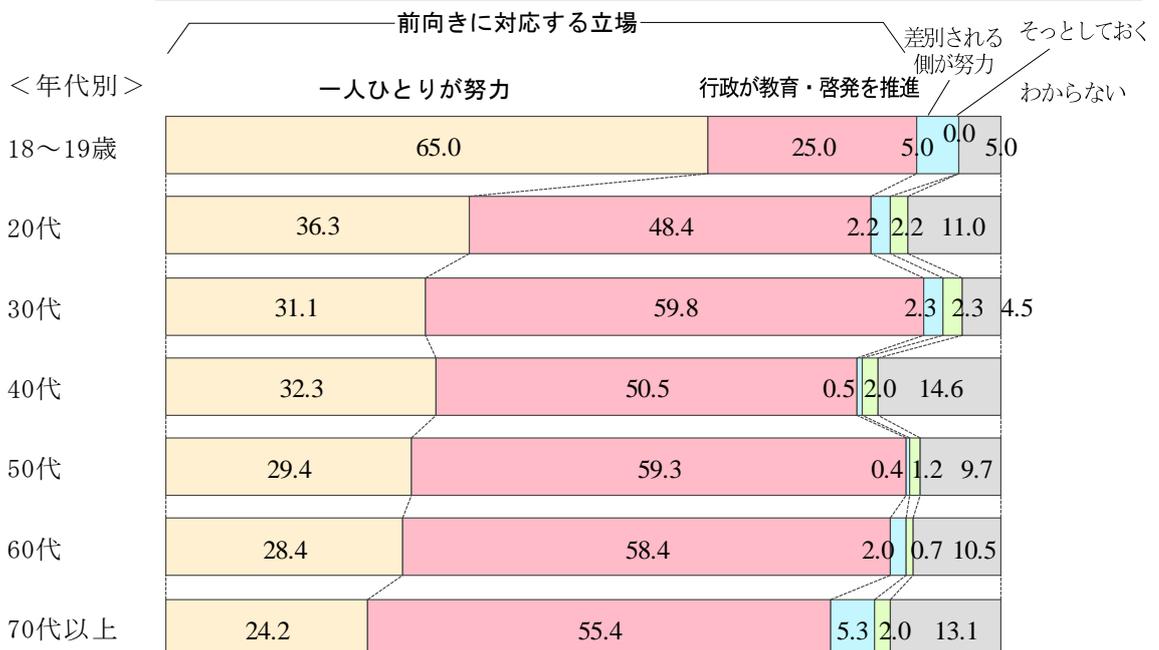
人権問題の解決の方策について、「市民一人ひとりの努力が必要」と答えた人は、28.9%で、「行政が教育・啓発を推進」と答えた人は、55.5%である。合わせて84.4%の人が、市民・行政・学校の努力が必要であると考えている。

「差別される側の人々が努力をすればよい」と答えた人は、2.6%で、「そっとしておけばよい」と答えた人は、1.6%である。



### 年代別集計

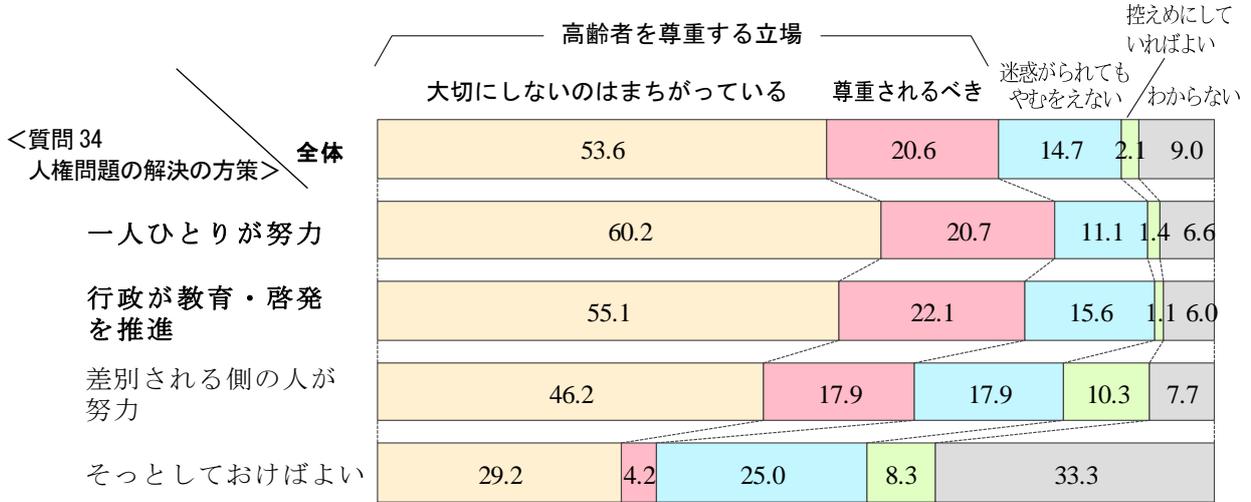
人権問題の解決の方策について、70代以上を除くすべての世代で「市民・行政・学校の努力が必要」という立場で考えている人の割合が、8割を超えている。特に30代では、90.9%で最も高い。



クロス集計

人権問題の解決の方策について、「市民・行政・学校の努力が必要」という立場で考えている人ほど、高齢者を尊重する立場の人の割合が高い。

<質問7 高齢者の人権>

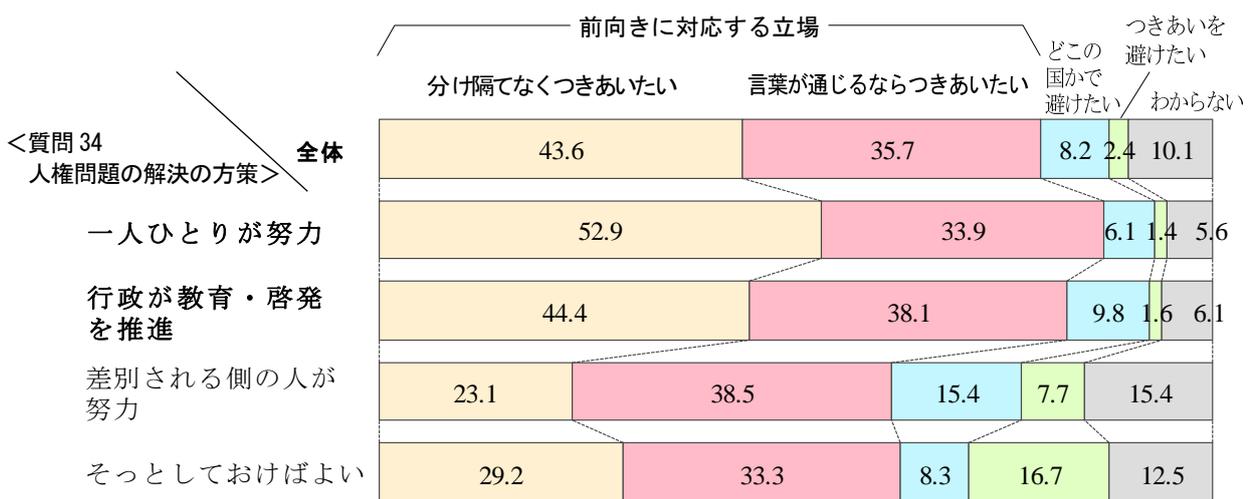


人権問題の解決の方策について、「一人ひとりが努力」と答えた人の中で、高齢者を「大切にしないのはまちがっている」と答えた人は、60.2%で最も多い。

一方、人権問題の解決の方策について、「そっとしておけばよい」と答えた人の中で、高齢者に対して「迷惑がられてもやむをえない」と答えた人が、25.0%で多くなっている。

人権問題の解決の方策について、「市民・行政・学校の努力が必要」という立場で考えている人ほど、外国人とのつきあいで前向きに対応する立場の人の割合が高い。

<質問18 外国人とのつきあい>



人権問題の解決の方策について、「一人ひとりが努力」と答えた人の中で、外国人と「分け隔てなくつきあいたい」と答えた人は、52.9%で最も多い。

一方、人権問題の解決の方策について、「そっとしておけばよい」と答えた人の中で、外国人とのつきあいについて「つきあいを避けたい」と答えた人が、16.7%で比較的多い。

## 35 人権に関する研修会への参加について

【質問35】 あなたは、過去3年間ぐらいの間に、人権問題に関する講演会や研修会への参加について、どのような対応をしてきましたか。一つだけ選んでください。

1. 自分の意思で参加してきた。
2. 職場や地域の参加割り当てなどがあるので、参加してきた。
3. 関心はあるが、参加する機会がなかった。
4. 関心がないので、参加しなかった。
5. 講演会、研修会自体を知らなかった。

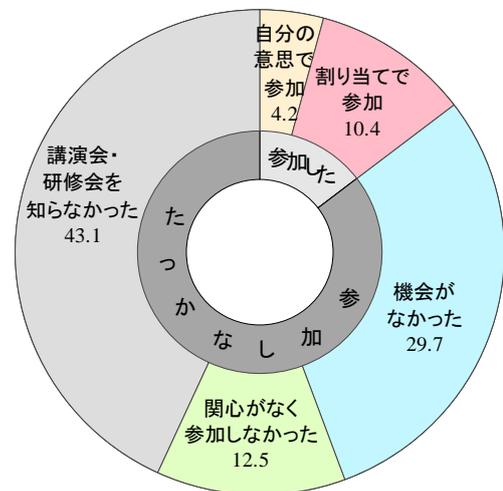
人権に関する研修会への参加についての意識の状況を調査した。(グラフの数字は%)

### 単純集計

約40%の人が、研修会への参加について「講演会・研修会を知らなかった」と答えている。

研修会への参加について、「自分の意思で参加」と答えた人は、4.2%で、「割り当てで参加」と答えた人は、10.4%である。合わせると、14.6%の人が、「研修会に参加した」と答えている。

「参加する機会がなかった」と答えた人は、29.7%で、「講演会・研修会を知らなかった」と答えた人は、43.1%で最も多い。「関心がないので、参加しなかった」と答えた人は、12.5%である。



### 年代別集計

人権に関する研修会への参加について、「関心はあるが、参加する機会がなかった」と答えた人の割合は、年代が上がるほど高い。

<年代別>	参加した		参加しなかった		
	自分の意思	割り当て	機会がなかった	関心なかった	講演会・研修会を知らなかった
18～19歳	5.0	15.0	25.0	5.0	50.0
20代	2.2	16.5	16.5	17.6	47.3
30代	1.5	15.9	17.4	13.6	51.5
40代	3.5	12.6	23.2	16.7	43.9
50代	4.5	9.3	30.5	9.8	45.9
60代	4.4	12.9	31.5	11.5	39.7
70代以上	5.3	5.1	37.6	11.8	40.3

## 36 「偏見・差別」の問題や「人権」に関する意見の記述

【質問36】 「偏見・差別」の問題や「人権」について、ご意見があればお書きください。

今回の「人権に関する市民意識調査」の回答の中で、「偏見・差別」及び「人権」の問題について、文章の記述があった人は、334人で、内容は359件でした。これらの意見については、今後の教育・啓発を推進する際の参考として活用します。

### 内容別件数

(1) 女性の人権問題	7件
(2) 子どもの人権問題	27件
(3) 高齢者の人権問題	4件
(4) 障がいのある人の人権問題	17件
(5) 部落差別（同和問題）	10件
(6) アイヌの人々の人権問題	0件
(7) 外国人の人権問題	8件
(8) 感染症患者・回復者等の人権問題	2件
(9) 刑を終えて出所した人の人権問題	2件
(10) 犯罪被害者等の人権問題	1件
(11) インターネットによる人権侵害	18件
(12) 性的少数者の人権問題	10件
(13) その他の人権問題	3件
(14) 人権全般	167件
(15) アンケートそのものについて	26件
(16) その他	57件

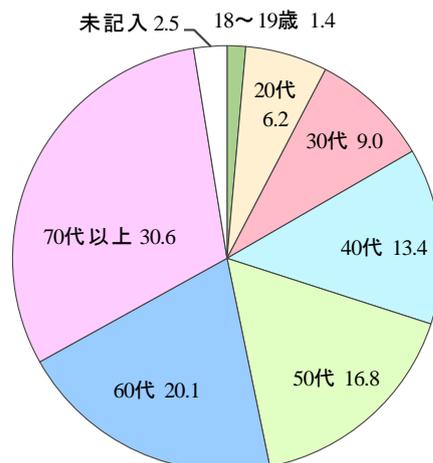
## 37 回答者の年代別集計

【質問37】 最後に、あなたの年齢についておたずねします。あてはまる番号を一つだけ選んでください。

回答者の年代別の状況を調査した。（グラフの数字は%）

### あなたの満年齢は？

- 1 18～19歳
- 2 20～29歳
- 3 30～39歳
- 4 40～49歳
- 5 50～59歳
- 6 60～69歳
- 7 70歳以上



# 人権に関する市民意識調査

令和5年7月  
岐阜市

## 調査ご協力のお願い

日頃から市政の推進にご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。  
21世紀は「人権の世紀」と言われています。

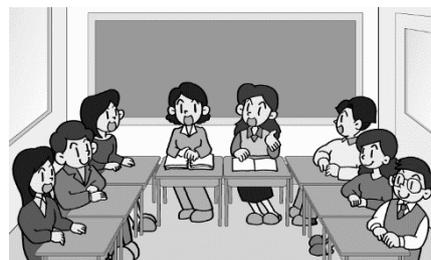
岐阜市は、令和2年に策定した「第3次岐阜市人権教育・啓発行動計画」に基づいて、人権尊重のまちをめざして、さまざまな取り組みを実施しています。

時代が大きく変化する中、「第3次岐阜市人権教育・啓発行動計画」の進捗状況を確認し、本市における人権教育・啓発に関わる施策を推進するにあたって、市民の皆様からのご意見をお尋ねするために、この調査を実施します。お答えいただいたお考えを大切に、岐阜市の人権教育・啓発に反映させていきたいと思っておりますので、日頃のお考えを率直にお聞かせくださいますようお願いいたします。

調査は、無作為に抽出された18歳以上の3,000名に調査票を郵送して、無記名で回答する方法で実施します。そのため、この調査によって、

- ① 個人が特定されたり、個人情報公表されたりすることは一切ありません。
- ② 調査目的以外には使用しません。

調査の結果につきましては、概要を「広報ぎふ」に掲載します。また、結果報告書を公民館等に配布する予定です。



### ご回答に際してのお願い(注意)

1. この調査は、封筒の宛名の方がお答えください。  
本人の回答が困難な場合は、家族などのご協力によりお答えください。
2. 郵送またはインターネットでのどちらかを選んでいただき、ご回答ください。

#### 郵送によりお答えいただく方

- ・質問は、人権問題別になっています。それぞれの人権問題について、あなたのお考えに近いものの番号を、□の中にご記入ください。
- ・記入後は無記名のまま、同封の返信用封筒に入れて、

**8月10日(木)までにポストに投函してください。**

アンケート返信用封筒に記載されている番号(3ケタ)は郵便整理番号であり、全員共通となっています。個人を識別するものではありません。

#### インターネットによりお答えいただく方

- ・お手持ちのパソコンまたはスマートフォンから下記URLを直接入力するか、または右記QRコードからアクセスして、ご回答ください。

URL: [https://ever-net.post-survey.com/gifu\\_jinken/](https://ever-net.post-survey.com/gifu_jinken/)

回答する際のIDとパスワードは下記のとおりです。

( ID 0000 ) ( パスワード aaaa )



■調査に関する問い合わせ 岐阜市市民協働推進部人権啓発センター  
電話 058-214-6119 直通

## <人権全般>

【質問1】 以下にあげた各人権問題の中で、あなたが現在関心をもっているものは、どの問題ですか。次の中から、関心があるものをいくつでも選んでください。

1. 女性の人権問題
2. 子どもの人権問題
3. 高齢者の人権問題
4. 障がいのある人の人権問題
5. 部落差別（同和問題）
6. アイヌの人々の人権問題
7. 外国人の人権問題（ヘイトスピーチを含む）
8. 感染症患者等の人権問題
9. ハンセン病回復者等の人権問題
10. 刑を終えて出所した人の人権問題
11. 犯罪被害者とその家族の人権問題
12. インターネットを悪用した人権侵害
13. 拉致問題（北朝鮮当局による人権侵害問題）
14. ホームレス状態にある人の人権問題
15. 性的少数者(\*)の人権問題
16. 人身取引（トラフィッキング）
17. 震災など災害に起因する人権問題
18. 特に関心をもっている問題はない

(\*)性的少数者とは、性的指向における少数者（同性愛者、両性愛者など）や、性自認における少数者（「身体の性」と「心の性」が一致しない状態の人—性別違和など）を指します。レズビアン／ゲイ／バイセクシャル／トランスジェンダーの頭文字をとってLGBTsと言われることもあります。

1
---

## <女性の人権>

【質問2】 家庭や地域、あるいは職場などにおいて、「女のくせに」と言われたり、「女性だから」ということで不利な扱いを受けたりする場面があることについて、あなたはどう考えますか。

あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

※【男女共同参画社会基本法】

1. 女性だからといって差別するようなことは、ぜひともなくすべきである。
2. 女性差別はよくないが、少しずつ改善していけばよい。
3. 男性と比べて、女性がいくらか不利な扱いを受けるのは、やむをえない。
4. 社会が男性中心に動いているので、女性が不利な扱いを受けるのは当然だ。
5. わからない。



2
---

## <女性の人権>

【質問3】 あなたの知り合いの女性から、パートナーに虐待されていると相談を受けた場合、あなたはどのように行動しますか。

あなたのとる行動に近いものを一つだけ選んでください。

- ※【虐待の例】
- ・身体的虐待（なぐる、けるなど）
  - ・心理的虐待（暴言や無視など）
  - ・社会的虐待（行動の監視や制限など）
  - ・性的虐待（性行為の強要など）
  - ・経済的虐待（生活費を渡さない、お金を取り上げるなど）

※【配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律】（DV防止法）

1. 被害を受けている女性の話をよく聞き、いっしょに解決しようとする。
2. 市の相談窓口や女性センターや警察など、関係機関に連絡する。
3. 家族や友人など、身近な人に相談する。
4. 話は聞くが、特に何もできない。
5. わからない。



3

## <子どもの人権>

【質問4】 子どもを取りまく環境には、いじめ、体罰、虐待など深刻な状況が見られます。そこで、子どもの人権を守るために、どのようなことが必要だと考えますか。

あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. 子どもも大人と同じように人権があるので、家庭・学校・地域の三者が連携して、子どもの成長を支える活動に取り組む。
2. 国・県・市などが、子どもの人権を守るための事業や啓発活動を推進する。
3. 子どもの人権というよりは、まず「しつけ」を重視する。
4. 特に必要だと思わない。
5. わからない。



4

<子どもの人権>

【質問5】 あなたが偶然、子どもたち同士の「いじめ」と受けとれるような場面に出会ったとき、どのように行動しますか。

あなたのとる行動に近いものを一つだけ選んでください。

※【いじめ防止対策推進法】

1. 子どもたちに声をかけ、その場でやめさせる。
2. 学校や市などの相談窓口で連絡して指導してもらう。
3. その場は何もしないが、身近な人との話題にする。
4. 自分には関係がないので、そのままにしておく。
5. わからない。

5
---

<子どもの人権>

【質問6】 あなたの身近に住む子どもが、虐待を受けている疑いがあると感じたとき、どのように行動しますか。

あなたのとる行動に近いものを一つだけ選んでください。

※【児童虐待の防止等に関する法律】（児童虐待防止法）

1. 迷わず市の相談窓口や警察、学校などに通報したり、民生委員・児童委員など、身近な人に相談したりする。
2. まず、自分で本人や家族から話を聞いてみる。
3. 虐待があることを確かめたわけではないので、通報することや相談することをためらう。
4. 他人の家庭のことに口を出さないほうがいいなどの理由から、そのままにしておく。
5. わからない。



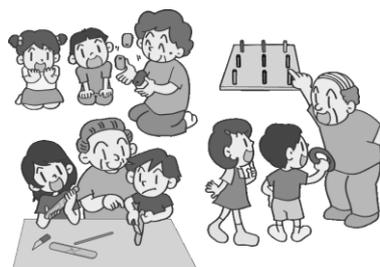
6
---

<高齢者の人権>

【質問7】 かりに、あなたの近所で、高齢者が大切にされていないことを聞いた場合、あなたはどのように考えますか。

あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. 高齢化による病気や障がいなどを理由に高齢者を大切にしないのは、まちがっている。
2. 高齢者は人生の先輩として尊重されるべきである。
3. 状況によっては、ある程度は迷惑がられてもやむをえない。
4. 高齢者は控えめにしていればよい。
5. わからない。



7
---

<高齢者の人権>

【質問8】 あなたの身近に住む高齢者が、家庭内や入所施設などで虐待を受けている疑いがあると感じたとき、どのように行動しますか。

あなたのとる行動に近いものを一つだけ選んでください。

※【高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律】（高齢者虐待防止法）

1. 迷わず、市の相談窓口や警察などに通報したり、民生委員・児童委員など、身近な人に相談したりする。
2. まず、自分で本人や家族、施設から話を聞いてみる。
3. 虐待があることを確かめたわけではないので、通報することや相談することをためらう。
4. 自分には関係がないので、そのままにしておく。
5. わからない。

8
---

<障がいのある人の人権>

【質問9】 国では、平成28年4月に、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（以下、「障害者差別解消法」と言います。）」が施行されました。

障害者差別解消法は、一人ひとりが障がいについて理解し、障がいを理由とした不当な区別や制限といった差別に気付き、障がいのある人もない人も分け隔てなく共に安心して暮らせる社会（＝共生社会）を実現することを目的として、障がいのある人に対する、行政機関（国・都道府県・市長村）や民間事業者（会社やお店等）による「不当な差別的取扱いの禁止」や「合理的配慮の提供（\*）」について定められています。

あなたは、この法律を知っていますか。次の中から一つだけ選んでください。

(\*)「合理的配慮の提供」とは、行政機関、会社、お店などの事業者に対し、障がいのある人から、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としているとの意見が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応することをいいます。（令和3年の法律改正により、3年以内に、行政機関だけでなく、事業者においても、「合理的配慮の提供」が義務付けられることとなります。）

1. 知っている。
2. 法律の名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない。
3. 知らない。

9

<障がいのある人の人権>

【質問10】 かりに、あなたの家の近くに障がいのある人が転居してこられた場合、障がいのある人とのつきあいについて、あなたはどのように考えますか。

あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

※【障害者基本法】

1. 障がいについて正しく理解し、分け隔てなくつきあいたい。
2. 障がいのあることは少し気になるが、できるだけつきあっていきたい。
3. 障がいの種類や程度を確かめ、場合によってはつきあいを避けたい。
4. 障がいのある人とのつきあいは極力避けたい。
5. わからない。



10

<障がいのある人の人権>

【質問 11】 あなたの身近に住む障がいのある人が、家庭内や入所施設などで虐待を受けている疑いがあると感じたとき、どのように行動しますか。

あなたのとる行動に近いものを一つだけ選んでください。

※【障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律】（障害者虐待防止法）

1. 迷わず、市の相談窓口や警察などに通報したり、民生委員・児童委員など、身近な人に相談したりする。
2. まず、自分で本人や家族、施設から話を聞いてみる。
3. 虐待があることを確認したわけではないので、通報することや相談することをためらう。
4. 自分には関係がないので、そのままにしておく。
5. わからない。

11

<障がいのある人の人権>

【質問 12】 あなたの身近に住む障がいのある人が、自立したり社会参加したりするためにはどうすればよいと考えますか。

あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

※【障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律】（障害者差別解消法）

1. 障がいの有無によって、制限されるのはおかしいので、障がいのある人も等しく社会参加できるよう、一人ひとりが積極的に配慮する。
2. 障がいのある人が社会参加しやすいように、制度や建物の設備や公共機関（交通機関、医療機関、教育機関、相談窓口など）を改善する。
3. 障がいがあるので、ある程度社会参加できなくてもがまんしてほしい。
4. 障がいのある人のことをそれほど考える必要はない。
5. わからない。

12

< 部落差別（同和問題） >

【質問 13】 あなたは、「部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）」（\*）を知っていますか。次の中から一つだけ選んでください。

（\*）「部落差別解消推進法」は、部落差別のない社会の実現を目指し、平成 28 年 12 月に施行されました。部落差別の解消に関する施策は、その必要性において国民一人ひとりの理解を深めながら、行われなければなりません。また、教育や啓発など、具体的な施策の実施に当たっては、地域社会の実情を踏まえるとともに、新たな差別を生むことがないように留意することが求められています。

1. 知っている。
2. 法律の名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない。
3. 知らない。

13

< 部落差別（同和問題） >

【質問 14】 あなたが部落差別（同和問題）をはじめて知ったのは、

（1）だれから（何から）ですか。

（2）1～7と答えた人は、どのような内容を知りましたか。

（1）だれから（何から）ですか。一つだけ選んでください。

1. 学校の授業で
2. 講演会・研修会などで
3. 家族（父母・祖父母・兄弟姉妹など）や親類の人から
4. 友人や近所の人から
5. 職場の人から
6. 新聞・本・広報誌・テレビ・ラジオ・映画などで
7. インターネットで
8. 聞いたことがない
9. おぼえていない

14-(1)

（2）1～7と答えた人は、どのような内容を知りましたか。一つだけ選んでください。

1. 偏見をもち、差別することは、不合理で、まちがっていることを知った。
2. 同和問題の正しい歴史について知った。
3. 偏見をもたれ、差別されることはやむをえないと聞いた。
4. あまりかかわらないほうがよいと聞いた。
5. わからない。

14-(2)

< 部落差別（同和問題） >

【質問 15】 同和問題について、あなたはどのように考えていますか。

あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

※【部落差別の解消の推進に関する法律】（部落差別解消推進法）

1. 同和問題解決のために、私たち一人ひとりが、正しく学び、理解を深める努力をする。
2. 同和問題解決のために、国・県・市が教育及び啓発をすすめる。
3. 差別をされる側の人たちが、努力する必要がある。
4. 特に取りあげないで、そっとしておけばよい。
5. わからない。

15

< 部落差別（同和問題） >

【質問 16】 かりに、あなたの家族（子・孫・兄弟姉妹など）が結婚しようとする相手が、同和地区と呼ばれてきた地域出身の人であることがわかったときに、あなたはどうしますか。

あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. 何も気にすることではないので、結婚に賛成する。
2. 少しは気になるが、結婚は当人同士の合意が尊重されるべきなので、本人の意志にまかせる。
3. 本人の意志にまかせるべきだとは思いますが、できることならやめてほしい。
4. 相手の出身地域が気になるので、結婚に反対する。
5. わからない。

16

<外国人の人権>

【質問 17】 あなたは、「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（ヘイトスピーチ解消法）」(\*)を知っていますか。

次の中から一つだけ選んでください。

(\*)「ヘイトスピーチ解消法」は、本邦外（外国）の出身であることを理由として排除することを扇動するような不当な差別的言動の解消を目指し、平成 28 年 6 月に施行されました。ヘイトスピーチをなくし、全ての人がお互いに人権や民族の違いを尊重し合って共生する社会を築いていくことが求められています。

1. 知っている。
2. 法律の名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない。
3. 知らない。

17

<外国人の人権>

【質問 18】 日本に定住する外国人が多くなり、日常生活の中で、外国人と接する機会が多くなっています。外国人とのつきあいについてどう考えますか。

あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. 民族・国籍や文化の違いを理解し、同じ人間として分け隔てなくつきあいたい。
2. 日本語・外国語にかかわらず、言葉が通じるならつきあいたい。
3. どの国（民族）の人かによって、場合によってはつきあいを避けたい。
4. つきあいを避けたい。
5. わからない。



18

### <外国人の人権>

【質問 19】 日本に定住する外国人が、差別的な言葉や行動の被害を受けている疑いがあると感じたとき、どのように行動しますか。

あなたのとる行動に近いものを一つだけ選んでください。

※【本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律】  
(ヘイトスピーチ解消法)

1. 同じ人間として分け隔てをすることはまちがっているので、差別的な言葉や行動をなくすよう働きかける。
2. 市の相談窓口や警察などに通報したり、民生委員・児童委員などの身近な人に相談したりする。
3. 偏見や差別があることはしかたがないと思うので、通報することや相談することをためらう。
4. 自分には関係がないので、そのままにしておく。
5. わからない。

19

### <エイズ患者・H I V感染者等の人権>

【質問 20】 エイズ患者・H I V感染者に対する差別をなくす取り組みが進められています。かりに、あなたと身近に接している人がH I V感染者であることがわかった場合、あなたはどのようにしますか。

あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. その人の気持ちを理解し、支援できることがあれば支援したい。
2. 感染症についての正しい知識を身につけたい。
3. 当事者から直接相談がなければ、そっとしておく。
4. 自分に感染しないかと気がかりなので、あまりかかわらないようにする。
5. わからない。

20

<ハンセン病回復者等の人権>

【質問 21】 「ハンセン病回復者とその家族」に対する差別が、今なお残っています。

このことについて、あなたはどのように考えますか。

あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

※【ハンセン病問題の解決の促進に関する法律】（ハンセン病問題基本法）

1. ハンセン病患者・回復者を隔離していたことはまちがいなので、差別をなくするために必要なことがあれば協力していきたい。
2. 「ハンセン病」やその回復者の人たちのことについて学習したい。
3. 身近な問題として直面したときに考える。
4. あまりかかわらないようにする。
5. わからない。

21
----

<新型コロナ感染者等の人権>

【質問 22】 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。次の中から三つまで選んでください。

1. 医療機関やその従事者、家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること。
2. 医療機関やその従事者、家族が出勤、登校等を拒否されること。
3. 感染者やその家族がうわさをされたり、誹謗中傷を受けたりすること。
4. 感染者やその家族が出勤、登校等を拒否されること。
5. 感染者が発生した学校・店舗やその関係者等が誹謗中傷を受けたり、営業が妨げられたりすること。
6. 感染者やその関係者等に関して、個人情報や誹謗中傷・デマがインターネット・SNS上に拡散されること。
7. 外国人であることを理由として、不当な取り扱いをされること。
8. 県外居住者や県外からの移動者が嫌がらせを受けたり、非難されたりすること。
9. 様々な事情により感染症対策等（マスクの着用、手指の消毒、ワクチン接種等）をとれない・とらない人が不当な取り扱いをされたり、誹謗中傷を受けたりすること。
10. 特に問題があると思うことはない。
11. わからない

22		
----	--	--

＜刑を終えて出所した人の人権＞

【質問 23】 刑を終えて出所した人が同じあやまちをせず、社会復帰を図るためには、どうすればよいと考えますか。

あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

※【再犯の防止等の推進に関する法律】（再犯防止推進法）

1. 社会復帰を願う人に対する誤った認識や偏見をもたず、更生して自立できるように支援する。
2. 行政などが、住居や就職先について相談に応じる。
3. 罪を犯した責任があるので、本人が努力をする。
4. 自分には関係のないことなので、そっとしておく。
5. わからない。

23

＜犯罪被害者等の人権＞

【質問 24】 犯罪の被害にあった人やその家族が、社会の理解不足から好奇の目にさらされて苦しんだり、被害によって経済的に困ったりすることがあります。このことについて、あなたはどのように考えますか。

あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

※【犯罪被害者等基本法】

1. マスコミ報道をはじめ、社会全体や一人ひとりが、心情を思いやる配慮をすることが大切である。
2. まず、犯罪の被害に対しての補償が必要である。
3. 好奇の目にさらされたりすることはある程度やむをえない。
4. そうした人がまわりにいないので、あまり考えたことがない。
5. わからない。



24

<インターネットを悪用した人権侵害>

【質問 25】 インターネットによる人権侵害について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。次の中から二つまで選んでください。

1. 他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現などの人権を侵害する情報を掲載すること。
2. SNSにおける交流や出会い系サイトなどが犯罪を誘発する場となっていること。
3. 被害者や加害者の実名や顔写真等の情報を無断で掲載すること。
4. ネットポルノ(\*)が存在すること。
5. 個人情報などが流出していること。
6. リベンジポルノ(\*)の被害にあうこと。
7. 過去の犯罪歴や悪ふざけの記録が、将来にわたってインターネット上に掲載され続けること。
8. 特に問題があると思うことはない。
9. わからない。

\* ネットポルノ =インターネットを経由して視聴することができる、性的興奮を起こさせることを目的としたエロチックな行為を文章または絵、動画などで表現したもの

\* リベンジポルノ=離婚した元配偶者や別れた元交際相手が、相手から拒否されたことの仕返しとして、相手の裸の写真や動画、それに関する記事など、相手が公開するつもりのない私的な性的情報を無断でインターネット上に公開したり公開すると脅したりする行為

25	
----	--

<インターネットを悪用した人権侵害>

【質問 26】 インターネットを使って人を中傷したり、プライバシーをあばきたてたり、差別をあおるような文書を流したりすることが増えています。  
あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. 一人ひとりがマナーを守り、そうしたことをしないようにする。
2. 法律できちんと取り締まる。
3. インターネットが普及した現代では、そういうことは避けられないことである。
4. あまり自分にはかかわりがないので関心がない。
5. わからない。



26
----

<性的少数者の人権>

【質問 27】 日頃から親しくつきあっている友人や職場の人、近所の人、性的指向が少数派である人（同性愛者、両性愛者、無性愛者など）や性別違和を感じている人であることがわかったとき、あなたはどうしますか。

あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

- ※ 性的指向＝恋愛・性愛がどういう対象に向かうのかということ
- ※ 性自認＝自分は「男性である」「女性である」という自己認識のこと
- ※ 性別違和＝出生時に割り当てられた性別（戸籍上の性別、身体の性別）と「自認する性別」が一致しない状態

1. これまでと変わらず同じようにつきあっていく。
2. 少しは気になるが、つきあいは変わらない。
3. 表面的にはつきあうが、できるだけつきあいを避けていく。
4. つきあいをやめてしまう。
5. わからない。

27

<性的少数者の人権>

【質問 28】 性的指向が少数派である人（同性愛者、両性愛者、無性愛者など）や性別違和を感じている人が、自分らしく生きることのできる多様性を認める社会をつくるためには、どうすればよいと考えますか。

あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. 市民一人ひとりが、性の多様性について正しく理解し、偏見や差別をなくすよう支援をする。
2. 国・県・市などの行政や学校が、制度や環境を整えたり、教育・啓発を行ったりする。
3. 当事者の人たちが、努力する必要がある。
4. そっとしておけばよい。
5. わからない。

28

<アイヌの人々の人権>

【質問 29】 アイヌの人々の文化を保護し、人権を尊重する法律があります。アイヌの人々や文化について、あなたはどのように考えますか。

あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

※【アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律】  
（「アイヌ民族支援法」(アイヌ新法)）

1. アイヌの人々は、日本の民族の一つであり、アイヌの人々の人権を守ることが大切である。
2. アイヌの人々の文化や伝統を大切に保存していく必要がある。
3. アイヌの人々と身近に接したことがなく、あまり考えたことがない。
4. 法律まで定めてアイヌの人々を支援するのは、理解できない。
5. わからない。

29
----

<ホームレス状態にある人の人権問題>

【質問 30】 ホームレス状態にある人の人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。次の中から二つまで選んでください。

※【ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法】（ホームレス自立支援法）

1. ホームレス状態にある人に対する偏見がある。
2. ホームレス状態にある人が嫌がらせや暴力を受けている。
3. 医療機関において、診療拒否などの差別的な扱いを受けている。
4. 就職することが難しく、経済的な自立生活が営めない。
5. アパートなどの住宅への入居が困難。
6. 特に問題があると思うことはない。
7. わからない。

30	
----	--

<ホームレス状態にある人の人権問題>

【質問 31】 ホームレス状態にある人への人権問題を解決するためには、特にどのようなことが必要だと思えますか。次の中から二つまで選んでください。

1. ホームレス状態にある人に対する偏見を解消するための教育・啓発・広報活動を推進する。
2. 安定した住居を確保する。
3. 雇用主に対する啓発活動を行い、就業機会を確保する。
4. ホームレス状態にある人のための人権相談体制を充実する。
5. 特に必要だと思わない。
6. わからない。

31	
----	--

### <職場の人権>

【質問 32】 長時間労働による過労死や、職場におけるパワーハラスメント、セクシュアルハラスメントなど、職場での人権問題が起きています。もし、このような職場での人権問題が起きた場合に、どのように行動しますか。

あなたのとる行動に近いものを一つだけ選んでください。

※【労働施策の総合的な推進並びに労働者の雇用の安定及び職業生活の充実等に関する法律】  
(労働施策総合推進法(パワハラ防止法))

1. 同じ職場の人と協力し、自分から職場での人権侵害をなくすよう働きかける。
2. 相談窓口などに通報したり、身近な人に相談したりする。
3. ある程度の問題が起きることはあると思うので、通報することや相談することのためらう。
4. 自分には関係がないので、そのままにしておく。
5. わからない。

32

### <差別的な発言や行動に対する対処>

【質問 33】 かりに、あなたの身近な人が、質問 32 まででふれてきたような人権問題について差別的な発言や行動をした場合、あなたはどのようにしますか。

あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. 自分で差別のまちがいを説明する。
2. 人権問題についてよく知っている人の助けを借りて、差別のまちがいを説明する。
3. 説明する自信がないので、迷う。
4. 自分には関係がないことだから、そのままにしておく。
5. わからない。

33

### <人権問題の解決>

【質問 34】 あなたは、人権問題を解決するためには、今後どのようなことが必要だと思いますか。

あなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。

1. 市民一人ひとりが解決のために努力する。
2. 国・県・市などの行政や学校において、教育・啓発活動をねばり強く行う。
3. 差別される側の人たちが、努力する必要がある。
4. そっとしておけばよい。
5. わからない。

34



【質問 37】 最後に、あなたの年齢についておたずねします。あてはまる番号を一つだけ選んでください。

あなたの満年齢は？

1. 18～19歳
2. 20～29歳
3. 30～39歳
4. 40～49歳
5. 50～59歳
6. 60～69歳
7. 70歳以上

37

**\* 質問は以上です。**

**ご多用のところ、ご協力いただきありがとうございました。**

同封の返信用封筒に入れて、ご返送ください。

切手をおはりいただく必要はありません。

※インターネットによりお答えいただいた方は、本用紙をご返送いただく必要はありません。

この調査は、調査目的以外には使用しません。また、無記名回答のため、個人が特定されたり、個人情報公表されたりすることは一切ありません。



---

# 「共に生き合う」まちづくり

## 第9回「人権に関する市民意識調査結果」まとめ

---

2024 (R6) 年3月 発行

監 修 桑 原 律

発行 岐阜市市民協働推進部人権啓発センター  
〒500-8701 岐阜市司町 40 番地 1  
電話 058-214-6119 (直通)

